

国土技術政策総合研究所資料

TECHNICAL NOTE of
National Institute for Land and Infrastructure Management

No. 559

January 2010

朝市の現状基礎分析 －沿岸域の地域活性化に向けて－

森本剣太郎・鈴木 武

A Basic Analysis of Current Morning Markets
- Toward Revitalization of Coastal Area -

Kentaro MORIMOTO, Takeshi SUZUKI

国土交通省 国土技術政策総合研究所

National Institute for Land and Infrastructure Management
Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism, Japan

朝市の現状基礎分析

ー沿岸域の地域活性化に向けてー

森本剣太郎*・鈴木 武**

要 旨

近年、わが国の地方経済は悪化の一途をたどり早急な地域振興策が望まれている。また、人々の食の安全・安心への関心や地産地消への気運も高まっており、「地域食」を地域資源活用策とした取り組みが見られるようになった。そこで本研究では沿岸域の地域振興策の一つとして朝市に注目した。そこで、5つの朝市について現地確認踏査と、主催者、消費者や出店者へのアンケート調査を実施し、朝市の開催実態を調べた。また、踏査した5つの朝市に限らず一般的な朝市を把握するための文献調査より開市情報を分析し、朝市の現状基礎分析と考察した。

その結果、以下に記す結論を導いた。

- ① 沿岸域の5つの朝市について情報を収集し、それぞれの朝市について整理・分析した。
- ② 朝市は、六斎市や曜日市、生活型朝市や観光型朝市など様々なタイプがあることを確認した。
- ③ 現在の朝市は週末市、特に日曜日市が主流であり、また開市場所や取り扱い品目等の特徴を得た。
- ④ 朝市のより一層のにぎわい創出に向けて考察した。

キーワード：朝市、地域活性、にぎわい、地産地消

*沿岸海洋研究部沿岸域システム研究室 研究官

**沿岸海洋研究部沿岸防災研究室 室長

〒239-0826 横須賀市長瀬3-1-1 国土交通省国土技術政策総合研究所

電話：0468-44-5025 Fax：0468-44-5074 e-mail: morimoto-k92y2@ysk.nilim.go.jp

A Basic Analysis of Current Morning Markets - Toward Revitalization of Coastal Area -

Kentaro MORIMOTO*

Takeshi SUZUKI**

Synopsis

The local economy in Japan is hoping for the immediate regional promotion plan to revitalize the local economy because of its deterioration. There is the increasing momentum toward food security or local production for local consumption and “regional gourmet food” has been noticed a measures of regional resource. Thus, we suggest "Morning Market" as one of a method for the local revitalization. The present research deals with examine of the present morning market and its consideration with the field investigation and the literature research.

. The following results were achieved.

- 1) We gathered and analyzed the basic information at the five morning markets in the coastal area.
- 2) The existence of various types of morning markets became clear.
- 3) Present morning market is mainly held on Sunday and its characteristics of the location and item goods, etc.
- 4) We showed how to bring more fascination in morning markets.

Key Words : morning market, local revitalization, fascination, local production for local consumption

* Researcher of Coastal Zone System Division, Coastal and Marine Department

** Head of Researcher of Coastal Disaster Prevention Division, Coastal and Marine Department

3-1-1 Nagase, Yokosuka, 239-0826 Japan

Phone : +81-468-44-5025 Fax : +81-468-44-5074 e-mail:morimoto-k92y2@ysk.nilim.go.jp

目 次

1. はじめに	1
2. 研究対象の朝市について	1
2.1 朝市などの定期市の定義と種類	1
2.2 朝市や定期市の既往研究	3
3. 本研究の対象朝市の概要	4
3.1 対象朝地の選定と調査概要	4
3.2 金田湾の朝市	4
3.3 佐世保の朝市	6
3.4 呼子の朝市	9
3.5 勝浦の朝市	11
3.6 御宿の朝市	13
3.7 朝市の組織体制や負担金額	14
(1) 各朝市の組織体制	14
(2) 各朝市の出店料などの負担	16
4. 消費者と出店者へのアンケート調査	17
4.1 アンケート調査方法と質問内容	17
4.2 朝市に訪れた消費者へのアンケート調査の結果	17
4.3 朝市の出店者へのアンケート調査の結果	22
5. 定期市が盛んな地域の朝市特性	28
5.1 一般的な「朝市」とは	28
5.2 一般的な「朝市」の調査方法	28
5.3 一般的な「朝市」の結果	29
6. 結論と議論	32
7. おわりに	34
謝辞	34
参考文献	34
付録	37

1. はじめに

1990年代以降、わが国の地方経済は悪化の一途をたどり、2006年に北海道夕張市が財政再建団体に転落し、多数の早期健全化団体となった地方自治体もあり、地方自治体の深刻な財政状況が浮き彫りとなった。特に地方部においては、急速な少子高齢化の進行と若年層の流出も相まって人口減少に歯止めが利かず、地域活力や賑わいの低下が顕在化しており、早急な魅力ある地域振興策が望まれている。また沿岸に係わりの大きい水産業では、水産資源水準の低迷に伴う漁獲高の減少、輸入水産物の増加が国産水産物の価格形成に与える影響、大型小売店の台頭と流通取引構造の変化、国内水産消費量の縮小、燃料価格や水産用生産資材の価格高騰など多数の要因が幾重にも重なって、漁労所得の低水準や漁協経営の約3/4の赤字化など、水産業が多くを占める地域ではより深刻な状況に陥っている。

そんな中、政府は2005年10月に食育基本法を成立させた。この法律は国民の食への関心の欠如、偏食、肥満、生活習慣病（癌、糖尿病など）や過度の痩身の増加、伝統的な食文化の喪失、食の安全問題、食の海外依存など諸問題の対策として、国民運動として「食育」を強力に推進するために制定された。また、2008年10月に観光庁は、文化的交流と楽しさを享受し合うだけでなく、生活の質の充実を担い、地域の魅力に気づき誇りを持つなどを含んだ「住んでよし、訪れてよしの国づくり」を基本として発足し、住民主導のもとに地域資源を活かした持続的な地域活性化「魅力づくり」が求められていると言えよう。

一方、市民レベルにおいては、郷土料理、ご当地グルメ、食品ブランド化などの対外展開や地産地消運動の活発化など、「地域食」を地域資源活用策とした取り組みが多く見られるようになり、生産物の直売活動拠点として朝市、産地直売所や宅配販売が人気を集めている。特に朝市は、先進国から発展途上国まで世界各地で開かれており、流通・小売業が発達したわが国においても例外ではなく、衰退の一途を辿ると思われた旧来形態の朝市も残存し続け（原，1992）、また次々と新進タイプの朝市が立っている状況にある。確かに朝市は、働く人々の躍動感やかけ声が市場やせりに似た雰囲気をかもし出し、一瞬にして消費者をとり込む、あの独特の喧騒は日常生活では味わうことのできない一種のアミューズメント性を有していると思われる。

そこで、本研究は地域振興策の一つとして朝市に注目する。朝市は、輪島朝市、函館朝市などに代表されるよ

うに観光客を集めるコンテンツでもあり、また「地域食」や「地域資源」の再発見の可能性を十分に秘めており、さらなる展開の可能性を含むと思われたからである。そこで本研究は、沿岸域の地域活性化を最終目的として、まず、現地踏査を通じた朝市の基礎現状把握を試みる。

2. 研究対象の朝市について

2.1 朝市など定期市の定義と種類

朝市とは、早朝～午前中に開かれる定期市の呼称であり、主に週や旬など比較的短い周期で開かれる定期市の一つである。表-1は、石原（1987）が定期市の用語とその定義を要約したものに著者が整理・追筆した一覧であり、市日の頻度や周期性によって分類される。

毎日市とは、定休日が設けられることもあるが原則的に毎日開催される市のことである。これに対して定期市とは2～10日間隔の比較的短い周期で開かれる市の総称であり、その規則性から三斎市、六斎市や週市・曜日市などに細分化される。三斎市とは、月に3回定期的に開催される市のことであり、例えば4のつく日、つまり4,14,24日に開市される。三重県四日市市、広島県五日市などはその名残として市の名称が地名に反映されたと伝えられている。六斎市は月に6回開かれる市のことであり、愛知県「田原2・7市（にい・なないち）」や千葉県「茂原（昌平町）の六斎市」のように地域名に開市頻度や市日を組み合わせる呼ばれることが多い。ここで「2・7市」の開市日は毎月の2,7,12,17,22,27日の6回の開催を意味し、愛知県豊橋市の「6・10市」など一部の定期市を除き、六斎市の多くは5日ごとに開市されることが多い。六斎市は現在においても多数確認することができ、特に図-1に示す愛知県、図-2の千葉県の外房総（いすみ市など）、新潟県や秋田県では市群が形成されている。他にも、秋田県の上城目町朝市では2,5,7,10日の十二斎市、同県の増田では2,5,9日の九歳市など、今日においても現存している定期市も含まれる。しかし、石原（1985）や中島（1977）がその存在を書き記した越後地方・本田地域の九斎市や三河地方・刈谷地域の十二斎市は、今日では確認することができず、7日周期の昨今の社会経済活動に咬み合わなかつ

表-1 定期市の定義（石原，1987を整理・追筆）

市の名称	説明
毎日市	毎日開かれる市
定期市	比較的短い周期（5日～10日程度）で開かれる市
三斎市	月に3回、10日おきに開催される市 ex.4のつく日
六斎市	月に6回、5日程度おきに開催される市 ex.2,7のつく日
九斎市	月に9回、3,4日おきに開催される市 ex.2,5,9のつく日
十二斎市	月に12回、2,5日程度おきに開催される市 ex.2,5,7,10のつく日
週市・曜日市	7日週を周期とする定期市 ex.土曜日市、日曜日市
大市	長い周期（数ヶ月や1年など）で開かれる市 ex.朝顔市、ほおづき市

たためか淘汰されたと類推する。

週市・曜日市とは、週の規則性に沿って開かれる市の総称であり、主に「日曜日市」など開催曜日で呼ばれることが多い。近年、興った定期市は曜日市であることが多く、特に消費者の都合を考慮して週末の土曜日、日曜日であることが特徴である。

石原（1985）によると、中国、朝鮮および日本を含む東アジアでは、古来より1ヶ月を10日ずつに区切った文化風習が定着したため、このスケジュールに合わせた定期市の開催日が組まれ、10日に1回つまり1ヵ月に3回の三斎市、10日に2回の六斎市が今も引き続き残っている理由とされる。一方、欧米や中近東などではキリスト教、ユダヤ教、イスラム教の影響で1週間を7日とする文化風習が定着し、開催日が週の規則性に従ったとされている。つまり、現在、わが国で開かれている定期市は、開市日の周期性の違いにより大きく2つに分かれる。1つが、昔からの慣行に従い三斎市や六斎市など今も残存し続けている定期市であり、もう一つが今日の社会経済活動の7日周期（1週間）に沿った最近立った新進型の定期市である。

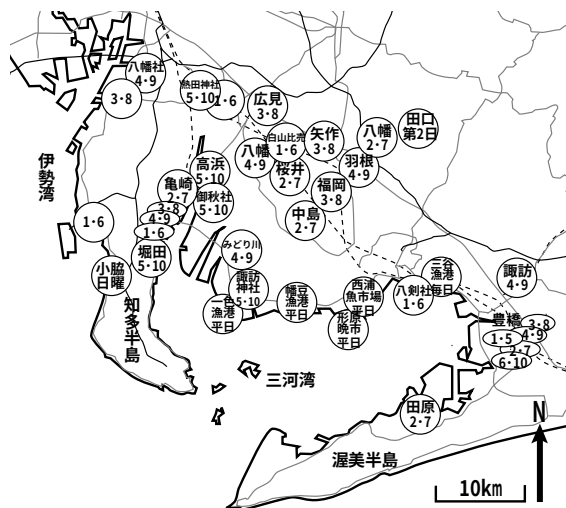
表中の大市とは、数ヶ月間隔や1年に1回開催される市のことを示し、東京都世田谷のボロ市（12/15,16, 1/15,16）、佐賀県の有田陶器市（4/29～5/5）、東京都台東区の入谷朝顔まつり（7/6～8）、東京都浅草寺境内で開かれる羽子板市（12/17～19）などの地域特産市であり、その地域の季節の節目を示すイベントであり、季節感を漂わせる風物詩としてテレビや新聞のニュースなどを通じて目にすることができる。他にも大市として、川崎市の川崎大師（毎月21日）などの地元で愛され続けられる門前市なども含まれる。

他にも定期市は開市頻度や周期性に限らず、販売形態によって様々なタイプが存在している。一般に「朝市」と聞けば、道路や広場など青空の下で行われる朝市を思い浮かべるであろうが、なかには固定店舗が通り沿いに連なって店舗群を形成する「市場」についても、函館朝市や仙台朝市などのように朝市と名付けられることもある。また、仲買や卸業者が取り引きする一般の市場においても、市場内の一角で朝市がセリと平行して開かれることもある。このように朝市には様々な運営形態があるため、本研究では、以下の定義を満たす朝市を対象に研究を進める。

- ① 大市など開市頻度が年に数回程度を除き、少なくとも月に一回以上開催される市
- ② 専用の産地直売所や、スーパーマーケットの一角を間借りして販売するインショップなど委託販売、

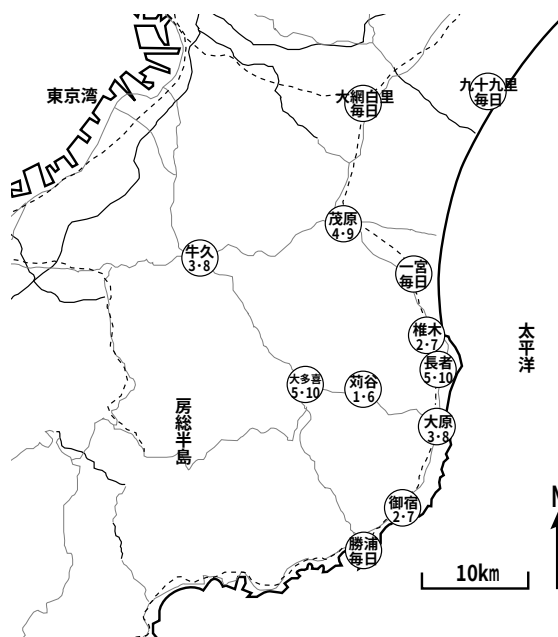
インターネットや電話を通じて商品を売買する宅配販売とは異なり、店員と客が対峙して商品の売買を行うことを基本とする市

- ③ 固定施設を持つ店がいくつも連なって形成する市場（築地、函館朝市、仙台朝市など）を除く市
- ④ 昼市、夕市、夜市とは営業時間が異なり、早朝から午前中の時間帯に開催される市



※○中の文字は朝市の名称を、数字は開市日を示す。例えば、渥美半島の「田原 2・7」は、田原町において毎月2と7がつく日、つまり2,7,12,17,22,27日に市が開かれる六斎市を示す。

図-1 三河湾近辺の主要な朝市と開市日
(東海朝市・縁日クラブ、1996より抜粋・整理)



※○中の文字は朝市の名称を、数字は開市日を示す。

図-2 2009年における外房地域の朝市と開市日
(千葉県ホームページより抜粋・整理)

2.2 朝市や定期市の既往研究

朝市や広義の定期市に限った既往研究は、1980 年以前では多数報告されていたが、近年は少ない状況にある。定期市は、石原（1987）が記すように欧米やわが国の経済史家、文化人類学者、人文地理学者らが、経済発展過程、市が異文化交流の接点、地形や集落と間歇的な交易発展の関連場など、それぞれの立場から定期市の調査・分析を行っていた。特に、市（マーケット）の自然発生と発展過程に注目していたため、原初形態を有していた古のヨーロッパの定期市について文献調査により明らかにしたり、発展途上国のアフリカ、中南米、東アジア、南アジアを現地踏査した文献（例えば、石原、1989、1990；鹿野、1989、1990）が数多く見られる。

国内の朝市の研究については、中島は1951～1958年に関東地方、1963年に越後地方、1975年に岩手・青森両県境、1977年に三河地方、1988年に三重県北部を対象として、過去から調査時までの定期市の分布と変遷について文献調査と現地踏査で得た情報を詳細に整理している（図-3）。また、2001年には関東地方の定期市について文献調査により再考している。石原は、1969～1970年に越後の定期市について現地踏査により現状報告を行っている。これらの論文は、現地調査を通して定期市の分布や開市日、市の店舗配置状況や業種、店員の構成など多岐の情報におよんで整理されており、当時の定期市を知り得る貴重な論文である。他にも、山田（1967）は大都市近郊における青果物流の形態について調査し、朝市と行商とのかかわりについて細かく報告している。

しかし、1980年代は定期市や朝市の研究事例を見つけることが困難であった。理由として、大型商業施設が台頭し、小売店に限らず朝市などの定期市が当時の社会情勢と噛み合わず、研究の動機づけを失った可能性が考えられる。

1995年頃より、数は少ないが朝市に関する研究成果が報告されるようになった。日暮ら（1992）は都市近郊の朝市経営の特徴や発展の諸要因の影響などを検討し、経営タイプの異なる農家の混在を確認した。折田ら（1995）は定期市の問題点を抽出し、DEMATEL法により構造化を試み問題点の定性・定量化を図った。朝倉ら（1998）は定期市利用者の行動調査を通して、市の物理的空間形態を分析し、店舗分布などが経験則から形成されたと仮定し、その特徴を見出している。土橋（2002）は呼子朝市において地元客の朝市離れの原因を追求している。長友ら（2006）や宋（2008）は、輪島朝市について情報量は少ないが定性的観点より報告している。氏原ら（2007）



図-3 全国の主要な定期市・市郡の分布（中島，1977）

は、消費者のグループ来訪に注目し、グループ来訪者は朝市を非日常的なレジャーと位置付けしていることや、リピート性や支出額が単独来訪者よりも相対的に低いことを示している。

いずれの研究も、朝市が地域振興策として十分な可能性を秘めていること示唆しており、中にはさらなる朝市の展開について考察を行い、地域振興に有益な論文も含まれている。ただし、上記の多くの文献は、ある一機能、ある側面に注視した内容であり、中島や石原のような詳細な基本情報が掲載されることはなく、また特定の場所・地域に限って分析された成果であり、他の朝市への適用は難しいと考えられる。例えば、折田らは元々朝市文化が根付いている秋田県が対象(図-3)であること、対象が旧来形態の朝市に限られているとみられること、冬季の積雪で閉市が多数含まれることなどの文化風習や地理要因に大きく依存している。河合らは開催頻度の低い(月に1度)朝市を対象としており、日暮の対象は都市近郊の朝市に限定されるなど特異性のある朝市である。加えて、いずれの研究も農産物などを主要品目とした朝市であり、鮮魚を主要品目とする漁港朝市や港朝市を対象とした研究事例は非常に限られる(輪島、呼子の朝市は、大規模な観光型朝市であり主要品目は鮮魚ではなく土産品である)。日高(2002)は、漁協や漁業者が主催・参加する水産物直売所や定期市の数量を簡潔に紹介するとともに、福岡市・姪浜朝市を事例として整理分析および考察をした、著者が知る限り唯一の漁港朝市を対象としており、なおかつ有益な報告である。

本研究は、沿岸域の地域活性化を最終目的とし、まずは振興策の一つとして朝市に注目した。そこで、5つの朝市についての現地踏査を通じて、立地環境、施設の有無、店舗配置、出品物、客層、趣きなどの様々な事項の把握を行うとともに、消費者、出店者および開催者へのアンケート調査を通じて来訪動機・魅力、出店理由や朝市の長所短所、歴史、組合組織や運営状況などを調べた。また、5つの朝市に限らず一般的な朝市を把握するため簡潔な文献調査より開市状況を収集し、朝市の現状基礎分析と今後の開市に向けた留意点を示す。

3. 本研究の対象朝市の概要

3.1 対象朝市の選定と調査概要

本研究が取り組む最終的な目的は、朝市を「沿岸域の地域活性化」の資源とすることであるため、沿岸域で開かれている朝市を調査対象とした。そこで通年に渡って朝市が開かれ、当該地域において知名度が比較的高いと考えられる、神奈川県「金田湾朝市」、千葉県「勝浦朝市」と「御宿朝市」、佐賀県「呼子朝市」、長崎県の「佐世保朝市」の5つの朝市(図-4)を選定した。

本研究では、まず、朝市の開催実態や利用形態などの情報を得るために現地調査を実施し、店舗分布、陳列商品や施設などの調査を行った。次に、来市する消費者、出店者および朝市責任者・関係者へのアンケート調査を実施した。調査日程を表-2に示す。各朝市につき週末日を1日間、平日を1日間の計2日間とし、2009年3月22日～4月19日までの約1ヵ月間で実施した。

3.2 金田澹朝市

金田湾の朝市は、三浦半島の金田湾漁港内(図-5)の2階建て鉄筋コンクリート造りの朝市専用施設で、毎週日曜日6:00~7:30に開かれている。金田湾漁港は三浦半島の南端に位置し東京湾口に面している。沖合いでは豊富な近海魚を狙って十数張りの定置網が配置され、背後の台地では大根やキャベツを代表とする「みうら」野菜が栽培されている。交通アクセスは京浜急行の三浦海岸駅から南へバスで約10分であり、横浜や東京の大都市圏から比較的短時間にアクセスできる。特に、三浦半島の南端は広々とした丘陵の景観、野比海岸から三浦海岸までの約10kmも続く自然砂浜、浜を除くと複雑な入り江が繰り返される海岸線が連なり、風光明媚な城ヶ島が存在など南関東の景勝地として知られ、日帰り観光客の多いところである。

朝市の歴史は、1977年に屋根付きの水揚げ・選別場で実

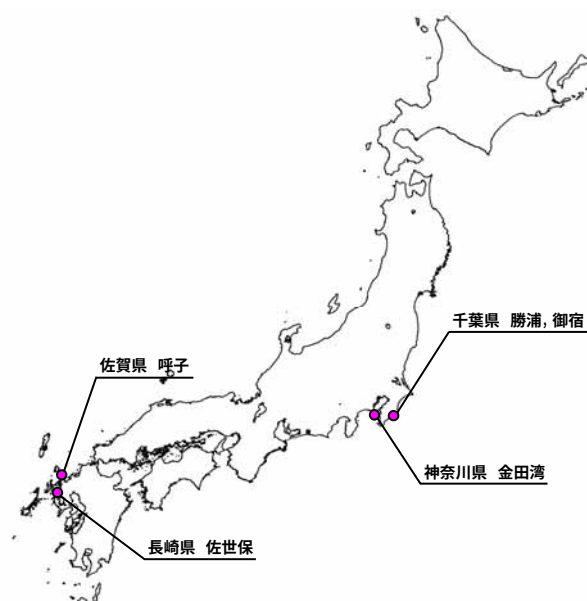


図-4 対象朝市の位置図

表-2 調査スケジュール（2009）

日付	曜日	地点	備考
3/22	日	金田湾	休日
...			
3/27	金	佐世保	平日
3/28	土	佐世保	休日
3/29	日	呼子	休日
3/30	月	呼子	平日
...			
4/10	金	勝浦	平日
4/11	土	勝浦	休日
4/12	日	御宿	休日
...			
4/17	金	御宿	平日
4/18	土	大原	休日
4/19	日	金田湾	休日

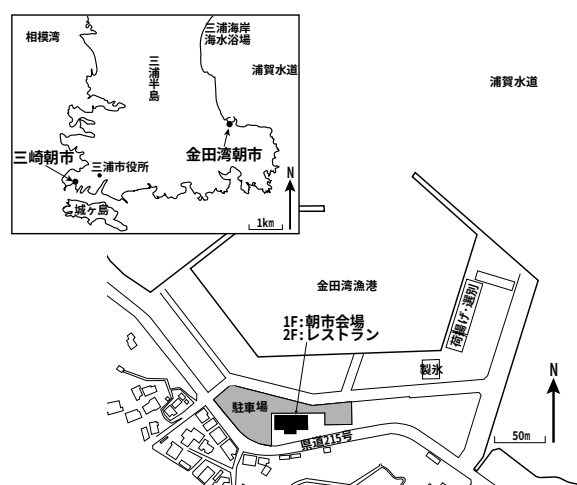


図-5 金田湾朝市の位置図

験的に市を開き、翌年に朝市専用のスペースを漁港の一角に用意し、雨天時にも運営できるようにビニールハウス作りの細長いテント内で本格営業を始めた。1992年には2階建て鉄筋コンクリート製の現・朝市専用家屋(図-6)を建て、1Fは朝市部会が日曜日の朝市専用スペースとして、2Fは漁業組合員が取れた魚介類を調理提供するレストランとして営業されている。店舗裏には男女別水洗トイレと多目的トイレが設置されている。店舗横と前面には、100台ほどの駐車スペースが設けられているが、開市開始前後では駐車場が足りずに漁港内の空きスペースに車が停められている。神奈川県、特に相模湾の漁港で開かれているほとんどの朝市は、金田湾を参考としており、県内の漁港朝市の草分けである。

朝市の出店者は、当初は漁業組合員に限っていたが、出品物にバラエティを持たせようと、2003年に地元業者（三浦市南下浦）に声をかけ、豆腐、生花、野菜、加工食品、弁当が店頭に立つようになった。出品物の主役は新鮮な魚介類であるが、店は網元別に開かれるため店頭に並ぶ鮮魚の種類は異なっていたり、同魚種でもサイズが異なっていたりするため、消費者の購買選択肢が広がっている。また、季節にもよるが海藻、タコ、ムラサキイガイなど単品だけを取り扱う店舗や、海士（あま）が荷揚げしたサザエ、アサビ、ニナやナマコなどが生きた状態で店頭に並ぶ。店舗数は、3/22の調査日は23店、4/19が25店であった。

出店費用は、ベニヤ1枚辺り3,000円/月、2枚辺り5,000円/月、屋外は1,000/月であり、これを朝市部会に納め、年に数回のアジ、ワカメ、大根、キャベツなどの無料配布イベント費用や駐車場の白線ペンキ代などに使用される。また間口代とは別に、出店者は売上金の7%を金田湾販売所（旧金田湾漁協）に納め、建物の固定資産税や電気・水道などの維持費に使用されている。朝市の情報は、少なくとも週に一度は更新する専用ホームページに掲載するほか、毎週金曜日に地元の神奈川新聞の週末情報欄に掲載されている。

他の朝市でもよく見られることであるが、公式に発表している開市時間や閉市時間はあくまでも目安である。金田湾は6:00～7:30の営業時間と公表されているが、実際には5:47頃にスタートし、閉市時間は売れ行きによって短くなったりする。消費者は5:30頃から続々と朝市会場にやって来て、店員の店舗設営や商品陳列の最中に、一通り会場を見て廻り当日の品定めを済ませ、5:45頃になると開市時間に備えて狙いを定めた商品の前で待っている。開市開始の合図は、館内放送で音楽を流すことで知らせており、音楽が鳴り始めると堰を切ったかのように

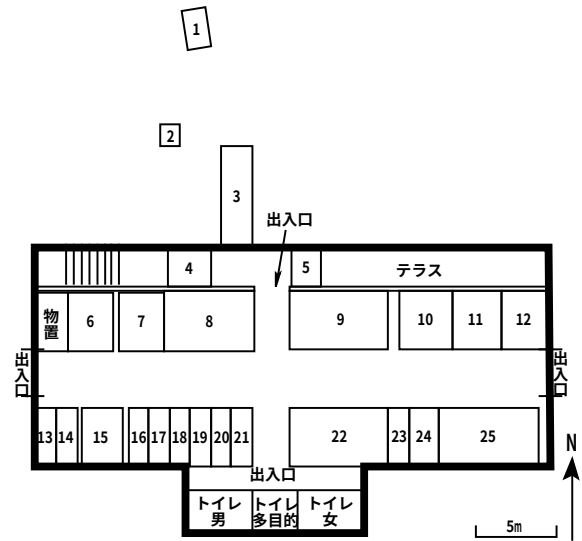


図-6 金田湾朝市の店舗分布図
(太枠が鉄筋コンクリート製の建物)



写真-1 金田湾朝市会場の全景
(2009/03/22 06:00, 店舗1から建物を望む)



写真-2 開市前の鮮魚売り場
(2009/03/22 05:45、店舗25の陳列)

消費者と店員の取引が始まる。このため、商品によっては開市から10分以内に売り切れ、目当ての商品を手に入れた消費者は2、3分以内に会場を離れて帰路につく光景が見られる。開始から20～30分の間が最も客入りが多く、店員数が少ない店舗は漁業組員やその家族に手伝ってもらってスムーズな接客を行っている。写真-1は、金田湾朝市会場の正面から撮影した写真画像であり、3/22は無料配布イベントであったため特に消費者の多い1日であった。仮設テントでは無料配布の春キャベツと生ワカメが山のように積まれ、その周りには多くの客が列を作り、また目当ての商品を手に入れた客はそそくさと帰路に就いている様子である。写真-2は、開市2分前の鮮魚店（No.25）の写真であり、客と店員が陳列台を挟んで開市時間を待っている様子である。この店舗は、毎回、沖合い10分の距離に設置した定置網を開市直前に引き上げ、海水を張った船上のコンテナ生簀に魚を生かした状態で漁港に戻り、フォークリフトで生簀ごと水揚げし会場横まで運ぶ。陳列台には隅々まで敷きちりばめられた製氷の上に、生簀からタモ網ですくい上げられたスズキ、アジやカワハギなどが口をパクパクさせ、時には飛び跳ね、その様子を子供が不思議そうに見つめている様子である。

商品が売り切れると陳列台はその場でホースで水洗いされ、床はブラッシングしながら水で洗い流され、後片が終了する。どの店主も店主同士で当日商品の物々交換を済ませ、労をねぎらい合い8:00には帰路に就く。

図-5に示すように、金田湾から車で10分ほどの位置に三崎朝市が毎週日曜日5:00～9:00の間に立つ。このため消費者によっては、金田湾で購入を済ませてから三崎朝市に寄ったり、逆に三崎で済ませてから金田湾に寄ることもしばしば見受けられ、消費者にとっては選択肢の幅が広がっている。

3.3 佐世保朝市

佐世保市は、長崎第2位の25万人の人口を抱え、五島列島、平戸や高島など離島との海上交易の要所、西海国立公園の九十九島の風光明媚な景色や大規模なレジャー施設のハウステンボスのある観光地、軍港や造船の町として知られている。図-7に示すように佐世保市は複雑な入り江や点在する島々に囲まれ、毎年5～6月には早岐茶市（はいきちゃいち）の大会が奈良時代より続く、もともと定期市の風土が根付いている土地柄である。

佐世保の朝市は、重要港湾・佐世保港の域内、佐世保駅から徒歩5分、フェリーターミナルから徒歩2分の交通便利性の良い場所で開かれている。当初は、**図-8**の斜線部で戦後にヤミ市と正規市が開かれ、斜線部と線路の間



図-7 佐世保市と定期市の位置関係

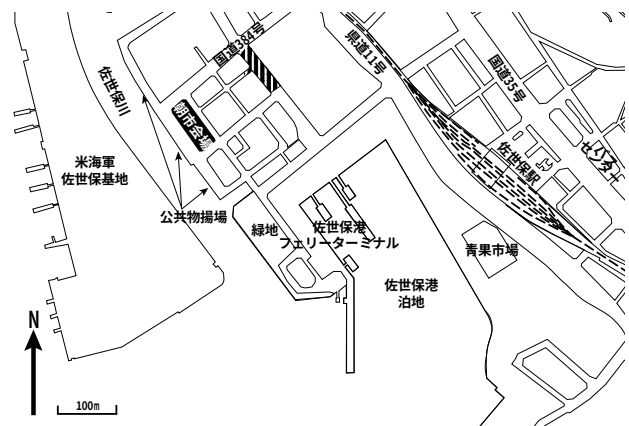
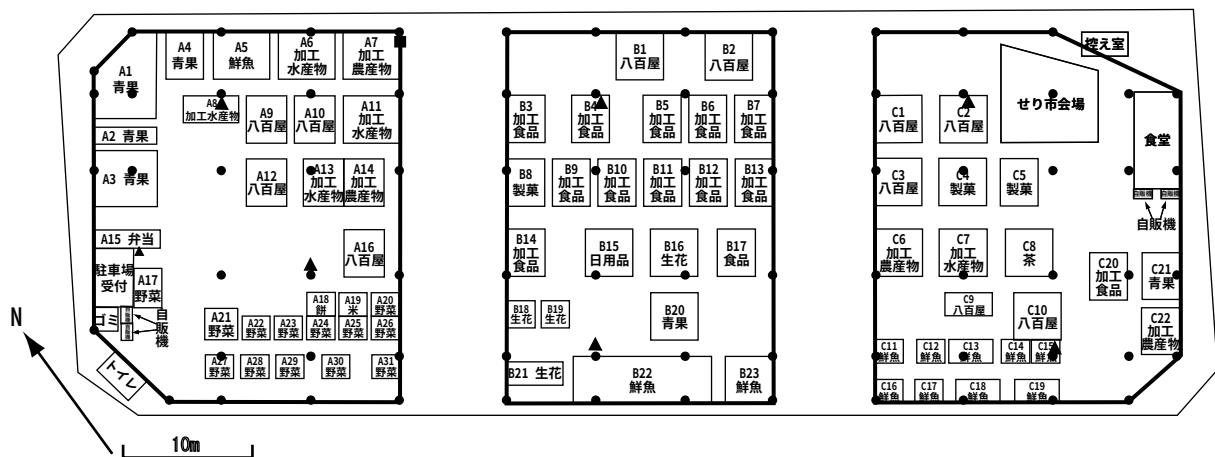


図-8 佐世保朝市の位置図

の船溜り（今は埋め立てられている）から魚介類や離島の商品を荷揚げしていた。当時のヤミ市は、リヤカーや荷担ぎなどの簡易露店であったが、道路事情や道路交通法の改変にともない1971年7月に旧青果市場であった現会場に、佐世保市の要請により朝市として移転した。朝市敷地は、2～9時が朝市会場、10～22時は月極の万津（よろず）町市営駐車場として時間帯によって機能を分けていることが特徴の一つである。このため、朝市組合と佐世保市は土地利用契約の更新や使用料金などについて3年毎に取り決めを行い、今日に至っている。

会場の特徴である屋根は、雨よけや日射対策となり、店員と客の対面販売に心地よい空間を提供するだけでなく、商品の傷みを減らす役割を果たす。会場を3つの大型屋根に分け、大型移動式粉末消火器（粉末薬剤30kg程度）を6台、普通消火器1台を配備し消防法に対応している。屋根のない2箇所のスペースでは折畳み式簡易屋根（補助テラス）を稼働させることによって幾らばかりかの日陰



※朝市会場は、3つの大型屋根（太枠）で分かれている
 ※固定施設は屋根のほかに、駐車場受付、ゴミ回収枠、トイレ、食堂と自動販売機であり、店舗ブースは更地である
 ※●印は大型屋根の柱であり、柱横の▲印は大型消火器、駐車場受付横の▲印は普通サイズの消火器、■は朝市専用固定電話

図-9 佐世保朝市の店舗分布図（3つの大型屋根によって分かれている）

を作ることができる。その他の設備には、男女共同水洗トイレ、水道と電源・電灯、ゴミ置き場、朝市専用食堂、自動販売機4台、駐車場管理室、事務局固定電話など多岐に渡る。また、朝市会場付近は、駅近傍のビジネス街でもあることから、昼間は屋根付きの駐車場として利用者に人気が高いようである。屋根設置は朝市組合と佐世保市の双方の負担によるものであり、朝市組合費と駐車料金から支払われている。組合費は小売、仲買人など専門業者から12,000円/月、生産者から20,000円/年を出店費として徴収し、月極駐車料金は軽自動車6,500円、普通車7,000円、大型車8,500円と設定されている。駐車利用料金と出店費の残金は、土地・屋根の固定資産税と電気・水道代・ゴミ処理費などの管理費として使用される。

朝市は、毎日3:00～9:00（定休日は毎月第1,3日曜日）に開かれ、毎月の第2,4土曜日には消費者が商品に値段を付け競い合うイベント「模擬せり市」を行っている。せり市は、市場そのものが公共性を含んでいることや、日頃の感謝を込めた消費者への還元を目的に、出店者が赤字覚悟で行っている市民参加型のイベントである。朝市組合は、他にも毎年、市民への感謝・還元、および朝市の宣伝と新規客の獲得も期待して、1月10日の「ぜんざい会」では2,000食を、7月20日の「スイカ会」は1,000食を無料で振る舞い、今日では佐世保市を代表的する季節イベントとしてすっかり定着している。

基本的に出店時間は、2:00～5:00の間に済ませるように組合から指示されており、小型トラックや自動車が会場を囲うように駐車され荷降しが行われる。特に、佐世保川に面した道路は幅17.4mに港湾公共岸壁4.0mが加わっ



写真-3 朝市会場の全景（2009/03/27 06:20、店舗B17とB13間の中央通路から北西方向を望む）



写真-4 消費者による模擬せりの様子（2009/03/28 6:41、店舗C2から食堂を望む）

た広いスペースとなっており、軽自動車からトラックまで多数が停められている。店舗配置は、3ブロックを横断する中央通路（幅2.4m）とこれに沿った4本の通路（幅1.2m）が配置され、店舗の奥行きは通路と通路の間隔3.4mに相当し、店舗幅は店によって異なるが約1.5m、2.5m、4.0mの3タイプに概ね分けられる。店舗は、運搬と陳列機能を兼ね備えた台車を利用したり、もしくは商品を入れていたコンテナ箱や段ボール箱の上にベニヤ板を敷き商品を陳列する手法が多い。台車の出店は小売や卸し業者に多く、店舗設備一式を台車に乗せてコンパクトに収納した状態で駐車場に残し、商品だけを車にて搬出入していた。コンテナ箱と折りたたみ机などを利用する出店者は生産者に多く、出店物の種数が業者よりも少ないため、商品と出店設備の両者を車で搬出入している。台車の保管は、駐車場の角や柱周りなどのデッドスペースや月極駐車一台分を店主2～4人でまとめて借り上げて使用していた。

大手の卸し業者は駅から南東へ約500m地点に青果市場で店を構え（図-8）、魚市場は1997年に車で20分の位置（相浦市、図-7）に移設、駅構内に地元スーパーマーケットのチェーン店「エレナ」の入店、駅側から続く四カ町アーケードに大手スーパーマーケット「イオン」の出店など、朝市を取り巻く運営環境は楽ではないと推定できる。しかし、正月から調査日までの3ヶ月間で、6回ほど雑誌やテレビから取材を受けており、不定期であるがメディアへの露出が格好の宣伝となっている。また、前述のぜんざい会やスイカ会の定期イベントの他に、土曜日と日曜日は朝市の開催告知を兼ねて、閉市直後から正午まで3,4店舗を佐世保駅前広場前に出店させるなど宣伝活動に積極的に努めている。

佐世保朝市は、卸し・仲買人を多く抱える市場であり、小売店や仲買人などの専門業者からの注文が入るため納品時間に間に合わせるために早朝からの営業が求められ、5時、6時あたりから徐々に一般客で賑わう。本来であれば、同じ業種・取り扱い品目の競合店の出店を見合わせたいが、長期的には出店数の減少により空き空間が増え、市が閑散することを恐れて、現在は積極的に競合店であろうが原則受け入れており、組合員数は150人を優に超えている。特に、ほおづき、正月などの季節に飛び入り参加が多い。しかし、魚市場の移動にともない、朝市で鮮魚を取り扱う店舗が減少し、「港の朝市」という利点を上手に生かし切れていない。魚介類の出品物は、家族が漁獲した一部や、魚市場のせり終了後に運ばれてきたもの、養殖業者がまとめて持ってくるものなどである。具体的には、ヤリイカは家族が前夜に漁火イカ漁で釣り上げた



写真-5 昼間は市営月極駐車場
(2009/03/27 14:47, 店舗B23辺りから食堂方向を望む)

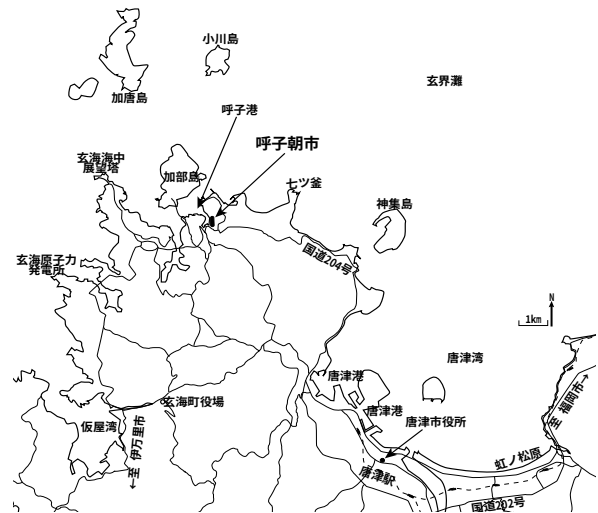


図-10 呼子町の位置図

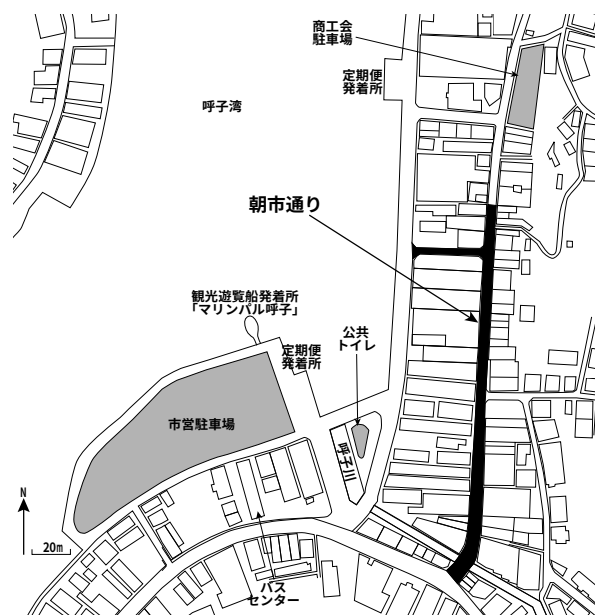


図-11 呼子「朝市通り」および主要施設の位置図

ものを、竹輪は親戚が製造したものの当日に全てを朝市で売り切る。ハマチ、ヒラス、鯛などの大型魚は養殖業者から生きたまま会場で譲り受け、シメておろしていた。底引き網漁で捕獲した雑魚などは、量や大きさが揃わなかったなどの理由により市場に出回らず、朝市で出品されていた。または高級魚介の車海老や赤海老はエアレーションの装置が付属したバケツや大型バットの中で生きたまま陳列され、売れ残ればそのまま持ち帰るなど工夫が重ねられている。サザエ、アワビ、ハマグリ、アサリ、ニナなど保管が粗悪であっても耐えられる種は、海水を張った容器内や空気中にさらした状態で店頭に並べられ、売れ残れば待ち帰り再び海水に浸けなおす、といったことが行われている。

3.4 呼子朝市

呼子は、図-10の佐賀県北部のリアス式海岸が連なる東松浦半島の最北端に位置する港町（避難港）であり、「呼子のイカ」や「呼子朝市」で知られる人気の観光地である。魚介類が豊富な沖合いの玄界灘では、夜になると集魚灯をズラリと吊り下げたイカ釣り漁船の灯りが光々と海面を照らし、イカの一本釣り漁が盛んに行われ、高級鮮魚「呼子のイカ」として主に東京や福岡市へ出荷される。また、呼子は玄界国定公園の一部でもあり、周囲には虹ノ松原を代表する白砂青松の海岸線や、7つの海蝕洞窟と玄武岩の柱状節理が組み合わさった七ツ釜のような侵食された複雑な海岸線も連なる風光明媚な観光地として知られている。このため、呼子を訪れる人々は、午前中に朝市を楽しみ、昼食にイカの料理に舌鼓を打ち、午後は景勝地を巡るなど、充実した余暇を楽しむことができる。ホテル、旅館や民宿などの宿泊施設は、観光地の割には多くないが港を囲むように配置されており、観光客のほかに釣り客の宿泊も多い。

湾口部を加部島に遮られた呼子港は、戦国時代などの古来より天然の良港として港町が発達し、人々が集まって発展してきた。また、300年ほど前より、近くの離島の加部島、小川島で解体された鯨肉が呼子で陸揚げされ、行商の形態で販売されていた。大正時代に商店街ができると、店の前に行商人が歩みを留め、商店の軒下に定着したのが朝市の始まりと伝えられている。当初は、呼子や周辺離島で暮らす人々の生活型朝市であったが、国定公園の指定、イカのブランド化と相まって近年では観光型朝市へと変貌を遂げている。特に、九州最大の都市・福岡市内から車で2時間程度の適度なドライブコースであり、また唐津市を終着駅とする鉄路と路線バスを利用して2時間程度と、近距離であることから週末は大挙し



図-12 呼子朝市の店舗配置図

て観光客が訪れる。このため呼子港は、玄界灘の離島との定期船の発着港や避難港の役割にとどまらず、半潜水型海中展望船「ジュー」2隻と七ツ釜の洞窟クルーズ船「イカ丸」2隻の計4隻の観光遊覧船の発着港としても利用されている（図-11、マリナル呼子）。駐車場は、朝市通りから西へ徒歩2分の埋立地に130台程度駐車可能な市営有料駐車場と、朝市通りの北側延伸方向へ徒歩1分の呼子商工会が管理する無料駐車場（約30台）がある。公共トイレは、朝市通りと市営駐車場の中間地点で利便性の良い場所に設置されている。

朝市は、元日を除く通年に渡り7:30～12:00時間帯に、公共岸壁沿いの道路の住宅地側に併走する市道、通称「朝市通り」で開かれている。店舗は図-12に示すように、呼子の南北方向に縦断する車道4.3mの狭い市道に沿った商店街の軒下に、約200mに渡って朝市店舗が連なる（写真-6）。1998年に道路使用許可申請の義務化にともない、翌年に初めて呼子商工会議所内で朝市組合が誕生した。道路使用許可の申請にあたっては、店主各々は出店場所・位置を明記する必要があるため、朝市組合に加入し、占有道路場所の背後住民や店主に許可を得て、組合総会で了承される。組合が誕生するまでは、会場に到着した店主から順に出店場所を選ぶ「先着順」が毎日続けられ、出店時間の早朝化に歯止めが利かないことや、場所や広さの解釈などについて店主間のトラブルが絶えなかったもようである。しかし、出店場所が決定されることによって、争いがなくなり、店主の好きな時間に出店できるようになった。道路使用許可の認可は、元旦を除く毎日、7:30～12:00の時間帯である（組合で元日を一齐休暇日と決定した）。申請には、一店舗ごとに申請書と手数料を提出する必要がある。店主の手続きや組合の事務作業などを「NPO 法人 SCRUM 呼子」に委託している。NPOは朝市通り沿いで運営しており、観光案内、自転車や会議室の貸し出しなど幅広い活動を行っており、観光客にとっても地元住民にとっても非常に役に立っているようである。またNPOは、朝市客への対応・窓口の役割や出店者への衛生管理の注意喚起なども行っている。

出店費用は、店の間口が1m以下であれば5,000円/年、1.0～1.5mが6,000円/年、2m以上が7,000円/年と決められ、そのうち2,400円/年が道路使用許可申請手数料、残りが朝市組合運営資金としてイベント費や事務関連費などに運用されている。また、飛込みの出店も認めており、1日あたり300円を朝市組合に納める必要がある。

朝市組合員数は、2000年の170名をピークに、2008年は130名、2009年は116名と徐々に減ってきている。また116名のうち、商店街に店を持つ店主は16名おり、



写真-6 呼子朝市会場の全景（2009/03/29 09:21）



写真-7 呼子オリジナル3輪自転車の店舗
（2009/03/30 11:47）

午前中は露天、午後は店舗敷地内で営業を行っている。

商品の搬出入手段は、台車、リヤカー、自転車および自動車であり、特に3輪自転車はオリジナルに開発されたものである。一般の自転車はハンドルに前輪が1つ連結されているのだが、呼子のオリジナルモデルは前輪の代わりにリヤカーがハンドルと連結されている（写真-7）。つまり、収容量の大きいリヤカーが自転車の前かごの役割と前輪の役割を果たす3輪自転車である。そのため積載量が大きくなると、ハンドル操作が難しくなる。3輪自転車は出店場所に着くと、リヤカーに折り畳まれて収納されていたベニヤ板をサドルと後部荷台に広げると、陳列台へと変貌し、ハンドルを挟んだりリヤカー上部にでもベニヤ板が敷かれ商品が並べられる。一般の自転車のハンドル形状は操作性を考慮し上から見ると円弧型であるが、呼子の3輪自転車は陳列機能に妨げが生じにくいようにほとんど直線である。このため横から見ると、ハンドル部分は点にしか見えず、ハンドルだけが高く、前

後の陳列台はほぼ同じ高さとなっている。この3輪自転車は市販の家庭用シティサイクルを改造しており、後輪付近の複雑な駆動系に手をつけるよりも、構造が単純な前輪に収納スペースを設けた方が簡単に製作できるため、前2輪、後1輪の3輪自転車が誕生・普及したと推測される。自動車で商品を搬出入する店主は、開市時間帯の間は車を入れることができず、7時頃に搬入し12時頃に搬出せざるを得ないため、自転車、リヤカーや台車などの融通性はない。朝市通りに店舗を構える小売店は、店内のキャスター付き陳列台を道路に引っ張り出し、店舗内にも客が回れるように工夫している。また、一部の店主は朝市通りの家屋を倉庫代わりに借りていたりもあった。狭い道路沿いには2階建て家屋が連なっているため朝市通りにはかなりの日陰があり、仮設テントを必要とせずビーチパラソルなど簡易な日よけが通りに点在している。

3.5 勝浦朝市

勝浦や御宿などの外房地域は、黒潮が沖合に流れる温暖な気候に、自然の砂浜海岸やリアス式海岸が連なっていること、水産や農産食材の豊富さ、加えて首都圏から自動車や鉄道で2時間以内のアクセスなど、自然豊かで利便性のよい観光エリアである。代表的なアメニティ施設としては、シャチのショーで有名な水族館「鴨川ワールド」、海底から海を覗きこむ海中展望塔「勝浦海中公園」、童謡「月の沙漠」発祥の地でしられる御宿町、その他に数々の海水浴場、キャンプ場、温泉、ゴルフ場、サーフスポットおよび保養施設が点在している。また景勝地としては鶴原理想郷、おせんころがし、特別天然記念物「鯛の浦」や勝浦灯台・大東埼灯台などがあげられる(図-11)。勝浦市は人口約2.1万人を抱える県内で最も小さな市であるが、古くから漁業の盛んな地域と知られている。房総半島の沖合では黒潮が北上し、第3種漁港に指定される勝浦漁港は国内屈指のカツオの水揚げを誇っている。加えて、リアス式海岸線の岩礁域では近海魚介類が豊富に捕れ、カツオも含めて提供する飲食店やホテル・旅館が国道128号線沿いに幾つも立地している。

勝浦朝市は、勝浦駅から徒歩約 10 分の市内商業中心地で開かれ、一説によると天正 19 年（1591 年）から続いていると伝えられており、非常に歴史深い定期市の一つである。図-12 に示すとおり、朝市は月の前半と後半で開催場所が入れ替わり、毎月 1～15 日は「下本町通り」、毎月 16 日～月末は商店街が並ぶ「仲本町通り」において 7:00～11:30 の時間帯に開かれ、毎週水曜日が定休日となっている。下本町通りは見た目は道路のように思われる



図-11 外房地域の位置関係

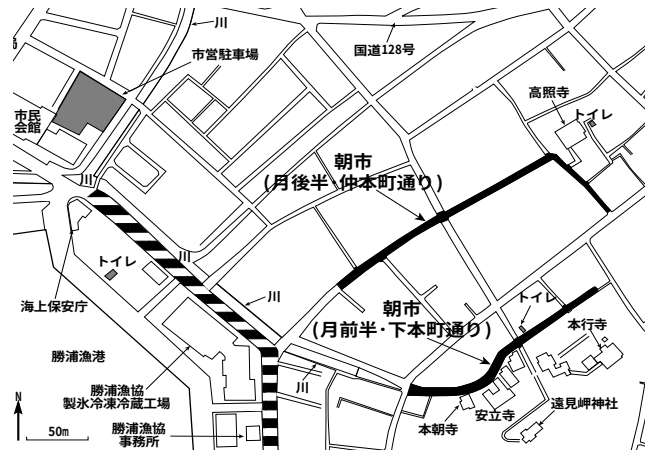


図-12 勝浦朝市および主要施設の位置図

が、河川を暗渠化した蓋の上であり、当初は道路の位置付けでなく市の管理する土地であったが、今日では車道 5.2m の市道となっている。仲本町通りは勝浦市の商店街が両脇に並ぶ市道であり、固定商業店の軒下に朝市店舗が出店している。道路幅は広い箇所では車線 4.45m、路肩 1.6m と 1.1m、狭い箇所では車線 4.35m、路肩 0.85m と 0.8m であった。昭和 30 年代以前の自動車がまだ普及していない頃は、「上本町通り」も含めた 3 箇所で 10 日毎に開市場所を移動していたが、今日に至っては交通障害の少ない下本町通りと、商店街との相乗効果が期待できる仲本町通りの 2 箇所で開かれている。下本町通りの会場中央部には、地元企業が土地と建物を提供する男女共同水洗トイレが設置されており、他にも漁港内に男女別水洗トイレ、高照寺背後には移動トイレを恒久的に固定設置した男女共同水洗トイレが 2 基設置されている。駐車場は、市民会館敷地に 20 台程度の無料駐車場が用意されているが、**図-12** 中の横線で示す漁港道路の広い路肩

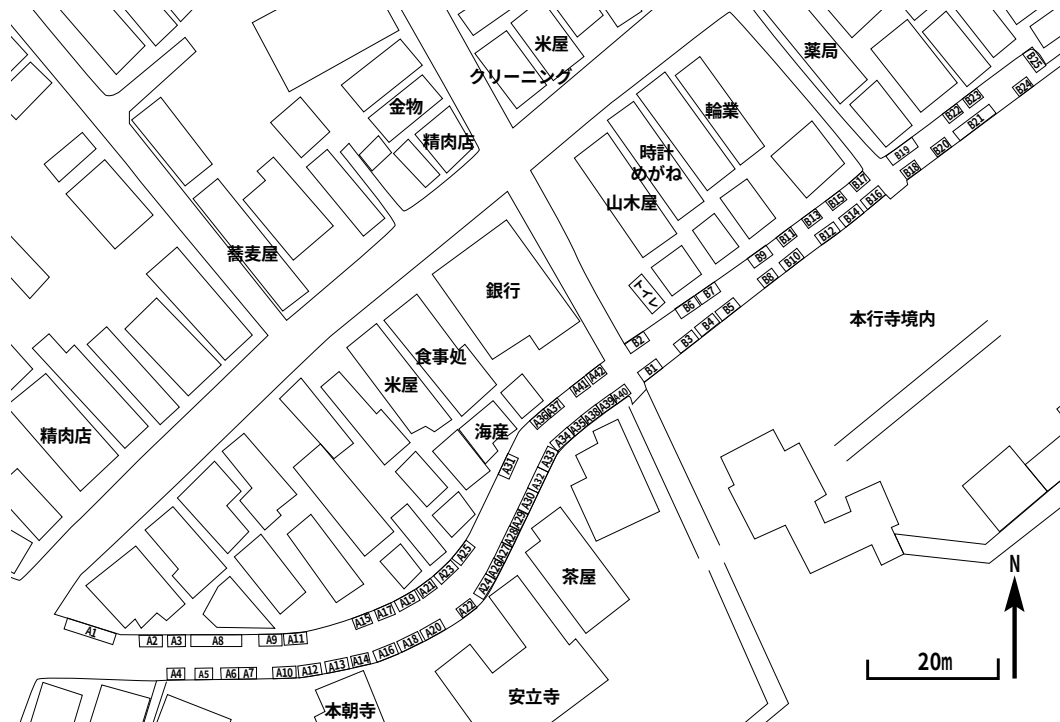


図-13 勝浦朝市の店舗配置図（月前半・下本町通り）

に車を停めることが多いようである。図中に含まれていないが、朝市会場から約1km離れた勝浦市役所の前に地元チェーン店のスーパーマーケット「フードプラザ ハヤシ」が立地し、他にも仲本町通り付近にも小さな小売店や鮮魚店が点在していた。

本研究では、月前半の下本町通りの朝市を対象に調査をしており、4/10の店舗数は52店舗、4/11は63店舗の重複を除くと67店舗であった。小売りを生業とする店舗は昔ながらの仮設テントを建てたその中に、陳列台を設けて営業していた。生産者に多い小規模店舗は地面にゴザやシートを敷きその上に商品を並べ、必要とあらばビーチパラソルで日陰を作っていた（写真-8）。商品の搬出入は、生産者も小売・卸業者も自動車による出店者が多数を占め、店主が高齢の場合は家族の者が搬出入と店舗設営・撤去を手伝っていた。一方、近隣に小売店や自宅を持つ者は、台車で荷物を運んでいる様子を確認できた。一部の小売り・卸し店を除き、テント、重しと陳列台の店舗設備を、通り沿いの民家の一角を借りたり、通りのデッドスペースに保管したりして商品だけを持ち運ぶ店舗が多かった。また、図-2および図-11に示すように、昔から外房地域は市群が形成されており、地域風土に朝市が根付いている土地柄である（中島、2001）。このため店主は、曜日によっては勝浦朝市を離れ別の朝市に出店したり、勝浦とは別の朝市に家族がもう一店舗出店したりしている。このため勝浦に出店する地元の割合は全体

の約40%であり、残りは近隣市町村からやって来ている。出店料金は1間あたり6,000円/月を組合に納め、最大3間までと決められている。会場の至る所にゴミ箱と朝市告知のぼりが開市前に設置され、閉市の際は専門の業者がゴミ箱とのぼりをトラックに撤収しながら朝市通りを抜けていた。また、組合は客の入込調査を定期的の実施しており消費者の動向に関心を払っていた。

朝市に出品される商品は、鮮魚、干物などの水産加工物、農産物、農産加工物である。鮮魚は、カツオをはじめ近海魚のアジ、サバやハマグリなど（写真-9）であるが、勝浦や大原など近隣の漁港から水揚げされたものだけでなく、築地市場から入手したものも含まれている。特に水産加工物の多くは、丸一匹の輸入品を地域工場で加工したものである。輸入に頼る要因は、安価であることやサイズが均等である他に、さばく際に肉崩れや割れが少ないことや冷凍魚の方が調味料が染み込み易いためであり、加工商品の種類にもよるが国内で水揚げされた魚介類も一度は冷凍してから加工することが多く、呼子の味噌干も冷凍魚を原料としていた。農産物は、フキ、竹の子、わらびなどの季節物、一般的に見られる葉野菜や根菜類である。

開市直後には、近隣のホテルや旅館に宿泊し、早朝の散歩ついでに立ち寄ったと思われる観光客が見られ、10時頃になると大きな旅行荷物を抱えた観光客や服装や行動から団体観光客と見られる客が多い。地元住民は開市

直前から閉市までの間に途切れることなく徒歩で訪れ、店主と少しばかりの会話と買い物を済ませているが、中には自転車や原動機付自転車で店先まで乗り付け、商品購入や会話する客も見られた。

3.6 御宿朝市

御宿町は、図-11に示したとおり前述の勝浦市と隣接し、国道128号線を通じて車で約10分の距離に位置する。また、勝浦市と同様に首都圏からの観光客が多く、前浜の広い御宿海水浴場、月の砂漠記念館、御宿ウォーターパーク（プール）などのアメニティ施設が充実しており、高層のホテルやリゾートマンションが海岸線沿いに建ち並び、町内には数多くの旅館・民宿や新鮮な海産物を提供する飲食店が点在している観光地である。

御宿朝市は、2と7がつく日の7:30～12:00に開かれる六斎市であり、国道128号と交差する車道7.0m、路肩2.4mと1.8mの町道（通称、朝市通り）に、約180mにわたって朝市店舗が軒を並べる。店舗は朝市通りの歩道に立ち、消費者は道路から陳列商品をのぞき込む様式（写真-10）であり、およそ9:00頃が消費者の入り込みピークであった。夷隅・長者地域では勝浦朝市を除き、荻谷（1,4）、御宿と椎木（2,7）、大原と牛久（3,8）、茂原（4,9）、大多喜と長者（5,10）と8つの六斎市が、毎日必ずどこかで開かれている。しかし、出店者の高齢化や住民の生活様式や文化の変化にともない、いずれの定期市も規模が小さくなり、今日に至っては10～25店舗程度までに減少している。御宿の最盛期は道の端から端まで店舗が並び、その数は80店舗を優に超えて客も道を覆い尽くしていたそうである。しかし、今日に至っては他の六斎市よりも店舗数が多いものの、4/12に22店舗、4/17に25店舗であった。このうち2店舗は毎日、夷隅・長者地区のどこかの六斎市に出店し、1/3程度の店舗は2,3つの朝市を掛け持っていた。例えば、御宿町に小売店舗を構える白鳥丸水産は、勝浦朝市（毎日）、御宿朝市（2,7）と大原朝市（3,8）に出店している。出店をめぐるのは、御宿や大原の開市日が平日であれば御宿や大原に出店し、御宿や大原の開市日が週末であれば集客力の見込める勝浦に出店することが多いそうである。ただ、店主の気分によっては勝浦と御宿もしくは大原の両方に同日出店することもあるようだ。他店舗には、普段は勝浦に毎日出店し、御宿が開市日であれば他の家族が御宿を担当する店舗や、御宿と大原に出店し残りの日は畑仕事の生産に勤しむ店主など、様々な出店状況が確認できた。

御宿の朝市は、江戸時代を起源とすると伝えられているが明確な記述が残っておらず、千葉県観光ホームページ



写真-8 朝市会場の全景（2009/04/11 09:31）



写真-9 鮮魚店の様子（2009/04/10 07:21）

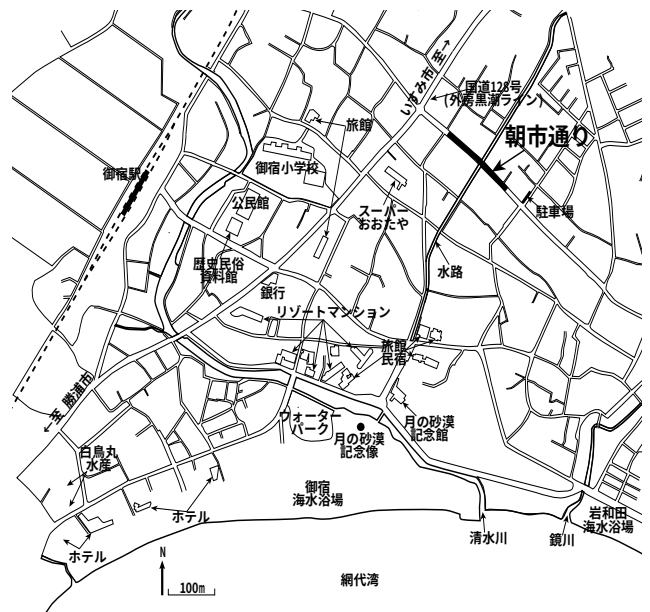


図-14 御宿朝市および主要施設の位置図（中小規模の民宿は省略）

ージによると明治6年(1873年)に県令に出した定期市の開催願いが初めて登場している。しかし、中島(2001)の調査では、参考資料「東京近方市場一覧(明治14年)」には「御宿」は記述されていないが、昭和30年(1955年)に千葉県に定期市の存在を照会した時には確認できており、いつ定期市が始まったのか明確にされていない。

出店者の多くは自動車に乗ってテント、台と商品を搬出入し、また少数の近隣出店者がリヤカーや台車を利用していた。特に勝浦朝市と異なり、毎日、御宿に定期市を開くわけではなく、他の市に出店したりするため、テントなどの店舗道具一式を積み込めるように普通トラックやワンボックスカーの利用者が多数を占め、コンクリートブロックなどの重しのみ朝市通りのデッドスペースに保管していた。付随施設としては、無料の駐車場が朝市通りの東側に約15台用意されているが、公衆トイレは設置されていない。来市者のほとんどは、徒歩や自転車で足を運ぶ近隣住民であるためトイレの必要性はあまりないと思われるが、長時間居続ける店主からの要望は高かった。朝市自体が近隣住民のための生活型朝市であることや、開市時間が長いことも手伝って、店の前では店主と客、客どうしの井戸端会議(写真-11)があちこちで見られ、朝市が地元住民の生活に溶け込んでいる様子が見られた。地元スーパーマーケットは、朝市通りから100m離れた国道128号沿いにある。

3.7 各朝市の組織体制や負担金額

(1)各朝市の組織体制

各々の朝市は、朝市の円滑な運営や管理を図る目的で組合を組織しており、それぞれの組織図が図-16の通りである。金田湾朝市は、もともと金田湾の漁業協同組合「金田湾販売所」が試行錯誤を繰り返し、今日に至る朝市運営を確立したため、朝市組合の主幹は漁協である。ただ、鮮魚一辺倒であった出品物にバラエティを富ませようと、2003年に地元で営む農家や豆腐店など他業者の参入を迎え入れたために組合員数は一挙に増加した。なお、三浦漁業協同組合は1994年の9つの漁協の合併を経て「みうら漁協協同組合」へと改変し、そのうちの一組織が金田湾販売所(旧金田湾漁協)である。一方、車で10分の距離に開市する三崎朝市は、漁業協同組合とは係わりのない別組織が運営している。

佐世保は、仲買や小売業者で構成された「よろず鮮食組合」と「よろず商業組合」、生産者らが加盟する「生産者組合」の3つの組合が存在し、それぞれの組合から4名の代表者を選出し朝市の運営、経理や管理などを担う「佐世保朝市組合」が構成されている。3つの組合には

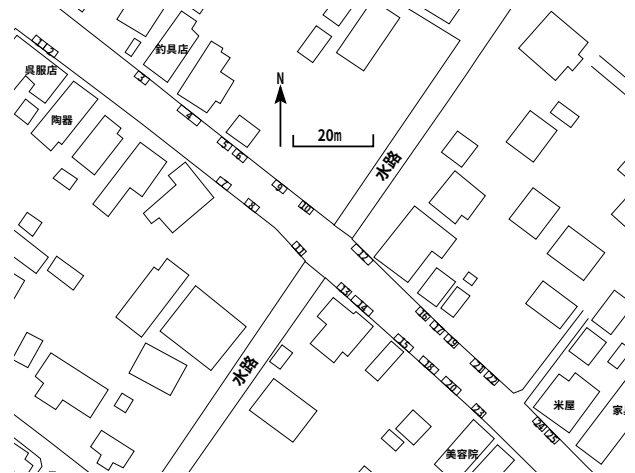


図-15 御宿朝市の店舗配置図



写真-10 歩道に出店し、客は自転車や原付などで来市
(2009/04/17 08:17)



写真-11 客(中)と店主(右)の井戸端会議の様子
(2009/04/17 08:07)

役員が設置され、それぞれの立場に合った運営や管理がされており、互いの協働も良好であった。ただ、組織体系が複雑すぎるとして、3 組合体制に疑問を持つ店主も一部で見られた。

呼子は、もともと組合が存在せずに開市時間内であれば店主が毎日、各々適宜に場所を選んで出店する営業形態であったが、1998 年の道路使用許可申請の義務化にもなって店舗毎に出店場所を書類に示す必要が生じ、その翌年に朝市組合を組織し店舗営業場所の決定や朝市のルール作りが行われた。組合員数は、2000 年の 170 名をピークに、2008 年の 130 名、2009 年の 116 名と、高齢化と後継者不足が主な原因となって加入者数が減少しており、朝市の将来を心配する声も聞くことができた。道路使用許可申請手続きの簡略化、マスコミや消費者への対応などの事務や窓口業務の全てを NPO SCRUM 呼子に委託し、組合員は店頭販売に専念できるように環境を整えていた。役員会はほぼ毎月開催され、総会は春先に年に一回程度開かれる。

勝浦は、「朝市運営委員会」と「朝市しんこう会」と二つの組織からなる。朝市運営委員会は朝市に出店する店

主で構成された組織であり、現場レベルの課題・問題について意見交換をする。一方、朝市しんこう会は約 10 年前に組織され、時間的にも労力的にも応対が難しく販売業に専念したい朝市運営委員会の代わりに、マスコミの窓口や行政とのパイプ役などを行っている。

御宿は、出店数が少ないことやイベントを行っていないこともあり、シンプルな組合が組織されている。道路使用許可申請の際は、店主は申請書類や手数料など一式を会計係りに提出し、まとめて警察署に申請している。組合では毎年親睦旅行を計画しており、店主は毎月旅行の積立を行っている。

「全国朝市サミット」が毎年1回は開催されており、今年は佐世保で第14回目を迎えた。サミットの開催目的は「朝市の振興と情報交換」であり、組合の代表者や関係者が各々の朝市を紹介し、運営方針や工夫点について意見交換を行っていた。彼らが朝市の誇りとして謳っていたのが、「地元の台所」、「対面販売」、「地産地消」の3つであった。サミットへ参加した朝市は、函館朝市（北海道）、気仙沼朝市（宮城県）、五城目町朝市（秋田県）、盛岡神子田朝市（岩手県）、佐倉朝市（千葉県）、勝浦朝市

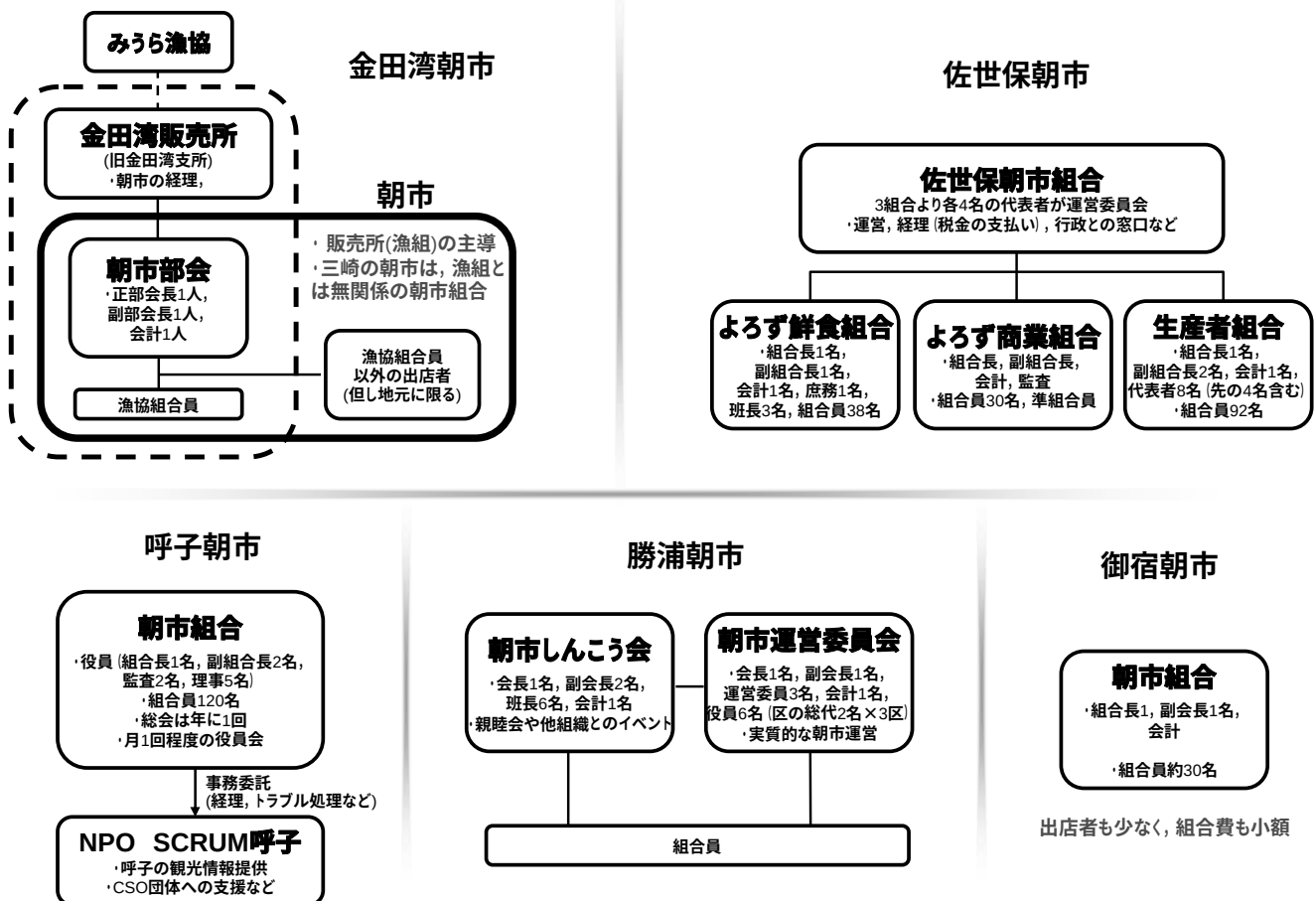


図-16 各朝市の組織図

(千葉県)、三崎朝市(神奈川県)、厚木市民朝市(神奈川県)、輪島朝市(石川県)、高知市街路市(高知県)、呼子朝市(佐賀県)、佐世保朝市(長崎県)、ましきメッセもやい市(熊本県)、熊本駅前観光朝市(熊本県)、と比較的規模の大きい朝市に限られている。神奈川県では、県内の約30朝市の情報交換の場を設けようと、厚木市民朝市と三崎朝市が中心となって現在働きかけを行っており、今後は地域間での情報交換も積極的に図られ、朝市の持続的なにぎわいが促進されるものと期待される。

(2)各朝市の出店料など負担

前節の各朝市では、店主らが加盟する組合の詳細について記した。組合の組織化は、朝市の持続的な存続と繁栄を見据えた取り組みの一環であり、もちろん朝市の運営活動には様々な出費がともなう。ここでは、朝市主催者や関係者へのヒアリングで得た、各朝市組合へのおよその加入費や手数料について述べる。

金田湾は、当初は自前のテント内で開市していたが、需要に対応すべく1992年に県と市からの助成を受けて朝市専用の家屋を建設した。建物の初期投資費の回収ほか、固定資産税や上下水道、光熱費などの維持管理費が掛かるため、各店舗は売り上げ金額の7%を漁業組合に納めている。また売り上げ金額7%とは別に、毎月の出店料としてベニヤ台1枚につき3,000円、2枚で5,000円、屋外1,000円を朝市部会に納め、年に数回のキャベツ、大根、ワカメ、イワシの無料配布イベントなど朝市の運営に必要な資金に充てている。

佐世保は、開催場所が午前中は朝市会場でもあり、午後は駐車場でもあるため、朝市組合と佐世保市の二者間で取り決めた土地と屋根の初期費用の回収と光熱費、上下水道、ゴミ処分費などの維持費が必要となる。このため組合は、小売店や仲買の専門業者から12,000円/月、生産者から20,000円/年、飛び込みの出店者から1,000円/回を出店料として徴収している。一方、昼間営業の月極駐車

は、軽自動車6,500円、普通自動車7,000円、大型自動車8,500円の料金設定となっている。

呼子は道路使用許可に申請にともない、1999年以降、朝市組合が組織され運営資金を店主から徴収している。呼子の場合は、金田湾や佐世保とは異なり特定の設備を所有していないため固定資産税や維持費の支払いがほとんど発生しない。しかし、開市場所が市道であるため道路使用許可を年に一度申請する必要がある。この一連の手続きは「NPO SCRUM呼子」が店主から預かった書類と申請料をまとめて提出するため、書類記載の不備や警察署訪問など煩わしさを感じることなく安心して対面販売に集中できる。朝市組合に必要な経費は、クリスマスなどのイベント代、NPOへの委託金と道路使用許可申請手数料2,400円/店/年である。これらの費用を捻出するため店主は、間口1m以内であれば5,000円/年、1.5m以内は6,000円/年、2m以上は7,000円/年と、間口の広さによって組合費を支払っている。

勝浦も呼子と同様に、特定の施設を持たず道路上での営業であるため初期費用が掛からず、毎月のゴミ処理費、イベント費や入り込み調査費と道路使用許可申請手数料2,500円の負担となる。出店料は、どのような形態の営業でも一間(いっけん=約1.8m)あたり300円/日であり、月極では6,000円/月(20日分)となり、最大三間までと決められている。

御宿も呼子や勝浦と同様に特定施設を持たず、加えてイベントなども行っていないため維持費も発生していない。唯一、出店に必要なものとして道路使用許可申請手数料2,500円であり、年に4回申請している。御宿は生活型朝市であって地域住民という固定客がついていることや、中規模であるため大量のゴミ処理が必要でないことで、維持費が発生しない。ただし、年に一度組合で親睦旅行を計画しており、その積立金を任意で毎月納めていた。

表-3 各朝市の出店費

	出店料(組合員)			出店料(飛び込み)	備考
金田湾	ベニヤ1枚3,000円/月、2枚5,000円、屋外1,000円など場代と売上の7%			-	0
佐世保	生産者20,000円/年		小売・卸し12,000円/月	1,000円/日	0
呼子	5,000円/間口1m/年	6,000円/間口1.5m/年	7,000円/間口2m以上/年	300円/日	0
勝浦	300円/一間/日、もしくは6,000円/一間/月			700円/一間/日	最大三間まで
御宿	0			0	親睦積立2500円/月

※金田湾の場合は、売上の7%は漁業組合に納め固定資産税、地代、公共料金などに、間口料金はイベント費や駐車場のペンキ代金などに使用される。

※勝浦の間口単位は一間(いっけん)であり、一間が300円/日、二間が600円/日、三間が900円/日と最大三間までと決められている。また、月極料金も設定されており20日間分として計算され、一間が6,000円/日、二間が12,000円/日、三間が18,000円/日となる。

4. 消費者と出店者へのアンケート調査

4.1 アンケート調査方法と質問内容

本研究では、まず、朝市そのものの基本情報やにぎわいの状況などを得るために、来市する消費者と出店者に対面形式のアンケート調査を実施した。表-5は消費者へのアンケート調査の質問項目であり、消費者の属性、交通手段、来市目的、購入品目や購入金額など計13問である。表-6は出店者へのアンケート調査の質問項目であり、主催者の属性、交通手段、出店理由など計17問から構成される。なお、金田湾のように実質的な開市時間が約1.5時間と短い朝市も研究対象としているため、また現地確認も含めた全調査を一人で行う必要があるため、予備調査を実施し質問項目と質問数を十分に検討した。

4.2 朝市に訪れた消費者へのアンケート調査の結果

図-17, 18, 19は対面形式アンケート調査に回答した消費者の性別、年齢および住居地の集計結果である。なお、消費者のサンプル数は、金田湾はn=23、佐世保はn=13、呼子はn=32、勝浦はn=13、御宿はn=12である。

図-17は消費者の性別の回答結果である。金田湾朝市は男性が多く、勝浦と御宿は女性が多い。金田湾は日曜日であることから休日を利用して男性が訪れやすいためと考えられ、また来訪者は慣れた感じで毎週、朝市で当日の朝食もしくは夕食の食料調達を日課としているように見えた。御宿は、エプロン姿の客も見られ朝食前後の家事の一つとして、またはおしゃべり休憩を目的とした買い物として来訪しているように思われ、それが女性客が多い理由の一つと思われる。

図-18は年齢の回答結果であり、平均年齢は金田湾が54.1歳、佐世保は63.5歳、呼子は55.0歳、勝浦は65.0歳、御宿は67.5歳である。金田湾は40～60代が大多数を占めているがほぼ等分配であり、中高年に偏っているが幅広い年齢層が訪れている。佐世保は、60歳以上が85%を占め消費者の高齢化が進んでいる。呼子は30～70歳以上と幅広い年齢層が分散しており、観光型朝市の特徴の一つといえる。勝浦と御宿は70歳以上が半数程度を占めているが勝浦は次いで50代が31%、御宿が60代の33%であり、観光型朝市である勝浦は消費者の年齢層に幅があるのに対して、生活型朝市の御宿は佐世保と同様に高齢化が顕著に表われたと考えることができる。

図-19は消費者の住居地を問うた結果であり、対象地域によって選択肢を適宜5～7つ用意し、当該地域が広域の場合は町名まで尋ねた。金田湾は当該地域の三浦市よりも人口の多い隣接の横須賀市からの来客が多く、次いで

表-4 消費者へのアンケート質問項目一覧

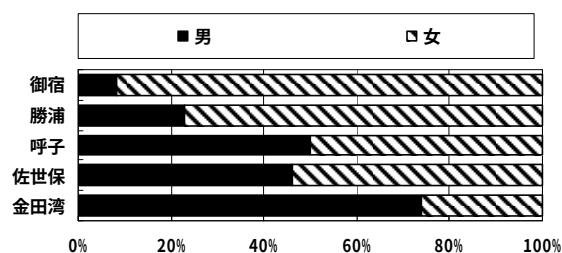
No.	質問内容	形式
1	性別	SA
2	年齢	SA
3	住所	SA
4	来市の交通手段	SA
5	来市交通手段の所要時間	FA
6	同伴人数	SA
7	同伴者との関係	SA
8	市の滞在時間	FA
9	市を知ったキッカケ	SA
10	来市頻度	FA
11	来市理由	MA
12	購入品目	MA
13	購入金額	FA

※SAの回答は選択肢より1つ、MAは複数、FAは自由回答

表-5 出店者へのアンケート質問項目一覧

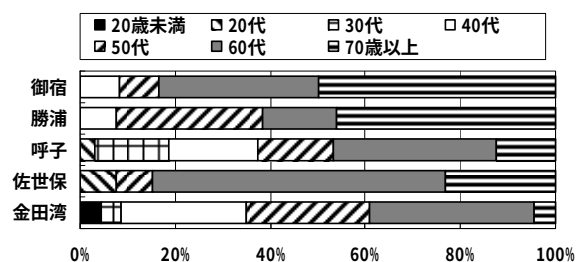
No.	質問内容	形式
1	専門店	SA
2	性別	SA
3	年齢	SA
4	出店開始年	FA
5	経営人数	SA
6	朝市以外の店舗有無	SA
7	職業形態	SA
8	居住所	SA
9	来市交通手段	SA
10	来市交通所要時間	FA
11	雨天時の出店確認	SA
12	晴天時の出店頻度	SA
13	出店理由	FA
14	当朝市の長短所	FA
15	出店日のタイムスケジュール	FA
16	休店日のタイムスケジュール	FA
17	売上金額	FA

※SAの回答は選択肢より1つ、MAは複数、FAは自由回答



※サンプル数は、金田湾がn=23、佐世保がn=13、呼子がn=32、勝浦がn=13、御宿がn=12

図-17 Qc1・消費者の性別 (SA)

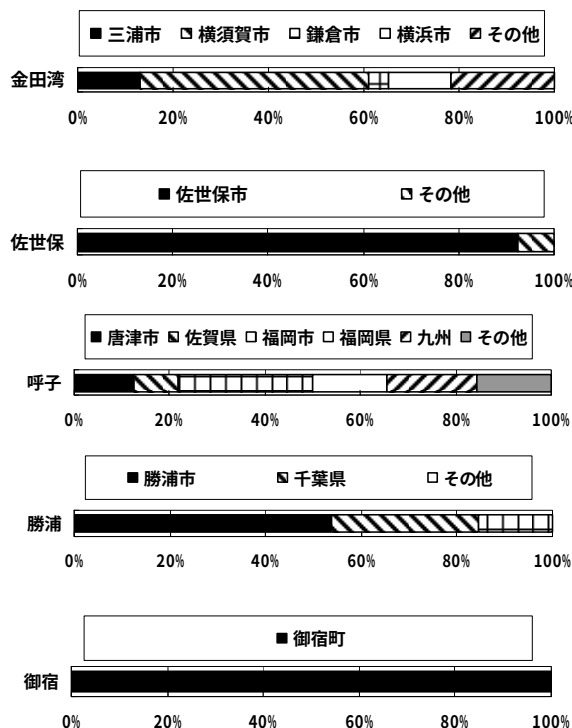


※消費者の平均年齢は、金田湾が54.1歳、佐世保が63.5歳、呼子が55.0歳、勝浦が65.0歳、御宿が67.5歳

図-18 Qc2・消費者の年齢 (SA)

川崎市や東京都などの「その他」、3番目に「三浦市」と「横浜市」が同順で続きいている。金田湾朝市は横須賀市境から僅か5kmと距離が近いことと、人口が横須賀市は42万人、三浦市は5万人と母集団の大きさに差があること、三浦市は比較的鮮魚小売店の経営がみられることや三崎朝市の存在など購入選択肢が他にもあること、朝市に來訪していても開市直後に購入を終え帰宅するためサンプルに反映されなかったことなどの理由と考えられる。佐世保朝市は、佐世保市に居住する人の來訪がほとんどであり、「その他」の1名は熊本市から実家のある佐世保市へ帰省の際に必ず立ち寄る消費者であった。呼子朝市は、呼子町を含む唐津市よりも県外客が多数を占め、「福岡市」からの客が28%と最も多く、長崎や熊本などの「九州」が19%、福岡市を除く「福岡県」や広島、大阪や兵庫の「その他」が16%ずつ訪れており、広い地域から人が集まっていた。地元の呼子町が人口約6,000人の小さな町であることや、観光朝市として広く西日本に知られ観光訪問客が多いことが理由として考えられる。一方、勝浦朝市は「勝浦市」の回答が54%を占め、その中でも朝市会場近辺の住民が多数を占めていた。次いで千葉市、松戸市、柏市などの都市方面からの「千葉県」の31%、千葉県以外の関東圏からの「その他」であった。御宿は、ヒアリング対象者の全員が御宿であり、ほとんどが開市場所の極近辺の住民であった。

図-20は、消費者が当日の出発地点から朝市会場へやってくるときに利用した交通手段を問うた集計結果である。金田湾は自動車によるアクセスが90%近くを占め、残りを「徒歩」、「バイク」と「自転車（ロードスポーツタイプ）」が占める。金田湾朝市会場へは鉄道とバスの公共交通機関でもアクセスは可能であるが、5:50頃の朝市開始時間に始発バスが間に合わないことと、前質問の結果より消費者は三浦市民よりも横須賀市民や横浜市民が多く、また道路で來訪ルートが砂浜海岸を望みながらの快適なドライブコースであること、漁港内の駐車スペースが広いなど、様々な理由により公共交通機関ではなく自動車、バイクや自転車を選んでいるものと推測される。徒歩の消費者は、所要時間2,3分圏内の近隣住民であった。佐世保朝市は、自動車の占める割合が半数を超える。それは、開市時間が未明3:00と早いことや市内中心にもかかわらず駐車スペースが十分あることによると思われる。次いで「徒歩」が続き、「バイク」、「自転車」、「バス」と「その他（ジョギング）」の4つが同率であり、近隣住民が散歩やジョギングがてらに立ち寄ったり、近隣に勤務先がある市民（バス利用者）が仕事前に立ち寄ったりする。呼子朝市は、「自動車」の占める割合が90%近くを占め、



※金田湾の選択肢は、1:三浦市、2:横須賀市、3:葉山町、4:逗子市、5:鎌倉市、6:横浜市、7:その他
 ※佐世保市は、1:佐世保市、2:西海市、3:佐々町、4:川棚町、5:波佐見町、6:鹿町町、7:その他
 ※呼子は、1:唐津市呼子町、2:呼子町を除く唐津市(町)、3:東松浦郡、4:伊万里市、5:多久市、6:武雄市、7:その他
 ※勝浦は、1:勝浦市(町)、2:鴨川市、3:いすみ市、4:大多喜町、5:御宿町、6:その他
 ※御宿は、1:御宿町(町)、2:勝浦市、3:いすみ市、4:大多喜町、5:その他

図-19 Q3・消費者の住居 (SA)

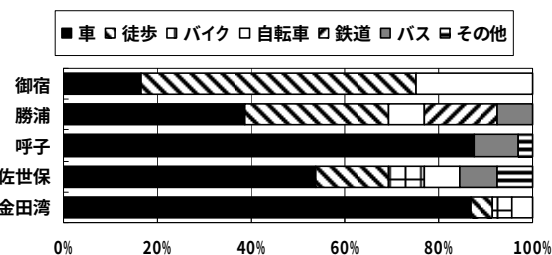


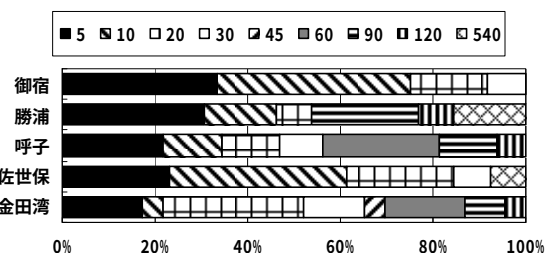
図-20 Q4・当日の出発地点からの来市の交通手段 (SA)

残りが「バス」、「その他」であった。福岡市から唐津市中心までは便数の多い鉄路が通っているものの、呼子町内へのアクセス手段は公共交通機関ではバスに限られ、若干交通の便が悪い。その代わり朝市会場付近には、朝市通りから徒歩2分の距離に市営有料駐車場(136台)と朝市通り北延長上の徒歩1分に地元商工会が管理する朝市専用無料駐車場(約30台)が備えられて、呼子町とそ

の周囲の景勝地の観光も兼ねて自動車訪問客が多い。「その他」の来市客は、呼子町の沖合い5～10kmの小川島や加唐島の離島の民宿に宿泊し、呼子まで「船」で送ってもらって来市した客であった。勝浦朝市は、自動車の40%、徒歩の30%が多数を占めるほか、鉄道とバスの公共交通機関も20%を越す。勝浦は、地元住民と千葉県の都心部方面からの来訪者が多数であり、徒歩圏内と自動車圏内の地元住民、近隣市町村でなく千葉都心部の来市客は前日泊の宿泊施設からの徒歩および当日泊のため公共交通機関や自動車による立ち寄りだと考えられる。御宿朝市は、ヒアリング対象者が全て地元住民であったため、徒歩や自転車が多かった。御宿朝市は、一般市道約180mの両側に22～25店が少し間隔をおいて営業していることや、御宿町の地形の起伏は小さく平坦であることなど、手軽さと機動力のある自転車を利用する客は図-20の結果よりも多く感じられた。ただ、自転車客は、自転車に乗って朝市会場を離れるためアンケート調査への協力を得ることが難しく、自転車客の回答はそれほど結果に反映されていない。

図-21は、来市交通手段の所要時間の回答結果である。平均所要時間は、金田湾37分、佐世保54分、呼子41分、勝浦118分、御宿12分であった。金田湾朝市は、横須賀市から自動車で20～30分、地元三浦市が5分、近隣市町村が45分以上の所要時間が必要であり、その分布がグラフによく反映している。中には、月に1～4回は1～2時間かけて来市する常連客が4人含まれていた。佐世保朝市は「5～20分」が85%を占めており、来訪者の多くが佐世保市内である現状と対応している。唯一の熊本市からの来訪者を除外して平均交通所要時間を算出すると54分が12分となり、最も所要時間の短い御宿朝市と同程度である。呼子朝市は45分と回答した訪問者が1人もおらず、「30分未満」の短時間グループと「60分以上」の長時間グループの2つに分けられる。短時間グループは地元住民と同町内および唐津市中心部に宿泊した観光客の徒歩や自動車（宿泊施設の送迎バスも含む）によるアクセス、長時間は当日宿泊客および日帰り観光客が自動車を利用して訪問したものと考えられる。勝浦朝市も呼子朝市と同様に、20分未満の短時間と90分以上の長時間の2グループに分けられる。呼子の短時間グループの平均所要時間は14分、長時間グループは77分であり、勝浦はそれぞれ9分と98分であった。御宿朝市は「5分」と「10分」の回答が75%を占め、平均所要時間も12分未満という地元住民を主体とした結果となった。「20分」と「30分」と回答した2名は、いずれも散歩も兼ねて訪問した地元住民であった。

図-22は来市した際の本人も含めた同伴者数を、図-23



※平均交通所要時間は、金田湾:t=36.7min、佐世保:t=53.5min(県外者1名を除くと11.9min)、呼子:t=41.4min、勝浦:t=117.7min、御宿:t=11.7min

図-21 Qc5・来市交通手段の所要時間 (FA, unit:min)

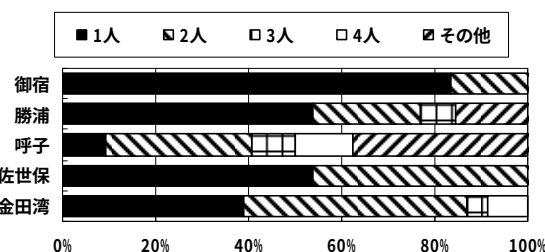


図-22 Qc6・同伴人数 (SA)

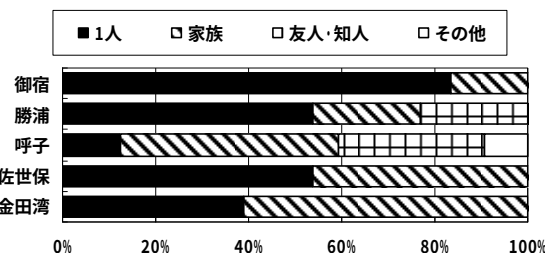


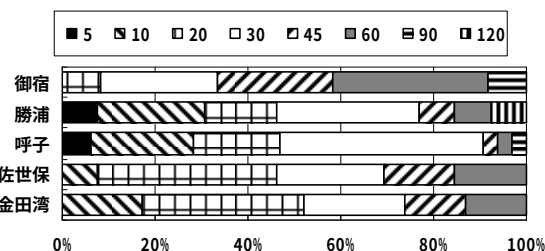
図-23 Qc7・同伴者との関係 (SA)

は同伴者との関係を問うた結果である。金田湾朝市は「1人」と「2人」が87%を占めており、残りが「3人」と「4人」の回答であり子供もしくは両親との同伴であった。佐世保朝市は回答の全てが「1人」と「2人」のいずれかであり、「2人」と回答した同伴者は家族（夫婦）であった。呼子朝市の場合は、「3人以上」の回答が約60%を占め、同伴者との関係は「友人・知人」「その他」が40%を占めている。これは、友達とのグループ旅行や職場の慰安旅行団体によるもので、観光型朝市の特徴である。「1人」と回答した3名は、いずれも呼子町もしくは近隣に住む住民であったが、訪問頻度（図-26）は毎日、月に1度、年に1,2度と回答がバラついた。「2人」と回答した13人中11名が家族との同伴と回答し、残りは友達であった。勝浦朝市は「1人」が50%を越しているが、「3人以上」の回答

も23%も占める。近隣住民は「1人」で訪れ、「3人以上」は呼子と同様にグループ旅行で来市していた。御宿朝市は「1人」の訪問が80%を超え、残りは「2人」であった。この「2人」と回答した2組はいずれも家族（ふうふ）との同伴であり、うち1組は男性が回答している。このことより御宿朝市は主に女性客が日常の買物と同じ感覚で訪れていると思われる。

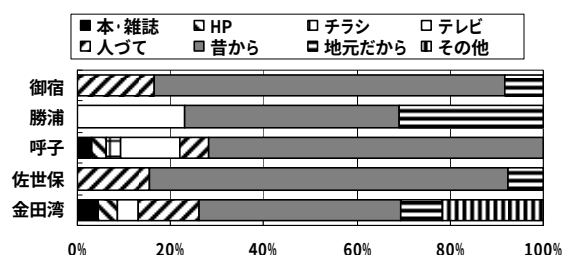
図-24は朝市会場での滞在時間を問うた回答結果であり、平均滞在時間は金田湾が27分、佐世保が31分、呼子が25分、勝浦が31分、御宿は48分である。金田湾朝市、佐世保朝市、呼子朝市、勝浦朝市は滞在時間の分布に大きな差はないように思われるが、生活型朝市の金田湾と佐世保は「20分」の回答比率が最も高く、観光型朝市の呼子と勝浦は「30分」が最も高いが「10分未満」も多数を占めている。生活型朝市は地元住民の商品購入を達せするまでの所要時間と考えることができるが、観光型朝市は近隣住民であろうと観光客であろうと、短時間から長時間までの幅広い所要時間に渡っており、理由がはっきり分らない。ただ、想像できる範囲として滞在時間が短い理由は、地元住民は商品購入を終えると店主と短い挨拶を交わし喧騒した場所から早く離れたい心理が働いたことや、観光客の場合は主目的が朝市訪問でなく景勝地観光やアミューズメント行楽など別にあり、朝市をついでに寄って一目見るような感覚だと思われる。御宿朝市は「10分未満」と回答した消費者が全くおらず、平均滞在時間も他の朝市よりも顕著に長い48分である。御宿の多くの消費者は商品の購入だけでなく、店主や他の客との会話に要する時間が加算されたため長時間滞在したと考える。ただし、金田湾朝市では開市前から客が商品の品定めを済ませ、手馴れたように開市と同時に目的の商品を購入し、僅か2,3分以内でそそくさと帰路につく消費者が非常に多く、彼らへのアンケート調査は時間や人手の都合上、非常に困難であり本データには反映されていない。

図-25は朝市を知った最初のきっかけを問うた回答結果である。どの朝市も、「昔から」と「地元だから」の2つの回答が多数を占めおり、朝市が地域にとけ込んで十分に認知されていることを得た。しかし、普段、朝市に來ない地域住民の意見は、必ずしもこのような回答結果とはならないと思われる。他の特徴としては、呼子朝市と勝浦朝市は「テレビ」、本・雑誌などメスメディアに関連した回答が20%程度を占めており、その大多数は遠方からの来市客である。金田湾朝市の「その他」の回答は、「ドライブ中に気付いた」や「魚釣りで付近を通るので知った」であり、適度なドライブコース沿いに開市している



※朝市会場での平均滞在時間は、金田湾:t=27.0min, 佐世保:t=30.8min, 呼子:t=25.0min, 勝浦:t=31.2min, 御宿:t=47.5min

図-24 Qc8・朝市での滞在時間 (FA, unit:min)



※朝市の開催をはじめて知ったきっかけの選択肢は、1:本・雑誌、2:ホームページ(HPと略す)、3:チラシ、4:市政だよりなど、5:テレビ、6:人づて、7:その他(FA)であり、本研究では「その他」として「昔から朝市があるので」や「地元に住んでいるので知っていて当然」といった回答が多かったために「その他」から分けて整理した

図-25 Qc9・朝市をはじめて知ったきっかけ (SA)

立地条件が影響していた。

図-26は当該朝市への来市頻度の結果である。金田湾朝市は、「月に1〜3回」の回答が最も多く、次に「週に1〜3回」と「年に1〜6回」が同率で続き、3つの回答を合計すると80%を越す。金田湾は日曜市であるため、前述の回答は「隔週程度」、「毎週」と「年に1〜6回」を示し、これより固定客の存在が確認できる。佐世保朝市は「週に4回以上」、「月に1〜3回」、「週に1〜3回」、「年に1〜6回」の順に回答しており、毎日市であることから週に何度も手軽に通っている様子や頻繁ではないが確実な常連客の存在を確認できた。呼子朝市は「はじめて」、「2,3回」の回答が60%近くを占めており、観光型朝市の様相が強い新規客がその大半である。しかし、呼子の回答には「10回程度」や「年に1〜6回」も多いことから、県外からの消費者が多いことを考慮すると、観光客によるリピーターの存在の可能性が考えられる。呼子・唐津は観光圏であるが、呼子朝市に観光客を何度も来訪させる魅力的な何かがあると思われる。ヒアリングを続けた結果、その魅力の一つとして店舗ごとに味付けの異なる名物「味酡干し」が考えられ、現の複数の消費者は知人に分けることを想定して50枚以上の大量の味酡干しを購入していた。

勝浦朝市も呼子朝市と同様に「はじめて」、「2,3回」の新規客を伺わせる回答が半数近くを占めるが、「週に1〜3回」、「週に4回以上」、「月に1〜3回」の常連客の回答も多い。図-19の住居データと本項目を比べると、新規客は観光客、常連客は地元住民であったが、呼子朝市のような観光客のリピーターは本調査では確認できなかった。御宿朝市は「週に1〜3回」が67%を占め、次いで「月に1〜3回」、「はじめて」が続いた。御宿は六斎市であるため「週に1〜3回」は、開市ごとに訪問していることを意味し、常連客にとっては朝市が日常生活になくはない存在だと考えられる。「はじめて」の回答は1つであり、人づてに朝市を知った徒歩30分の町民であった。

図-27は当該朝市への来市理由を聞いた結果である。基本的に、どの朝市においても「新鮮さ」を求める回答が多く、次いで「おいしさ」であった。一方、「安価」や「安全性」の回答は著者が期待したほど多くなかった。「その他」で聞くことのできた回答としては「季節・旬のもの」や「珍しいもの」が多く、ほとんどは近隣住民による回答であった。地域別では、金田湾朝市は「新鮮さ」、「美味しさ」、「その他（鮮魚を求めて）」が多く、魚介類を漁港朝市の特性が反映されている。ヒアリングを続けると、金田湾朝市から車で10〜15分の距離の「三崎の朝市（毎週日曜日5:00〜9:00）」も利用する客も見られ、2つの日曜市を比較した結果として、先の回答理由により金田湾で購入しているようで、現に「鮮魚は金田湾朝市、野菜や豊富さは三崎朝市」とはっきりと断言する消費者も2,3人見られた。呼子朝市は、「新鮮さ」、「おいしそう」、「観光ついで」の回答が多数であり、来市頻度の少ない客は「観光ついで」、固定客は「新鮮さ」とそれぞれ意見が集中していた。勝浦朝市は呼子と同様に「観光ついで」の回答が最も多いが、はじめての来市客が多いため「楽しそう」が次いで多く朝市に興味・関心を寄せていた様子を得た。また、4番目に多かった「日課」は、地元住民による回答である。御宿朝市は「新鮮さ」、「おいしそう」の回答が多いが、「散歩ついで」、「日課」、「その他（おしゃべり）」も多く、朝市が日常生活の一部として定着しているようである。

図-28は朝市で当日購入した商品を問うた結果である。金田湾朝市は「鮮魚」が36%を占め、他の商品と比較して多い。また調査日は生ワカメの旬の季節であったため水揚げ量が多く、安価で販売していたこともあって、「海藻類」が次点であった。佐世保朝市は「根野菜・葉野菜」の回答が多いが、佐世保は小売・卸業の出店が多いため、どの品物もまんべんなく売っていた。呼子朝市は「加工魚介」、「鮮魚」、「貝類」が多く、特に加工魚介類の中で

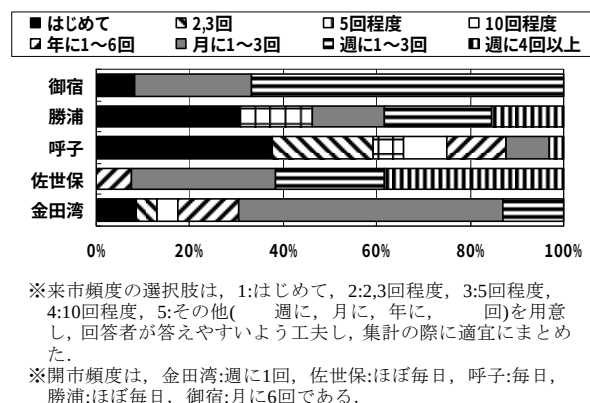


図-26 Qc10・朝市への来市頻度 (SA)

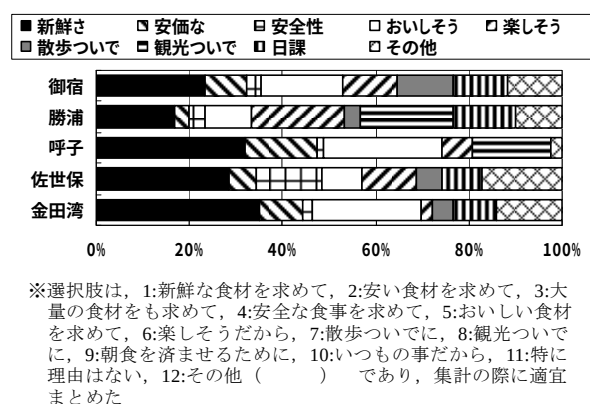


図-27 Qc11・朝市への来市理由 (MA)

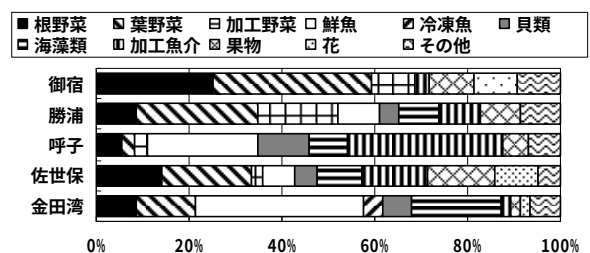


図-28 Qc12・購入品目 (MA)

も「アジの味酛干し」に人気が集まっていた。呼子町は「呼子イカ」のブランドが定着しているが、あくまでも活イカであり現地で消費することが前提であり高価な食事である。一方、アジの味酛干しは、サイズによって値段も異なるが5匹〜8匹で500円程度の手頃な価格であること、味酛干しの味付けが各店舗によって異なること、また試食で店舗間の味比べが出来ること、鮮魚よりも日持ちクーラーバックなどの安価な簡易保存で持ち帰ることができること、調理が簡単なこと、など人気を裏付ける

様々な理由が考えられる。勝浦朝市と御宿朝市は、「根野菜・葉野菜・加工野菜」を購入する客が顕著に多かった。ただ、これは野菜類を出品する店舗が多いことや、取り立てばかりの新鮮であるためと思われる。

購入商品で留意すべき点として、鮮魚を主力商品としている金田湾朝市を訪問する消費者は、クーラーボックスや発砲スチロール箱など保存設備を消費者自身が当然のように準備していた。一方、観光型朝市の呼子や勝浦では、消費者は予め保存方法などの事前準備を用意しておらず、鮮魚よりも日持する加工魚介類、野菜などを購入していた。

図-29は朝市で当日使用した概算購入金額を問うた結果であり、平均購入金額は金田湾は2,772円、佐世保は2,354円、呼子は4,483円、勝浦は1,877円、御宿は1,650円である。金田湾朝市は1,000円以下が43%を占めているが、10,000円以上の購入者もあり、幅広い客層を示した。これはワカメやシコイワシ、アジなどの旬で単価の安い魚介類のみの購入者から、スズキ、ワラサなどの中型魚類の丸一匹買い、アワビ、サザエなどの高級貝類、冷凍マグロなどをまとめて複数購入した客（最高購入金額は18,000円）が含まれているためである。佐世保朝市は5,000円以下の範囲で、呼子朝市は2,000～20,000円の範囲で適度に回答が分散している。双方とも毎日市であるが、佐世保は地元客が日常食材の購入を目的とし、呼子は地元客よりも観光客による名産品の購入と分かれているため金額に隔たりが生じたと考えられる。勝浦朝市は300～10,000円の範囲で購入されており、地元客であろうと観光客であろうと購入金額が分散していた。御宿朝市は回答者全員が3,000円以下と回答しており、日常の買い物を済ませるように朝市に立ち寄ったため、高額購入はなかったと考えられる。

4.3 朝市の出店者へのアンケート調査の結果

本節では、アンケート調査に回答した朝市出店者の集計結果を記す。出店者のサンプル数は、金田湾はn=4、佐世保はn=13、呼子はn=15、勝浦はn=13、御宿はn=11である。調査は著者が当該朝市を一通り見て廻り、専門店や経営形態（生産者、小売店など）を確認した後、回答に偏りが生じないよう適当に調査協力店舗を選んだ。

図-30は朝市出店者の専門店（取扱い品目）の集計結果である。図より、金田湾朝市は鮮魚店2店、生花店1店、豆腐店1店である。佐世保朝市は、蒟蒻、茶、饅頭や弁当などの「その他」が多く、次いで「八百屋」、「加工魚」、「鮮魚」と「生花」が続く。呼子朝市は「鮮魚」、「加工魚」、「八百屋」がそれぞれ27～33%を占め、残りの少数

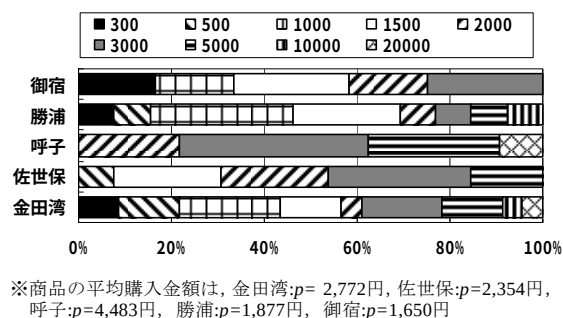


図-29 Qc13・購入金額（FA, unit:円）

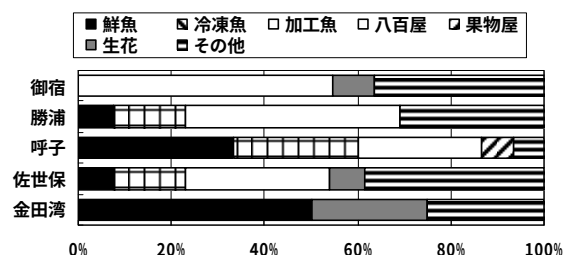


図-30 Qo1・専門店・取扱い品目（SA）

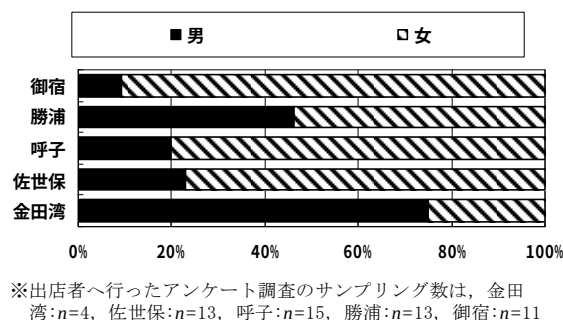


図-31 Qo2・出店者の性別（SA）

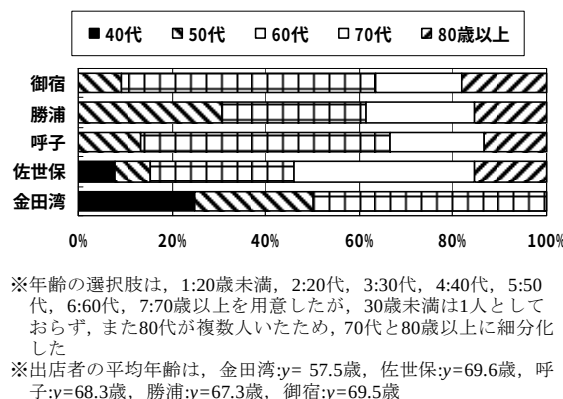


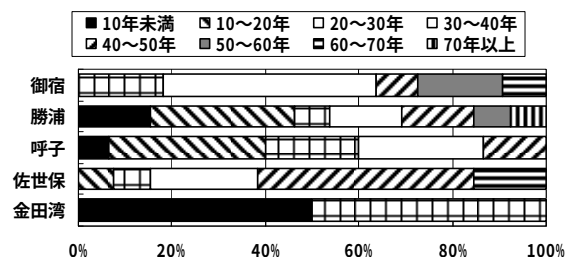
図-32 Qo3・出店者の年齢（SA）

を漬物と生花が分け合っている。勝浦朝市は「八百屋」が46%、製菓、パンや竹細工など「その他」が31%、「加工魚」が15%、「鮮魚」が8%であった。御宿朝市は「八百屋」が55%、種苗、刃物、惣菜などの「その他」が37%、「生花」が8%であった。

図-31,32はヒアリングを実施した出店者の性別と年齢であり、平均年齢は金田湾57.5歳、佐世保69.6歳、呼子68.3歳、勝浦67.3歳、御宿69.5歳である。金田湾朝市は男性出店者が半数を超え、また他の市よりも年齢層も平均年齢も若いことが特徴である。金田湾は、出店者が出漁した漁業従事者であることから男性に偏り、また現役の漁師であるため年齢は若い。しかし、今回ヒアリングに回答した全員が店主であり、朝市運営を手伝う若い漁業組合員は含まれていないために、朝市に従事するスタッフ全員を考慮すると平均年齢はもっと若い。佐世保朝市は女性が8割近くを占め、また年齢層は70歳代が最も多く、高齢化が著しい朝市である。呼子朝市と御宿朝市は女性が大多数を占め、年齢は60歳代が50%程度であった。勝浦朝市は男性と女性の割合が同等であり、年齢は50歳代の占める割合が金田湾を除き他の市よりも多い。しかし、平均年齢で見ると、金田湾を除く4つの朝市の中においては勝浦が最も若い、特に大きな差異ではない。

図-33は朝市への出店年数を問うた結果であり、平均出店年数は金田湾は15年、佐世保は42年、呼子は26年、勝浦は30年、御宿は41年である。金田湾朝市は「10年未満」と「10～20年」の回答が全てであり、開市開始年が1978年と他の朝市よりも歴史が浅く、また2003年より漁業組合員以外の店舗を加えたことも大きく影響している。佐世保朝市は1946年以降に正式な朝市が興ったため、2,3世代の店舗経営が多い。御宿朝市は佐世保同様に2,3世代に渡る古い歴史を刻んでいるが、100年前から続く朝市であるため実際にはどのくらい昔から営業しているのか把握していない状況であった。呼子朝市と勝浦朝市は、昔から2,3世代を継いで出店している生産者と、定年退職を一つのキッカケとし観光客を主要ターゲットとする営業年数が少ない小売店によって構成されている。

図-34は店舗の経営人数の回答結果である。金田湾朝市は、網元と網子の共同経営、家族経営、また漁協組合員でない新規参入の出店者は朝市組合に人数の補填を頼んでいることもあり、複数人による経営が全てである。金田湾の出店者は、休む間もなく取れたばかりの魚を生簀から搬出したり、短時間の間に多数の消費者を相手に売買するため、十分な人手が必要となるため複数人による経営である。その他の朝市では、図に示すとおり1人、2人の経営ばかりであり、金田湾の経営人数は特徴的であ



※出店年数の回答は、自由回答形式で行った
※平均出店年数は、金田湾:y= 15.0年、佐世保:y=41.9年、呼子:y=25.7年、勝浦:y=29.6年、御宿:y=40.5年

図-33 Q₀4・出店年数 (FA, unit:年)

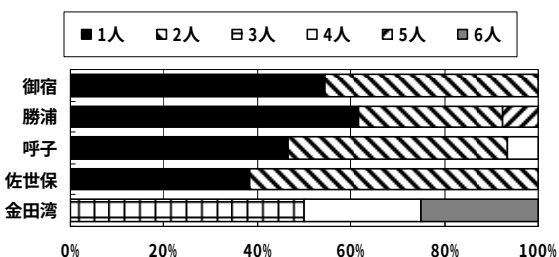


図-34 Q₀5・経営人数 (SA)

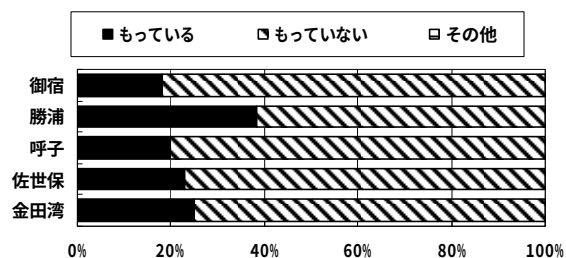


図-35 Q₀6・朝市以外の店舗保有状況 (SA)

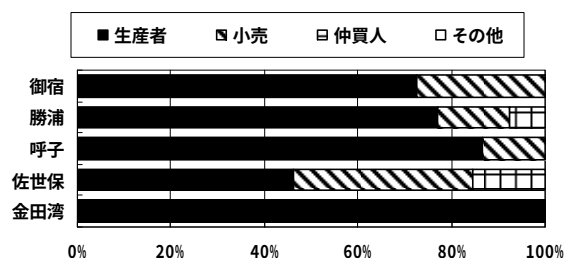


図-36 Q₀7・業種 (FA)

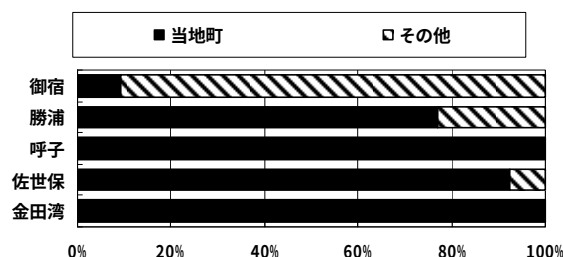
る。1人による販売は、店舗資材や商品の搬入、店の設置、商品の陳列と販売、店の撤去、店舗資材と商品の搬出を全て行う必要があり、取り扱い商品の種数が少ない生産者に多い経営方法である。2人の場合は小売や卸し業に多く、家族の協力を得て店舗資材や商品の搬出入や設置・撤去を共同で行い、販売を1人でする店舗と、販売も含め

て全てを2人で行う店舗に分かれる。鮮魚店の場合は、漁を夫や息子に任せたり、仲買から魚介類を仕入れて、販売は店主が務める形態が多かった。野菜を販売する生産者は、育てた野菜、花、果物や畑周辺に自生する野草を前日もしくは当日早朝に摘んでいる店主が多かった。

図-35は当該朝市以外に販売店を持っているかどうか、図-36は業種を問うた結果である。基本的に、どの市においても朝市以外に小売店を持つ人は少なく、専ら商品販売は朝市に限られる店主が多い。佐世保朝市を除く、他の市では生産者が多数を占め、次いで小売業、仲買人の順であった。一方、佐世保は小売・仲買人が半数以上を占める露店販売の市場の様相が強いため、生産者の割合が少ないことが特徴である。ただしどの朝市においても、「生産者」と回答した店主の中には、生産や加工を施した商品をひいきの飲食店へ納品したり、農水産物の一部を自ら生産し残りの商品は中間業者に卸してもらい販売するなど小売業に近い形態の店舗も多く、厳密な意味での生産者ではなく、本データはあくまでも参考値として考える。別途のクロス集計結果では、小売業の半数は店舗を保有し、生産者の25%は店舗を持たないまでも農業組合や漁業組合以外に委託販売や無人販売所などのルートで販売をしていた。

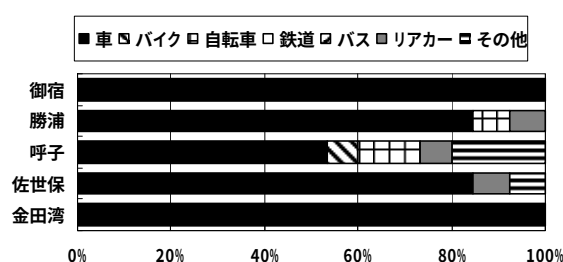
図-37は店主の居住地もしくは店の住所を問うた結果である。図より、御宿を除く朝市では当該地からの出店者が多数である。金田湾朝市は当初より地元の店主に限り出店を許可しているが、他の市は出店に制限を設けていないにも係わらず地元が多数を占め、「その他」の回答も隣接市町村からの出店であった。ただし勝浦朝市は主催者へのヒアリングの結果、地元業者が占める割合は40%程度であることを得ており、本結果は目安である。御宿朝市は御宿町が隣接する市町村と比べて規模が小さく出店数に限りがあることや、夷隅・長者地区は六斎市が多数開かれているため地元の市に限らず近隣の複数の市に出店していることも当該地の回答が少ない理由である。特に、御宿25店舗のうち2店舗は、六斎市の特性を生かし、毎日どこかの市に出店する「流し」の小売店舗であり、御宿の約1/3店舗は、近隣朝市に出店していた。

図-38は朝市へ出店する際に用いる交通手段を、図-39はその所要時間を問うた結果である。金田湾朝市は出店者のほぼ全員が三浦市南下浦町に住んでいるが、居住地域の大半は盆地であり漁港との間に坂道があることや、漁港内に駐車スペースが十分あるため、居住地と朝市会場との距離は近くとも自家用車でのアクセスしていた。佐世保朝市も駐車スペースが十分あることと、佐世保市が広く自宅から朝市会場までの距離が長いことから車で



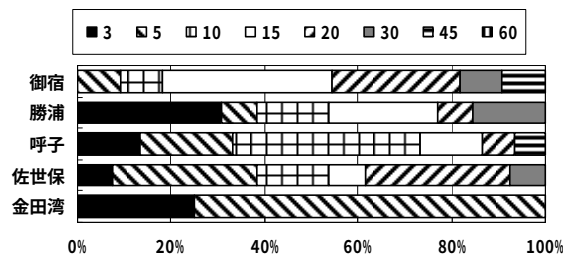
※金田湾の当該地は三浦市南下浦町、佐世保は佐世保市、呼子は呼子町、加部島町、鎮西町、勝浦は勝浦市、御宿は御宿町である。
※佐世保の「その他」は西海町、勝浦はいすみ市、御宿は勝浦市、いすみ市、長生郡である

図-37 Q₈・自宅または店の住所 (SA)



※佐世保の「その他」は朝市会場の側に倉庫を所有し徒歩によるアクセスであり、呼子の「その他」は3輪自転車、電動カート、朝市通りに倉庫を所有である

図-38 Q₉・出店の際に用いる交通手段 (FA)



※平均所要時間は、金田湾が4.5min、佐世保が12.9min、呼子が11.7min、勝浦が12.5min、御宿が19.1min

図-39 Q₁₀・交通手段の所要時間 (FA, unit:min)

のアクセスが80%を越していた。呼子朝市は出店者のための十分な駐車スペースが整っていることや、勝浦や御宿と違って店舗が道路に並ぶと自動車が通行できないほど道幅が狭いこと、比較的近い距離に自宅や加工工場があること、などの理由により他の市よりも自動車によるアクセスの割合が少ない。また、自転車や電動カートの出店者は一度に運び込める量の商品しか販売しない、リヤカーや3輪自転車の出店者は多量の商品を運搬していた。呼子の所要時間が45分と回答した出店者は、電動カート（時速3km程度）に乗って毎日出店する自加工の

漬物屋であり商品の種量も限っていた。勝浦朝市は勝浦市の面積が広い朝市会場まで十分な距離があることや、道の両端に店舗が立っても搬出入の自動車が通行できる道幅であること、陳列商品が多量であることやテントや棚の設備を持ち込む必要があることため自動車でのアクセスが多数を占めている。ただ、勝浦朝市の一部の店主は、近くの民家の空きスペースを借りるなどしてテント設備一式を保管していた。御宿朝市も勝浦朝市と同様に、店主は陳列商品と店舗設備を運搬するため車での運搬が必須であり、テントを固定するためのウェイト（石やコンクリートブロック）のみを空きスペースに保管していた。しかし、御宿朝市の店主は勝浦店主よりも所要時間が長く、図-37の住所を考慮すると、自宅と開市場所の距離が離れているため自動車に依存せざるをえないと考えられる。昔の夷隅・長者地区の六斎市の店主は、籠に商品を満載して背中に担ぎ、鉄路を利用して朝市会場を目指す「行商」がほとんどであったが、自動車の普及と道路の整備が進んだことによって自動車でのアクセスが増加したと考える。さらに勝浦朝市は毎日開催される朝市であるため、店主は当該地に拠点を置くことが最善策と思われ、他方、六斎市の御宿朝市の店主は複数の市を掛け持ちしたりするため、当該地以外に拠点を置いても問題は少なく、その代わり移動距離が長くなるため自動車の所要時間が長い結果を得たと推測できる。

図-40は雨天時に朝市へ出店するかどうか出店者へ問うた結果である。全天候型施設の整った金田湾と佐世保の出店者は、雨天時であっても開店する人が多数であった。概して漁港朝市は、前日、当日が時化の時は朝市を開くことはないが、金田湾は房総半島の拠点を置く他の漁業組合から鮮魚を回してもらったり、干物などの加工物を積極的に販売するなど対応を取っていた。呼子朝市は、雨天時でも出店する人が7割を超え、特に週末であったならば休まない回答が多く、週末の観光客に期待していた。また、呼子で鮮魚を取り扱う店主は自身で漁に出掛けるため、時化次第という回答も得た。ただし、サザエ、アワビ、ウニなどを専門に取り扱う店舗は、自宅で蓄養することができるため出漁で生活を得る店主とは異なる。逆に、勝浦朝市は雨天時には休むと答える人が70%近くを占め、呼子とは異なる結果となった。ただし、週末であれば出店するという回答は呼子同様に多かった。御宿朝市は、全天候型に未対応の呼子、勝浦と同じであるが、六斎市と毎日市の開催頻度が違う条件にあり、雨天時であっても生活のため開市せざるを得ない事情のためなのか、60%以上の店主が出店すると回答した。他の意見として、季節によって体力的に厳しい冬や収穫のな

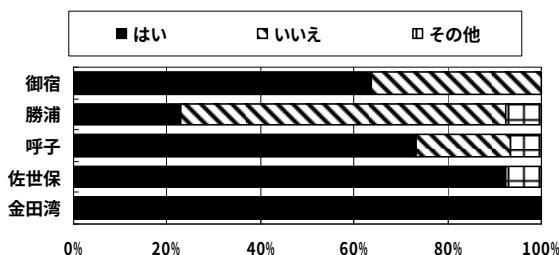


図-40 Q0.11・雨天時に出店するかどうか (SA)

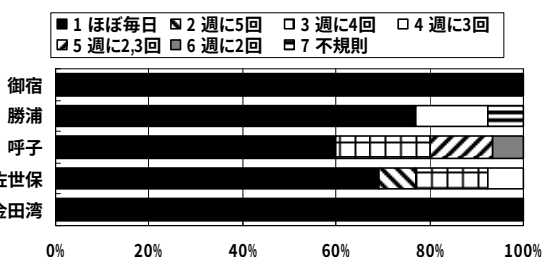


図-41 Q0.12・雨天時でない場合の出店頻度 (FA)

表-6 Q0.13・出店理由 (FA)

	複数意見	少数意見 (回答が一つ)
金田湾	-	好きだから、需要がある、固定客の存在、生産物があるので、客の喜び、客の意見がダイレクトに返ってくる、朝市が開いているので、商品に自信がある (安い、うまい、新鮮)
佐世保	生活のため×4 他に売る場所がない×3 習慣×2 客とのふれあい×2 健康のため×2	皆が出店するので、規格外商品の販売が可能、代々出店している、生活保護を受けたくない、客に直接商品を売りたい
呼子	生活のため×6 高く売れるので×2	無農家のこだわり、商品に自信がある、他の店と商品の交換ができる、需要がある、賑わい、固定客の存在、ふれあい、楽しい、観光客のため、好きだから、退職をキッカケに、固定店舗が朝市通りに面している
勝浦	生活のため×5 客とのふれあい×2	需要がある、移動販売をやめたので、健康のため、小遣い稼ぎ、商品を広めたい、習慣、退職をキッカケに、代々出店している、年金だけでは不安、客が心配するので辞めるにも辞められない、紹介された、商売ができるので、店の売上に貢献したい、仲間・小売業が生き残れるように
御宿	生活のため×7 固定客の存在×2 生産物があるので×2 ポケ防止×2	習慣、楽しい、他に売る場所がない、代々出店している、市と客との信用がある、客とのふれあい、店が遠方にあり客が訪ねるには不便なので、家にいてもしょうがない、配達も兼ねて、規格外商品の販売が可能
全て	生活のため×22 客とのふれあい×6 他に売る場所がない×4 固定客の存在×4 習慣×4 健康のため×3 需要がある×3 代々出店している×3 生産物があるので×3 ポケ防止×2 高く売れるので×2 商品に自信がある×2 好きだから×2 規格外商品の販売が可能×2 楽しい×2 退職をキッカケに×2	客の喜び、客の意見がダイレクトに返ってくる、朝市が開いているので、皆が出店するので、生活保護を受けたくない、客に直接商品を売りたい、無農家のこだわり、他の店と商品の交換ができる、賑わい、観光客のため、固定店舗が朝市通りに面している、移動販売をやめたので、小遣い稼ぎ、商品を広めたい、年金だけでは不安、客が心配するので辞めるにも辞められない、紹介された、商売ができるので、店の売上に貢献したい、仲間・小売業が生き残れるように、市と客との信用がある、店が遠方にあり客が訪ねるには不便なので、家にいてもしょうがない、配達もかねて

※回答意見は簡潔な表現でまとめてある

い時期は避けるといった回答もあった。調査時の春先は、農産物は収穫物が少なく、田植え、種まきや苗植えの繁忙期であったために出店数も少ない時期だそう。別途、

生産者と小売業者を比較したところ、小売業者の方が雨天時であろうが出店する傾向にあり、小売業は販売でしか生活を支えることはできないためだと思われる。このように、全天候型施設を持つ市は天候に左右せず開店し、未対応の市は開店率がやや低いことを得たが、天候と開市頻度との関係を明確に見いだすことはできなかった。ただし雨天時であっても客の多い週末は、どの市であっても出店数は多いようである。

図-41は開市日が雨天日でないと仮定した場合に、どのくらいの頻度で出店するかを聞いた結果である。週末市の金田湾朝市と六斎市の御宿朝市は、開市の度に全員が出店すると回答し、毎日市の佐世保朝市、呼子朝市、勝浦朝市はほぼ毎日との回答が多数を占めた。ただ、後者の中には週に2～4回程度の回答も見られ、その全員が生産者であった。生産者は、自ら商品を栽培・収穫および水揚げする必要があるため、毎日朝市に出店することが現実的に難しいからと思われる。

表-6は朝市に出店する理由を尋ねた自由回答を簡潔にまとめたものである。サンプル数56人（ただし、1人無回答）のうち「生活のために」の回答が最多の22件あり、当然のことであるが基本的に収入を得て日常生活を送るために出店している。他の意見としては、「客とのふれあい」の6件、「好きだから」や「楽しいから」の2件ずつなど朝市を積極的に楽しむ回答も得た。また、「固定客の存在」、「習慣」や「代々出店している」など出店することが当然のことであり、続けざる得ない回答や、「他に売る場所がない」や「生産物があるので」のような小売店舗を持たないため販売機会がないことや、農業組合や漁業組合以外に小口の商品、珍しい商品や規格に沿わない商品の販売・流通経路を持たないために直接販売をせざる得ない回答も多数みられた。他に多い出店理由には、「健康のため」や「ボケ防止」の朝市に出店するため家から外に出ることや、他の出店者や客との挨拶や会話を通して刺激を受けことで、体を動かし頭を働かせ健康を保てる利点を含んでいる回答も得た。気になった少数意見は「退職をきっかけに」が2件あり、偶然かもしれないが観光朝市の呼子と勝浦の店主から得た回答であり、退職をきっかけに自ら食品工場より商品を仕入れて朝市で小売業をはじめた店主と、趣味のそば練りが高じてワラビ餅専門の製造販売店を朝市近辺に開店した店主であった。

表-7と8は当該朝市の長所と短所を店主に尋ねた回答結果である。店主は、商品や売上げに係わる利点よりも「会話」、「いい人ばかり」、「ふれあい」、「元気をもらえる」や「楽しい」など人付き合い、社交性を評価する回答が多い。他方、商品に関する回答として、「新鮮な商品」、

表-7 Q₀14・朝市の長所（FA）

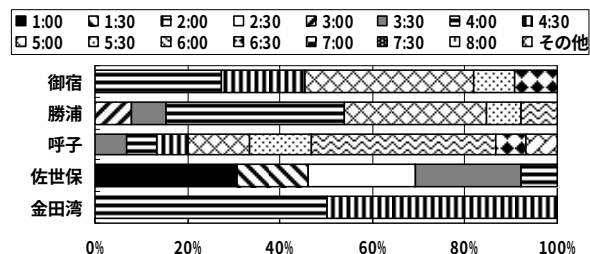
	複数意見	少数意見 [回答が一つ]
金田湾	-	いいところばかり、出会い、誇りを持てる、努力の継続、新鮮な商品
佐世保	ふれあい×3 新鮮な商品×2 安い商品×2	いいところばかり、出店の環境が整っている、競合店が切磋琢磨し客足が絶えない、市場より高く売れる、顔なじみに融通が利く、楽しい、体を動かせる、元気をもらえる。
呼子	いい人ばかり×3 会話×3 元気をもらえる×2	ボケ防止、体を動かせる、出会い、昔なじみの客、売り手が多い、楽しい、品物が揃う、新鮮な商品、人情味、のんびりしている、色んな情報を得る、商売の勉強ができる、商品を直接売ることが出来る
勝浦	会話×3 収入を得る×2 物々交換×2 人情味×2	ふれあい、新鮮な商品、いい人ばかり、商品が売れる、地元民の喜び、にぎやかな時間を過ごせる、楽しい、朝市そのものもいい、客が多い、レトロさ
御宿	新鮮な商品×2 商品が売れる×2 会話×2	ストレス解消、家に帰るとご飯が美味しい、安全な商品、体を動かせる
全て	会話×8 新鮮な商品×7 いい人ばかり×4 ふれあい×4 元気をもらえる×3 楽しい×3 商品が売れる×3 体を動かせる×3 人情味×3 いいところばかり×2 安い商品×2 収入を得る×2 物々交換×2 出会い×2	誇りを持てる、努力の継続、出店の環境が整っている、競合店が切磋琢磨し客足が絶えない、市場より高く売れる、顔なじみに融通が利く、ボケ防止、昔なじみの客、売り手が多い、品物が揃う、のんびりしている、色んな情報を得る、商売を勉強できる、シニア品を直接売ることが出来る、にぎやかな時間を過ごせる、朝市そのものもいい、客が多い、レトロさ、ストレス解消、家に帰るとご飯が美味しい、安全な商品

※回答意見は簡潔な表現でまとめてある

表-8 Q₀14・朝市の短所（FA）

	複数意見	少数意見 [回答が一つ]
金田湾	営業時間が短い×2	季節物なので仕方がないが品揃えが少ない
佐世保	客が少ない×4	寒い、店主の高齢化（跡継ぎがない）、直売所に押されている、スーパーの進出、活気がない、朝が早い
呼子	客が少ない×2 客質の低下×3 不況×2	売れないときは売れない、市全体のまとまりに欠ける、寒い
勝浦	-	平日の出店数が少ない、駐車場がない、寒い、客質の低下、屋外ゆえに商品の劣化、朝市のみで生活できない、苦しい現状
御宿	客が少ない×5 客と店主の高齢化×2	客質の低下、トイレがない、直売所に押されている
全て	客が少ない×11 客質の低下×5 寒い×3 不況×2 営業時間が短い×2 直売所に押されている×2 客と店主の高齢化×2	季節物なので仕方がないが品揃えが少ない、店主の高齢化、スーパーの進出、活気がない、朝が早い、売れないときは売れない、市全体のまとまりに欠ける、平日の出店数が少ない、駐車場がない、屋外ゆえ商品の劣化、朝市のみで生活できない、トイレがない

※回答意見は簡潔な表現でまとめてある



※平均起床時間は、金田湾が4:15、佐世保が2:13、呼子が5:23、勝浦が4:27、御宿が4:49min

図-42 Q₀15・出店日の起床時間（FA）

「商品が売れる」、「安い商品」が列挙することができるが、前述の人付き合いと比べると少なく、店主にとっての朝市とは会話などを通じて触れ合うことのできる空間であり、これが賑わいに結びつくものとする。短所の回答例としては、「客が少ない」、「不況」、「営業時間が短い」、「直売店におされている」など売上げ収益の少なさに関する回答が多い。また、「客質の低下」の回答が2番目に多く、また複数の朝市で確認できた。観光型朝市は、朝市に不慣れの客層が多く、具体的には、店主の説明発言に客が興味を示しているのか店主が判断できない、店主と別客との会話のやり取りの最中でいつ購入意図を示すのかタイミングの取り方、客が商品の数量に固執し美味しさ・新鮮さ・時分など商品の本質に興味を示さない、客の執拗な値引き交渉など、スーパーマーケットで買い慣れた一般消費者の店主との応対、商品への造詣や選択方針が大きく影響しているようである。しかしながら、この店主との会話や駆け引きが、非日常的であり朝市独特の雰囲気を生み出す要因だとも思われ、今後は双方理解が必要だと考える。

図-42は出店者が朝市に出店する日の起床時間、図-43は出店者が朝市会場に到着する時間を尋ねた結果である。金田湾朝市の出店者は、4:00～4:30に起床し、商品の搬入や定置網漁を済ませ5:00～6:00に会場入りしていた。出店者は5:50の開市までに準備や商品陳列を済ませ、客は開市までの間に会場内を一通り回り、その日の商品を吟味するのが通例となっている。佐世保朝市は起床時間が1:00～4:00、到着時間が2:00～5:00と出店者によって3時間の幅がある。佐世保では朝市組合によって出店・搬入時間が2:00～5:00（開市時間は3:00～9:00）と決められており、取り扱う商品の性質、小売店への納入時間などを考慮して開店時間を店主裁量に任せている。呼子朝市は起床時間が3:30～6:30、到着時間が5:00～10:00であり、他の朝市と比べて会場到着時間に個人差が大きい。呼子の開市時間は厳密に7:30～12:00であるが、昔は場所取りが先着順であったことや地元の人のために早朝から開く店主と、定置網でなく一本釣りでカサゴ、ベラ、スズキなどの近海魚を獲得するため開店時間が遅れるために出店時間のバラツキが顕著となった。勝浦朝市は起床時間が3:00～6:00、到着時間が5:00～7:30の結果であり、朝市通りに搬入車が進入できる時間が7:00までと決められているため、開店時間に多少のバラツキはあるものの、他の朝市よりも到着時間が集中している。御宿朝市は起床時間が4:00～6:30、到着時間が6:00～8:00であり、主に7:00～7:30に集中していた。

図-44は、店を畳み朝市会場を離脱する時間を問うた結

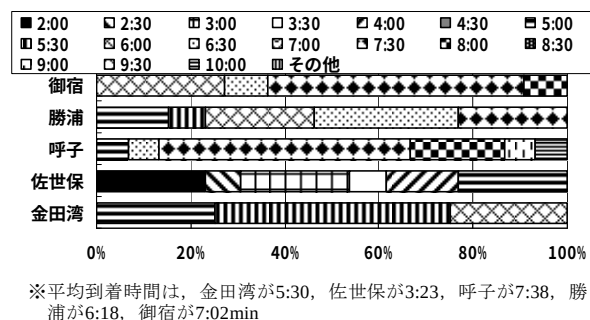


図-43 Q₀₁₅・会場到着時間 (FA)

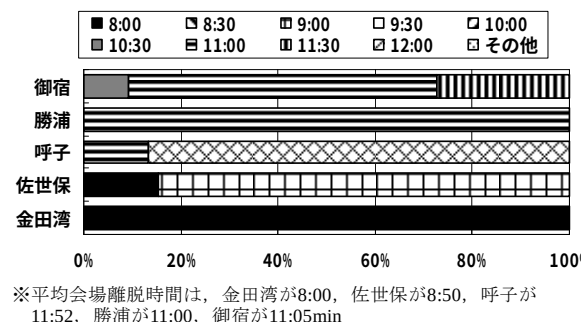


図-44 Q₀₁₅・会場離脱時間 (FA)

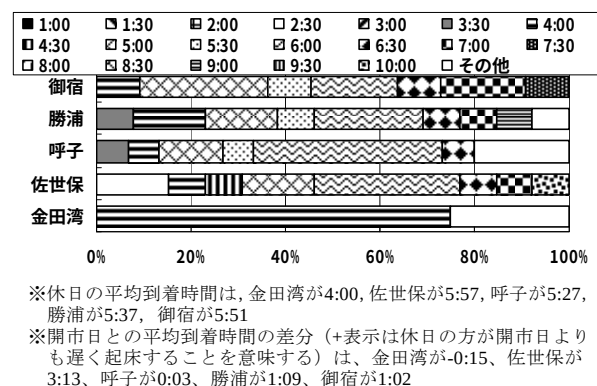


図-45 Q₀₁₆・休日の起床時間 (FA)

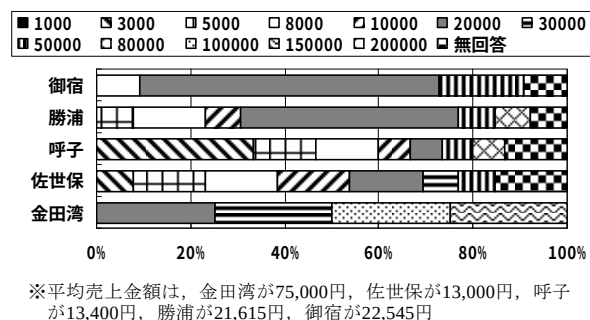


図-46 Q₀₁₇・売上金額 (FA)

果である。金田湾朝市は7:30までには目玉の鮮魚が売り切れるのを合図に、ほぼ全員で陳列台の片付けや清掃散水を行い帰路につくため、ほぼ全員が8:00に離脱する。佐世保朝市は、10:00～22:00の間は市営月極駐車場の営業時間帯であり、組合の取り決めで会場離脱を9:00と決めているため、回答者全員が8:00～9:00の間に店を畳み、会場を離れる。呼子朝市は道路使用許可を7:00～12:00の時間帯で申し込んでいるため、12:00以降は一般道路として機能を戻す必要があり11:00～12:00に会場を離脱している。勝浦朝市も道路仕様許可の都合上、11:00に会場を離れている。御宿朝市も道路使用許可を得て開市しており、店によって多少の時間差はあるものの11:30までには会場を離脱している。いずれの朝市も営業時間のルールや道路交通使用許可に従い、閉市時間を厳守し朝市の統制が取れていた。会場滞在時間に注目して図-43との差分を取ると、金田湾は2:30、佐世保は5:27、呼子は4:14、勝浦は4:41、御宿は4:02であった。

図-45は出店者が朝市に出店しない日の起床時間を尋ねた結果である。金田湾朝市は4:00に起床しており、開催日とほぼ同じ時間であった。調査に回答した出店者は網元2名、豆腐店、生花店であり、普段の生産・製造サイクルが早朝に偏っている職業だと思われるため、市日と休日が同じとなった。佐世保朝市は5:30～6:00に起床する店主が多く、普段の開市時間が3:00の深夜であることから休日はゆっくりと体を休めている状況が想像できる。呼子朝市は6:00に起床する店主が40%を占めており、また開市日の平均起床時間とも差はないことから、朝市のサイクルが体に負担をかけることもなく店主の日常生活に定着しているものと考えられる。勝浦朝市と御宿朝市は、主に4:00～7:00に起床しており個々によって起床時間が広く分散していた。

図-46は店舗の売上金額の結果である。金田湾朝市はサンプル数が少ないとは言えども、鮮魚店の売上が10万円を超える店もあり、平均売上金額も他の市よりも顕著に大きいことが特徴である。「漁港朝市」であるがゆえ新鮮な魚介類に特化した提供とその周知が、背後や近隣市町村に住む多くの消費者を十分に満足させていることや、消費者の利便性を考慮した日曜市であるため店舗当たりの売上金額が大きいと考えられる。佐世保朝市は小売と仲買が半数を占めるため、3,000～5,000円の比較的売上金額の少ない生産者から20,000～50,000円の小売・仲買まで幅広く分散している。呼子朝市も佐世保と同様に売上金額にバラツキが見られるが、漁業や農業の生産者による営業店舗から観光客を主なターゲットとする土産店舗まで規模や陳列商品が異なるため分散が著しい結果となっ

た。勝浦朝市も観光朝市の呼子と同様に店舗によって売上金額の差が大きく、理由も生野菜や鮮魚の単体販売と加工農産物や海産物などの観光土産の取り扱い商品による差だと推測できる。御宿朝市は20,000円の回答が64%を占めており、平均売上金額も金田湾に次いで2番目に高額であった。御宿は六斎市であり、5日に一度の市日を心待ちにしている多くの消費者を抱えるため、3つの毎日市よりも店舗あたりの平均売上金額は高いと考えられる。

5. 定期市が盛んな地域の朝市特性

5.1 一般的な「朝市」とは

前章までに、5つの朝市を踏査して回り現況確認とヒアリング調査結果をまとめた。ただ、本研究をまとめるにあたり5つ以外の朝市についても足を運ぶにつれて、対象の5つの朝市は独自性がやや強いと感じられた。具体的には、呼子と勝浦は全国的に著名であり規模の大きな観光型朝市であること、金田湾は中規模であるが市内はもちろんのこと県内外でも名が知れ、朝市専用建物を所有していること、佐世保も市内外でも知られる大規模な生活型朝市であること、御宿は歴史が長く近隣にも複数の朝市が興るほど地域に定期市文化が根付いている環境であること、など一般に地域で開かれている朝市とは規模から、客層、取り扱い商品、開市環境などがかけ離れていることに気付いた。そこで本章においては、「朝市」についても一度振り返り、大小様々な朝市の基礎情報を文献により収集し、「朝市」の特徴について考える。

5.2 一般的な「朝市」の調査方法

調査は、朝市を主題とした市販の情報ガイドブックに掲載されている記載内容や挿入写真から情報を抽出し、分析を行った。ガイドブックを参照した研究事例としては中島（2001）があり、1900年前後の風土記稿、市史や台帳と近年の観光案内のガイドブックに記されている市を比較し、市の位置付け、機能について分析を行っている。本研究では、開市日、開市時間、立地場所、立地環境、出品物などの最低限掲載される内容に絞って抽出し、

表-9 データ収集を行ったガイドブック一覧

書籍名	発行年	著者	対象都道府県
かながわの朝市	1999	松井幸夫	神奈川県
新鮮な朝市ガイド —愛知全域—	1996	東海朝市縁日 クラブ	愛知県
福岡 人気の朝市・直売所めぐり	2007	南 英作 村岡忠行	福岡県
朝市・直売所ガイド —北陸の旬がいっぱい—	2003	北国新聞社	石川県 富山県 福井県

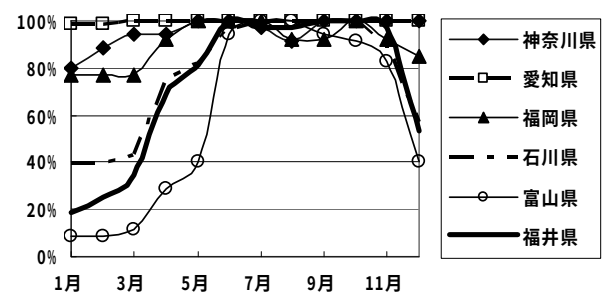
表-10 ガイドブック4冊から抽出した6県の朝市一覧

神奈川県	愛知県	福岡県	富山県
港北ニュータウンふれあい朝市	JA扶桑町	いか太郎	おやっちゃん店
金田湾の朝市	JA海部東基目寺支店朝市	津屋崎魚まつり	立山町朝どり市
三崎朝市会	JA海部津島支店朝市	鐘崎朝市	みずの里市①
ハママ・マーケット朝市	三・八の市	志摩の朝市	みずの里市②
腰越漁協の直売所	八幡社四・九市	姪浜朝市	あじさいグループの朝市
片瀬漁協の朝市	熱田神社五・十の市	福吉ふれあい朝市	朝市(れは)
大和市民朝露市①	半田市の一・六市	いるべ青空市	アリス朝市
大和市民朝露市②	半田市の二・七市	元岡フレッシュ朝市	大手町朝市
さがみはら市民朝市①	半田市の三・八市	宝満の市	越州村朝市会
さがみはら市民朝市②	常滑市一・六の市	黒木ふるさと日曜市	岩瀬の朝市
厚木市民朝市	小笠公園の日曜朝市	中島朝市	とれたて市
JAはだの朝市	堀田稲荷の五・十市	椎田の朝市	八日町市
JAはだの朝市・本町支所	JA知多ふれあい広場	宇島漁協朝市	瑞泉寺前門前市
二宮町漁協の朝市	御嶽社五・十市	石川県	野菜畑
小田原・港の朝市	白山比売神社一・六の市	輪島の市	福光の朝市
湯河原・観光日曜朝市	桜井神社二・七の市	松任朝市	大島朝市
中川地区ふれあい朝市	八幡神社四・九の市	七尾ふれあい市	たかおか朝市
横浜中部地区市民朝市	一・六市	日曜朝市	伏木ふれあい朝市
東戸塚市民朝市	広見の三・八市	とりや朝市	といで朝市
栄市民朝市	JA知多野菜の朝市	二七の朝市	富島農林産物即売市
鎌倉漁協の朝市	高浜五・十朝市	わくろ朝市	土ッ器り屋「朝市」
湘南国際村朝市	一色漁港朝市	てんと市	農産物自由市
朝市野菜直売	諏訪神社五・十の市	美川きとときと市	福井県
小網代の朝市	JA吉良町ふれあい市	びちびち魚市	三国朝市
朝一番得の市	幡豆漁港の市場	ふれあい市	七間朝市
千村若竹会朝市	みどり川四・九朝市	河合谷の郷即売所	おそんじゃバサージュ
伊勢原市民朝市	八幡町二・七市	河北潟干拓地 月の市	パークイン丹生ヶ丘朝市
大磯町漁協の朝市	田口町の朝市	JA根上 いきいき市	竹田朝市
藤沢地区江の島朝市	福岡町の三・八市	能登国輪島地元市	ふるさとあじさい市
岸農産物朝市会	中島町の二・七市	ふるさと青空市①	美浜ハートフル朝市
みやま朝市会	矢作町の三・八市	JA富栄町女性部100円市	お城の市
西部朝市	羽根町の四・九市	瀬おのみの日曜市	さんさん市
中井町民朝市	串原朝市	ふぞろい野菜市	たかはまもぎたて市
小田原市農協大窪野菜朝市売場①	進雄神社三・八の市	厚川おはよう市場	山久保ふれあい会朝市
小田原市農協大窪野菜朝市売場②	土曜青空市	松根町青空市場	あじさい市
愛知県	四・九の市	金沢湯涌みどりの里朝市	朝市(上野本町)
生玉稲荷神社朝市	羽田一・五の市	美川のおさ市	朝市(中央1)
東谷山フルーツパーク青空市場	二・七の市	ふれあい百円市	郷の市
JA守山支店朝市	三・八の市	食菜朝市	ふれあい市
JA志段味支店朝市	四・九の市	本光寺円満市	大渡婦人グループふれあい市場
JA千種区支店朝市	六・十の市	ござっせ市	ファーマーズマーケットかっちゃま
柳橋中央卸売市場	大清水のふれあい朝市	はつちを〇市	ファーマーズマーケットおの
青空市場クラブ	機切支店のふれあい市場	富山県	武生市地野菜朝市
JA小碓支店五・十市	田原町の二・七市	アグリシア高岡朝市	ふれあい市(敦賀市筋生野)
天白ふれあい市	JA蒲郡本部ふれあい市	市の里福野 2・7の朝市	ふれあい市(敦賀市神楽町)
JA橋狭間支店朝市	JA形原支店	名水の里 ふれあい土曜市	三方朝市
裕福寺一・六市	大宮社ごっとお市	魚津の朝市	神子朝市
JA尾張旭朝市	八剣社一・六の市	つるぎの味蔵市	ふるさと朝市(上中町)
JA高蔵寺ふれあい青空市	三谷漁港朝市	池多朝とり特産市	ふるさと朝市(小浜市白鷺)
JA小牧朝市	西浦魚市場	おおよまちふれあい市	JAわかさ小浜女性部朝市
		なないうる朝市	若狭おばま郷トラ市
		とれたて朝市にゅうぜん	ふれあい朝市(小浜市谷田部)
		風の里朝市	いきいき朝市
		まいとさん	晴明の朝市
		自由市	あぜみち研究会
		元氣かあさんマーケット	

適宜データベース化して分析を行った。対象としたガイドブックは表-9に示す4冊でその対象県は6県である。それらの中に掲載されていた朝市一覧は表-10の通りである。各県の朝市数は、神奈川県がn=35、愛知県がn=64、福岡県がn=13、石川県がn=28、富山県がn=35、福井県がn=32であり、それら合計207市を分析の対象とする。ここでいう朝市とは、屋内外であろうと午前中に開かれている対面販売の毎日市をはじめ月に1度程度開かれる定期市のことを指し、いわゆる産地直売所や無人販売所は除外するものとした。

5.3 一般的な「朝市」の結果

図-48は一年を通して朝市を開いている月を調べた結果である。各県における開市期間を月平均に換算すると、神奈川県は11.46ヶ月、愛知県は11.97ヶ月、福岡県は10.85



※ガイドブックに掲載されていた朝市数は、神奈川県がn=35、愛知県がn=64、福岡県がn=13、石川県がn=28、富山県がn=35、福井県がn=32

※開市期間の平均月は、神奈川県が11.46ヶ月、愛知県が11.97ヶ月、福岡県が10.85ヶ月、石川県が9.21ヶ月、富山県が7.00ヶ月、福井県が8.72ヶ月

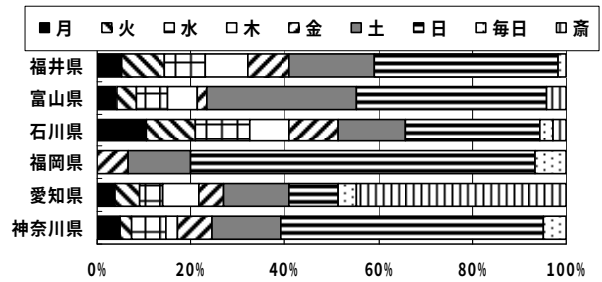
図-48 開市期間の平均月の割合

ヶ月、石川県は9.21ヶ月、富山県は7.00ヶ月、福井県は8.72

ヶ月である。神奈川県はほぼ一年中開市しているが、冬季や夏季に開市しないところもある。冬季は時化の頻発化や山間農村地帯の気温低下にともなう集客力の低下、夏季は漁港朝市において鮮魚の品質を保ちにくいことと海水浴などの行楽客を対象とした仕事に忙しいためである。愛知県の開市期間の月平均は11.97ヶ月であり、一ヶ所の朝市を除き全ての朝市が通年に渡って開市している。閉市する唯一の朝市は、山間部に立つため冬季の気象条件が厳しいと予想されるため閉市すると思われる。福岡県も神奈川県と同様の理由により冬季と夏季に休業するところもあるが、基本的に通年の営業である。ただ、周防灘を除く福岡県は玄界灘に面しているため、冬季は北西の季節風が卓越する日本海側気候のため、時化による休漁が反映され、神奈川県よりも朝市の休業が若干多い。北陸3県は、図より、これまでの3県と比較して明らかに開市期間が春～秋に限られており、開市期間の月平均は石川県の9.2ヶ月、富山の7.0ヶ月、福井の8.7ヶ月と先の3県と比較して短い。12月～3月の期間中は、積雪によって農産物の収穫種数が少ないことや寒さと雪が集客力を弱めるため朝市の営業が難しいと考えられる。ただし、石川県は朝市専用建物や集荷場などの屋根のある場所で営業する朝市が多少ながら含まれるため、富山県や福井県よりも開市月が長い。

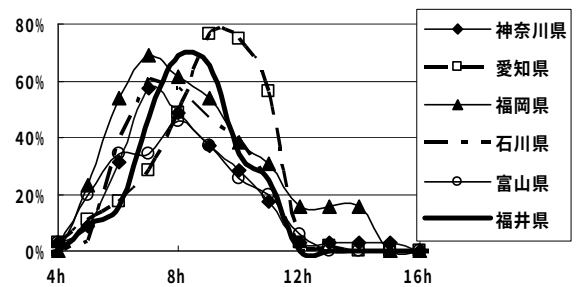
図-49は開市日を整理した結果である。神奈川県と福岡県は「日曜日」がそれぞれ50%、70%を占め、次に「土曜日」が続いており、日曜日を主とした「週末市」が普及している。一方、古来より定期市文化が根づいている愛知県は、「六斎市」が50%近くを占めており神奈川県や福岡県と対照的である。北陸3県は「平日市」が神奈川県や福岡県よりも多いが、「週末市」が多数を占める結果となった。特に、石川県の「平日市」は50%を超え、なおかつ曜日に偏りが生じておらず、富山県は「土曜日」が25%を超えている。このように開市日は、愛知県の六斎市を除き曜日市が主流であり、特に日曜日を中心に週末市が現在の朝市の姿といえる。日曜日は市場、農協や漁協が営業していないことが多く商品を出荷できないことや、一般の消費者は休日であり買物に出かけやすいため日曜市が主流になったと考えられる。

図-50は開市日の開市時間帯を調べた結果である。平均開市時間は、神奈川県が2.4時間、愛知県が3.2時間、福岡県が3.8時間、石川県が2.7時間、富山県が2.3時間、福井県が2.7時間であり、開市時間のピークは神奈川県、福岡県と石川県は7時、富山県と福井県は8時、愛知県は9時～10時であった。愛知県は他県と比べて開市時間が遅いことがわかる。これは後述するが、神奈川県と福岡県は鮮



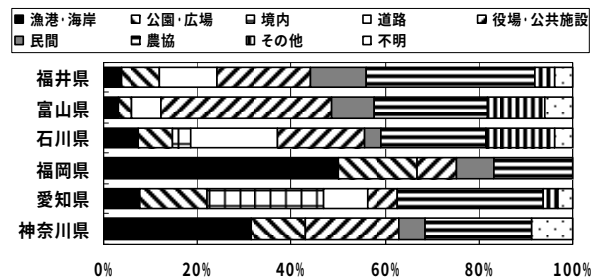
※毎日市は一週間に6回以上開く場合とした。
※「斎」は、曜日に縛られない三斎市や六斎市などのこと。

図-49 開市日



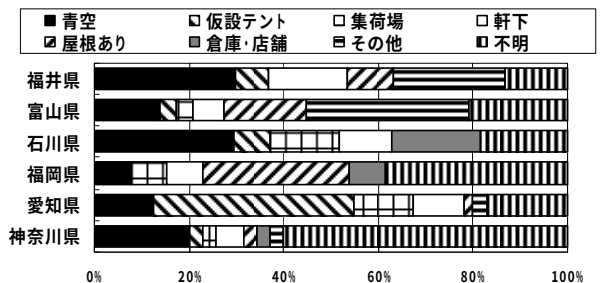
※平均開市時間は、神奈川県が $t=2.4h$ 、愛知県が $t=3.2h$ 、福岡県が $t=3.8h$ 、石川県が $t=2.7h$ 、富山県が $t=2.3h$ 、福井県が $t=2.7h$ であった。

図-50 開市時間帯



※役場・公共施設は、役場、公民館、福祉センター、市民ホールなどの駐車場や建物の軒下を指す。

図-51 開市場所



※「青空」とは全く屋根設備がないことを指し、勝浦・御宿のような朝市専用テントは「仮設テント」であり、ビーチパラソルは「青空」とする。

※「屋根あり」とは「軒下」とは異なり、屋根付きのプロムナード、駐車場、駐輪場など何らかの屋根設備が整っている場所。

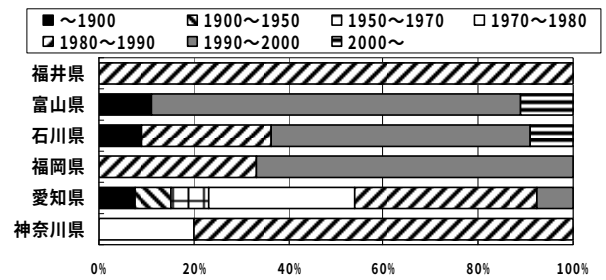
図-52 開市環境

魚を取り扱う朝市と週末市が多数含まれ、愛知県は伝統的な六斎市が多く鮮魚でなく、野菜が主要取り扱い品目であるために開市時間帯に差が生じたと考える。ただ、漁港・海岸の朝市や北陸の一部の朝市では、商品が売切れてしまっ、公表された閉市時間よりも短い市が含まれている可能性は否めず、本データの正確性には疑問が残る、あくまでも参考程度とする。

図-51は開市場所を集計した結果である。神奈川県は漁港、港湾や海岸、「農協」、「公園」や「広場」での開市が比較的多く、逆に「境内」や「道路」での営業は一切みられない。これに対し愛知県は「農協」での開催が最も多いが、「境内」と「道路」が占める割合が他県よりも多いのが特徴である。福岡県は「漁港・海岸」が半数近く占めているが、福岡県は朝市よりも産地直売所の方が数は多いが、魚介類を主に扱うのは産地直売所よりも漁港の朝市の方が多いため、このような結果が生じた。北陸3県は「農協」や「役場・公共施設」の占める割合が高く、農協や行政の支援によって支えられていることが分かる。

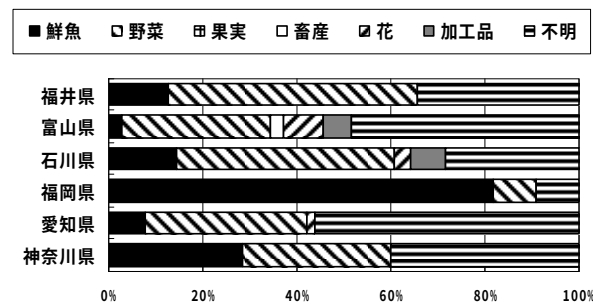
図-52は開市環境を集計した結果であるが、文章記述や写真などの情報が不十分であったため「不明」が多く、サンプル朝市数が少なかった。神奈川県は「不明」を除くと「青空」が半数を占め、他県と比較しても群を抜く。これは駐車場や公園・広場などの公共オープンスペースにおいて「青空」の状況下で運営されることが多いためである。愛知県は「仮設テント」が40%を超え、「集荷場」や「軒下」など屋根の設備が整い、「青空」が少ないのが特徴である。34の六斎市のうち「仮設テント」での営業が24市もあり、朝市文化の歴史深さが大きく影響している。福岡県は「不明」を除くと「屋根あり」が最も多く、また「青空」が最も少ないことから「集荷場」などの屋根設備が整っている場所での開催が多い。北陸3県は「青空」の占める割合が高いが、石川県は朝市専用建物や・朝市会場と倉庫を兼用した「倉庫・店舗」が多いのが特徴である。

図-53は開市年を集計した結果であるが、掲載情報が少なく神奈川県がn=5、愛知県がn=13、福岡県がn=3、石川県がn=11、富山県がn=9、福井県がn=1であり、参考データとして紹介する。神奈川県は1980～1990年が最も多いが、実際には1990～2000年とどちらが多いかは不明瞭であるが週末市が多いことを考慮すると、ここ10～30年に開市した市が最も多いと考えている。愛知県は1900年以前や戦前の占める割合が15%と少ないが他県と比べて最も置く、また六斎市などの伝統的形式の市が多数あることから、戦前に開市した朝市数はデータ数以上に存在すると



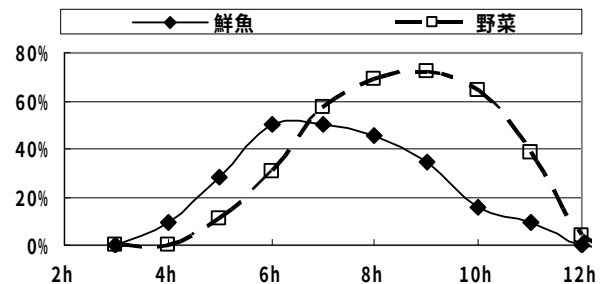
※開市年の情報が記載されている朝市数は少なく、神奈川県がn=5、愛知県がn=13、福岡県がn=3、石川県がn=11、富山県がn=9、福井県がn=1とサンプル数が少なく、あくまでも参考データである。

図-53 開市年



※畜産とは卵、肉やチーズを指し、加工品は魚の干物や漬物の他に木工細工も含まれる

図-54 主要取り扱い品目



※主要品目とする鮮魚とする朝市はn=32、野菜がn=55である。
※平均開市時間は鮮魚がt=2.4h、野菜がt=3.5hである。

図-55 主要取扱別開市時間帯

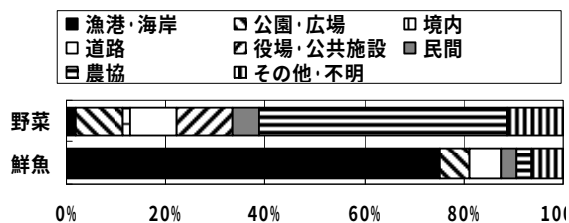
思われる。愛知県は、おそらく小規模の朝市が多数含まれていると推測され、主催者などは当該朝市の起源を明確に把握していない可能性はある。情報量のやや多い石川県と富山県については、1900年以前も少ないながらも見受けられ、また最近開かれた市も多く存在する。追記すれば、北陸3県は産地直売所ではなく、A-COPEなどスーパーマーケットの一角スペースを借りて代理販売するインショップの存在が多数確認できており、冬季の厳しい

環境においても営業できる屋内環境を追求しているようである。

図-54は主要取り扱い品目の割合を示したものであり、朝市の売り出し商品を明確に記述していない朝市は「不明」とした。神奈川県と福岡県は他県よりも漁港朝市が比較的多いことから「鮮魚」の占める割合が多く、その傾向が福岡で特に顕著である。福岡県は、近年、朝市と同様に産地直売所の開業も盛んな状況にあり、産地直売所は野菜を主要品目とし、逆に魚介類は漁港朝市での販売傾向にあるため、朝市に限れば図のように鮮魚が多数占める結果となった。神奈川県は、三浦半島から伊豆半島までの海沿いに多くの朝市を開いていることや、背後に大消費地を抱えながらも新鮮な近海魚が相模湾や東京湾口付近で取れることもあり、鮮魚を主要品目とする割合が他県よりも高いと考えられる。逆に、愛知県、石川県、富山県と福井県は野菜を主要品目とする朝市が多い結果となった。このように朝市で取り扱われる主要品目は、野菜と鮮魚の2者である。

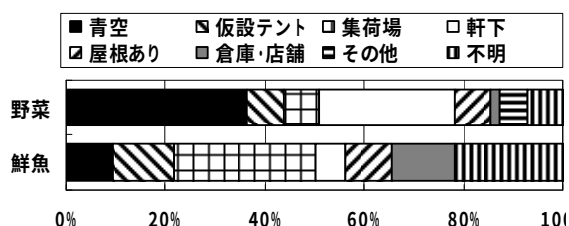
図-55は前述の結果を考慮し、開市時間帯を主要取り扱い品目の「鮮魚」と「野菜」に分けた場合での結果である。鮮魚を主要品目とする朝市は $n=32$ 、野菜が $n=55$ である。それぞれのピークは鮮魚が6時半、野菜が9時であり、平均開市時間は鮮魚が2.4時間、野菜が3.5時間であった。鮮魚が開市ピークが早く、開市時間も短い理由としては、普段、仲買人や卸し業者に出荷する時間と平行して朝市を開くこともあるが、休日の朝市開催日に日常生活リズムに合わせているため開市時間が早く、また需要が高いことや鮮度を維持できる範囲内のため開市時間が短いと考えられる。

図-56, 57は主要取り扱い品目を「鮮魚」と「野菜」に分けて開市場所と開市環境を整理した結果である。鮮魚は「漁港・海岸」で開かれる朝市が75%を占め、その環境は「出荷場」の28%や「倉庫・店舗」「仮設テント」の13%である。鮮魚は、獲得した魚介類を船倉に入れた状態で漁船を漁港や埠頭に横着けし、すぐ側の選別所・出荷場や朝市のために立てた建物や余って使われていない倉庫などで消費者に販売する形式が一般的であるようだ。野菜が主に開かれる場所は「農協」の50%と「役場・公共機関」の11%であり、環境は「青空」の36%や「軒下」の27%である。野菜の場合は、農協、役場、公民館や市民センターなどの駐車場や建物の軒下で行うことが多い結果となった。つまり、鮮魚は海水から陸上へ荷揚げする境界線上で朝市は開かれ、また鮮度の維持にも努められることから「船倉から消費者へ」の流れであるのに対し、野菜は広い空間や人が集まりやすい立地条件を求めていることが



※役場・公共施設は、役場、公民館、福祉センター、市民ホールなどの駐車場や建物の軒下を指す。

図-56 主要取り扱い別の開市場所



※役場・公共施設は、役場、公民館、福祉センター、市民ホールなどの駐車場や建物の軒下を指す。

図-57 主要取り扱い別の開市環境

ら「広さと集客力」がキーワードとなっているように思える。

6. 結論と議論

本研究は、5つの朝市を踏査し、情報として得たものとアンケート調査により消費者と出店者の率直な回答を得た。本研究で得られた成果の一覧を以下にあげる。

- ① 既往文献や本文献調査により、朝市には大きく分けて2タイプの定期市に分けられ、古来の慣例に従い月に6回開催される六斎市と、近年から始まった日曜市を代表する週市・曜日市である。六斎市の他には開催頻度の異なる三斎市、九斎市、十二斎市もあり、多くは神社境内や道路で開かれているのに対し、週末市は駐車場、公園や広場、農協や漁業組合関連施設で開かれることが多い。
- ② 現地踏査を通して得られた結果として、金田湾朝市（神奈川県三浦市）は漁港内の朝市専用建物で開かれ、近隣市町村からの常連客が新鮮な魚介類を目当てに訪れていた。佐世保朝市（長崎県佐世保市）が開かれている屋根付き空間は、深夜から朝にかけては朝市、昼間は市営駐車場、と時間帯によって1つの空間が2つの機能を有する効率的な運営が図られていた。呼子朝市（佐賀県唐津市）は歴史が深く、周

辺の観光地やブランド「呼子のイカ」との相乗効果も手伝って、人気の観光型朝市である。勝浦朝市（千葉県勝浦市）は400年以上続く毎日市であるが、月の前後半で開催場所を替える観光型朝市である。御宿朝市（千葉県夷隅郡御宿町）は100年以上続く伝統ある六斎市の1つであり、地元住民に商品の売買だけでなく社交の場も提供する生活型朝市である。

- ③ いずれの朝市も、朝市組合が組織され、代表者、役員などの役割が明確にされていた。組合は、出店場所や加入料金、運営計画・資金などのルールを定めていた。
- ④ 消費者の多くは自動車に乗って朝市会場を訪ねていた。生活型朝市では固定客が一人もしくは二人で、観光型朝市では地元客は一人で、観光客はグループで訪れていた。また消費者が朝市を訪れる理由は「新鮮」「おいしそう」の印象が強いからである。
- ⑤ 出店者は、開市日が週末であったならば、雨天時であっても消費者の訪問が期待できるように出店に前向きであった。朝市に出店する第一の理由は生活のためであるが、触れ合いや健康のためなど精神的安定を求める意見も多かった。
- ⑥ 文献調査により、朝市は一年中開いているわけではなく、地域の季節を考慮して開市していた。また朝市の開市日は、週末市、特に日曜市が主流となっていた。漁港や農協の敷地内での開市が多く、道路や境内は少ない。主要取り扱い品目「鮮魚」「野菜」に分けると、「鮮魚」は開始時間が早く、また開市時間帯も短い。

石原（1987）と原ら（1992）は、先進国で朝市などの定期市が残存しつづける条件として、①資本力の乏しい底辺の生産者や商人にとって魅力ある営業体系であること、②消費者にとって、品選びが可能で値段が安く、購買が慣習化していること、③コミュニケーションや社交の場として機能していること、④自治体などが関与していること、⑤独特の雰囲気のあること、を列挙している。この5つの条件のうち、本研究で対象とした5つの朝市においては①、②、④、⑤を確認できた。①は、余った、少量、訳ありの商品を販売できること、漁協や農協を通すよりも単価が高いこと、消費者との対面販売が生産者の意識向上に繋がっていること、組合組織で形成された共同体であること、などが対応している。②に関しては、佐世保は周辺スーパーマーケットなどと同価格であったが、いずれの朝市においても商品が豊富で単品での購入や購入数量を調整することができ、金田湾、

佐世保、御宿では地元住民の固定客、呼子は観光客のリピーター、勝浦は観光客とは別に地域住民の常連化などが存在していた。④の条件は、金田湾は県と市の助成金もあって朝市専用施設が建設することができ、神奈川新聞が定期的に催しを宣伝している。佐世保は朝市敷地を、午前中は朝市会場として、午後からは月極駐車場として運営される、1つの空間に2つの機能を共有していた。呼子は唐津市（旧呼子町）と地元商工会議所の管理下の駐車場を活用しており、またNPOと協働関係が非常に強固であった。勝浦は月前半の開催場所は勝浦市の管理下にあり、駐車場の貸し出しやトイレの立替えなど多数の協力があつた。⑤は主観的判断であるが、金田湾は熱気に包まれ、佐世保は雑然さ、呼子と勝浦は観光型朝市特有の賑わい、御宿はゆったりと情緒的である、など各々に独自の雰囲気を漂わせている。また店長のおばちゃん、おじちゃんと半露天のもとで会話をすることは朝市以外にめったに見られず、朝市の強い個性の1つである。

③については、佐世保と御宿は生活型朝市であること、開市時間も6時間と4時間と長いこともあって消費者と出店者の間で井戸端会議をはじめとするコミュニケーションがあらこちらで見ることができる。同じ生活型朝市でも金田湾は開市時間が短いため鮮魚の知識や調理方法など実利的会話が中心であり、天気、健康や時事等の会話は少なかった。もちろん観光型朝市の呼子や勝浦においても井戸端会議や実利的な会話は確認できたが、どちらかと言えば店主の勧誘・売り込みの発話に偏り、これに対し消費者が商品に視線を向けるものの立ち寄りなかったり、どのように応対してよいものか迷いと気後れが生じていたように見えた。別途訪問した函館朝市、輪島朝市、飛騨高山宮川朝市でも同様の光景を目にすることができ、観光型朝市の特徴だと考えられる。もう少し消費者の視点からの心地よい接触を模索する必要があると考える。なお、発話と対話については河合ら（2007）が熟考している。

より一層のにぎわいを現状の朝市に創出するためには、客層にも注目する必要があると考える。生活型朝市である金田湾や佐世保では、明確な固定客の存在を確認できたが、新規の客は非常に少なかった。つまり、両地域とも背後には十分な数の住民がいるにも係わらず、朝市に訪れる客は毎回同じ顔ぶれであり、その他の大勢の人口と比べるとほんの僅かではない。この残りの人々は当該朝市の存在すら知らないか、もしくは知っていても訪れようとはしないことを意味し、いかに朝市を周知させ、来場させるかが、朝市の存続や発展の鍵になると思える。他の朝市においても、呼子は観光客のリピーターは確認

できたが、地域人口が少ないとはいえ地域住民の利用が他の朝市と比べて少ないように思えた。勝浦は地域住民の常連化は確認できても、観光客のリピーターは少ない。御宿は地域住民の人口は少ないにも係わらず多くの住民が訪れているが、出店者も含めて高齢化が著しく朝市存続が難しいと危惧される。

この他にも、消費者からすると親しみにくい点がある。それは商品価格の提示方法であり、商品価格が全く示されていない、もしくは量り売りで売られていることである。消費者の日常では、スーパーマーケットやコンビニエンスストアで、量と価格がはっきりと明示された商品を購入しており、このシステムに慣れている。朝市の一部の店舗では、値札などが添えていない、もしくは100g単位で売られているなど、今の消費者からすれば分かりにくい。もちろん消費者が商品に興味を持てば声をかけることもあるが、朝市の雰囲気飲み込まれたり、店主の勢いに気後れすることもあるだろう。量り売りとはいえ、少量にパック化された商品に値札を添えて例示するなり、価格の提示方法を工夫する必要があると考える。

ただ店主、主催者側だけでなく、消費者にも問題はあつた。最たるものは、消費者の商品の素材に関する知識の少なさと料理技術の未熟さであり、これを嘆く店主はどの朝市でもいた。例えば、消費者がハマグリのことをアサリと呼んだり、魚を三枚におろせない、煮付けに必要な最低限の調味料と食材を列挙することができないなどである。この根本的な問題に対する抜本的な解決策は想像し難く、食への関心を促すほかないように思える。

開催場所については、新たに開市を考えるのであれば、人が集まりやすく、広いスペースが適当だと考えており、駅前広場、公園、港・海岸、駐車場などが候補として考えられる。歴史ある朝市は集客力のある地域中心部の道路や地域のより所である神社・寺の境内で開かれ、最近立った朝市は漁港、農協や駐車場が主流であった。道路での開市は安全の観点から難しく、漁協や農協、駐車場は自動車が必要な町外れにあることが多く、集客力が望める立地条件だとは必ずしも限らない。駅や港は、元来より交通の要所であり、ここを起点に都市や地域が発展してきた経緯にあり、集客力は十分に期待できる。もちろん、駅や港であれば人流や物流が本来の目的であり、朝市はある時間内だけの開催であり主目的の運営に障害が生じにくい時間帯に限定することで、その空間に付加価値を創出することができると思われる。特に鮮魚を主要品目とする朝市の場合は、新鮮さが重要であることから漁船の離接岸が可能な海沿い、つまり人々が集まりやすい港や海辺の公園が望ましいと思う。

7. おわりに

朝市を取り巻く環境は、常に変化している。消費者は大型スーパーでのパック化された均一規格や低価格商品の購入に慣れている。また、地産地消や食の安全・安心に関心が向いても、現在は朝市のほかに産地直売所、インショップ、宅配販売など様々な販売形態が台頭している。先日、全国朝市サミットに参加し、そこでは朝市主催者や関係者と意見交換する機会に恵まれた。そこで朝市の良さについて「地産地消」、「地元の台所」、「対面販売」の3つを謳っていた。「地産地消」と「地元の台所」は、同じことを意味するように思えるが、対面販売となると別である。対面販売は、一昔前であれば町の小売店で普通に見られた光景であるが、流通の変化やスーパーマーケットの台頭にともなう小売店が減少し、見ることも体験することもなくなってきた。それを考えると、今も存続し、また新たに誕生している朝市に期待するのも無理もない。ただ、朝市のおばちゃん笑顔と向き合い、たわいもない会話をする。たったこれだけで、心が洗われる気持ちになる。そう考えると朝市の魅力は、単にごった返した、情緒的な光景でなく、おばちゃんやおじちゃんとの触れ合いだと思えなくてはならない。

確かに今、地産地消をキーワードに、ご当地グルメ、朝市や産地直売所などが注目されている。持続的に注目が集まり続けば良いが、流行で終わる可能性もある。ただ、朝市そのものは、伝統的に持続的に引き継がれて、また地域の人々に愛されてきたものである。朝市は十分な利点や魅力があつて今日に至っていると考えられ、今後の存続と繁栄も期待できると考える。

謝辞

本研究を進めるにあたり、金田湾朝市部会 飯嶋 泉会長、金田湾販売所 渡辺健一主任、佐世保朝市 辻山弘昇運営委員長、呼子朝市 小林昌克組合長、原 美智代副組合長、NPOスクラム呼子 宅井文雄事務局長、勝浦朝市しんこう会 鈴木秋雄会長、勝浦朝市運営委員会 村上和右会長、御宿朝市 白鳥勝男組合長の皆様には様々な便宜を図って頂きました。また各朝市のおばちゃん、おじちゃん店主の余りあるご厚意を頂いた。ここに記して謝意を示す。

参考文献

朝倉真一、野島政和(1998):京都市北野天満宮定期市の空間構成に関する研究、第33回日本都市計画学会学

- 術研究論文集, pp.235-240.
- アドグリーン (2008): 農協&漁協の直売所お買い物ガイドー関東・静岡・山梨・長野・福島の直売所111軒ー, 日本出版社.
- 石原 潤 (1987): 定期市の研究ー機能と構造ー, 名古屋大学出版会, pp.1-54.
- 石原 潤 (1989): インド、西ベンガル州タムルク地域における市の分布と特性, 名古屋大学文学部研究論集史学, Vol35, pp.133-171.
- 石原 潤 (1990): インド、西ベンガル州タムルク地域における市購買者の属性と行動, 名古屋大学文学部研究論集史学, Vol36, pp.201-230.
- 氏原岳人, 谷口 守, 松中亮治 (2007): グループに着目した朝市来訪者の行動特性と環境影響, 土木学会論文集D, Vol.63 No.1, pp.55-64.
- 長友理恵 (2006): 住民の認識からさぐる輪島朝市の今後についての一考察, 金沢大学学長研究奨励費研究結果論文集, 1, pp.7-10.
- 織田信雄 (2004): 旬魚朝市ー日帰りで旨い魚を食べつくす旅ー, 学習研究社.
- 折田仁典, 加藤裕康, 湯沢 昭 (1995): DEMATEL法による定期市問題の構造化に関する研究, 第30回日本都市計画学会学術研究論文集, pp.505-507.
- 河合克俊, 村上修一 (2007): 定期市における来場者の発話と対話の特徴についての研究ー中心市街地におけるにぎわいの再生に向けてー, 日本都市計画学会, 都市計画報告集, No.6, pp.78-83.
- 北國新聞社 (2003): 朝市・直売所ガイドー北陸の旬がいっぱいー, 北國新聞社.
- 神戸新聞総合出版センター (1999): ひょうごの旬を訪ねて 朝市・青空市・特産館ガイドーグリーン・ツーリズム 朝市・青空市・特産館ガイドー, 神戸新聞出版センター.
- 鹿野勝彦 (1989): ネパール東部山地の定期市(I), 金沢大学文学部論集, 第9巻, pp.85-118.
- 鹿野勝彦 (1990): ネパール東部山地の定期市(II), 金沢大学文学部論集, 第10巻, pp.33-58.
- 小黒昇一 (1987): ふるさと日本 朝市の旅ーレトロブーム原点の発見ー, リヨン社.
- 坂本和昭 (2005): 北の屋台繁盛記ー北海道十勝の元気プロジェクト, メタ・ブレーン.
- 白石吉平 (2000): 生鮮EDIで食品流通はこう変わるー朝市の魅力再現ー, 筑波書房, pp.15-24.
- 宋 静雯 (2008): 朝市の店舗配置, お茶の水地理, 48,, pp.111-113.
- 千葉県 (観光紹介) ホームページ: <http://www.kanko.chiba.jp/>
- 土橋治子 (2003): 生活市戦略と観光市戦略の関連性ー呼子朝市に対する評価データ分析を中心としてー, 中村学園大学 通科学研究2(2), pp.53-66.
- 東海朝市緑日クラブ (1996): 新鮮!とれたて!朝市ガイドー愛知全域ー, 風媒社.
- 淡交社 (1990): 新鮮市場の旅ー魚市場、朝市、特産市場、名物市場etc., 淡交社.
- 農山漁村文化協会 (1997): 朝市大発見ー自然な暮らしがここにあるー, 現代農業, 11月増刊号, pp.14-21.
- 中島義一 (1963): 越後国村上附近の定期市, 新地理10.
- 中島義一 (1975): 岩手・青森両県交界地方の定期市, 駒澤地理, Vol.11, pp.57-66.
- 中島義一 (1977): 三河の定期市, 駒澤地理, Vol.13, pp.35-45.
- 中島義一 (1988): 三重県北部の定期市, 駒澤地理, Vol.24, pp.11-25.
- 中島義一 (2001): 関東の定期市再考, 駒澤地理, No.37, pp.1-16.
- 成美堂出版編集部 (2001): 人気の朝市・直売所めぐりー東京・関東周辺ー, 成美堂出版.
- 野村祐三 (1996): 産直・魚の朝市図鑑ー漁師の食べ方・とれたて編ー, 祥伝社, pp.3-4.
- バウンド (2007): はじめての「移動屋台」オープンBOOK, 技術評論者.
- 原 珠里, 川手督也 (1992): 伝統的定期市の機能に関する一考察ー宮城県古川市八百屋市の事例ー, 農村生活研究, 第36巻第3号, pp.21-26.
- 原田園子 (2006): 屋台カフェのつくりかた, 情報センター出版局, pp.
- 樋口節夫 (1977): 定期市ーその発生と歴史の謎を探る!ー, 日本の歴史地理シリーズ, 學生社.
- 日暮晃一, 安村碩之 (1992): 都市近郊地域における朝市発展の主体特性, 農村生活研究, 第36巻第3号, pp.3-8.
- 日暮晃一, 安村碩之 (1993): 消費者行動からみた「朝市」における農産物市場のセグメンテーション, 農村生活研究, 第37巻第3号, pp.21-27.
- 日高 健 (2002): 都市と漁業ー沿岸域利用と交流ー, 成山堂, pp.95-118.
- 福岡市 (2000): 福岡市屋台指導要綱, <http://www.city.fukuoka.lg.jp/>
- 北海道新聞社 (1991): 大賑い 日本の市, 農山漁村文化協会.
- 松井幸夫 (1999): かながわの朝市ーかながわ・ふるさと

シリーズー, かもめ文庫.

南 英作, 村岡忠行 (2007) : 福岡人気の朝市・直売所めぐりー新鮮!安い!安心!ー, 九州人.

山田 稔 (1967) : 青果行商に関する調査 : I.大都市近郊における青果物流通の一形態, 千葉大学園芸学部学術報告第15号, pp.83-100.

朝市の意識調査

消費者用 金田湾

アンケートご記入上のお願い

このアンケートは、朝市が港や沿岸域に「活気・賑わい」を与えるかどうかを把握するために実施するものです。匿名式となっており、あなたのプライバシーを特定するような項目はありません。

いただいた回答は、研究の目的以外には一切使用いたしませんので、率直なご感想をお聞かせください。
どうぞよろしくお願いいたします。

国土交通省 国土技術政策総合研究所
沿岸海洋研究部 沿岸域システム研究室
森本剣太郎

早速ですが、問1から順番にお答えください。お答えは、あてはまると思われる回答選択肢の数字を○で囲む方法をお願い致します。 時 分

問1 はじめに、本アンケートにご回答いただく「あなたご自身」のことについてお教えてください。

1) あなたの性別は?

<○は1つ>

1 男性

2 女性

2) あなたの年齢は?

<○は1つ>

1 20歳未満

2 20代

3 30代

4 40代

5 50代

6 60代

7 70歳以上

3) あなたのお住まいは?

<○は1つ>

1 三浦市

2 横須賀市

3 葉山町

4 逗子市

5 鎌倉市

6 横浜市

7 その他()

4) あなたが、この朝市会場まで来た交通手段は? (今日の出発地点から)

<○は1つ>

1 車

2 徒歩

3 バイク

4 自転車

5 鉄道

6 バス

7 その他()

5) その所要時間は?

(分)

6) 何人で、この朝市に来ましたか?

<○は1つ>

1 1人

2 2人

3 3人

4 4人

5 その他(人)

7) その人との間柄は？

<○は1つ>

1 家族 2 友人・知人 3 その他()

8) この朝市会場での滞在時間は？

(分)

問2 次に、この朝市について率直な意見をお聞かせ下さい。

1) この朝市の開催を知ったキッカケは？

<○は1つ>

1 情報誌・本 2 インターネット 3 チラシ 4 市政だよりなど
5 テレビ 6 人づて 7 その他()

2) これまでに、この朝市に何回、来たことがありますか？

<○は1つ>

1 はじめて 2 2、3回 3 5回程度 4 10回程度
5 その他(週に, 月に, 年に, 回)

3) この朝市に来た理由を、最大で3つ教えてください。

<最大で○は3つ>

1 新鮮な食材を求めて 2 安い食材を求めて 3 大量の食材を求めて
4 安全な食材を求めて 5 おいしい食材を求めて 6 楽しそうだから
7 散歩ついでに 8 観光ついでに 9 朝食を済ませるために
10 いつもの事だから 11 特に理由はない
12 その他()
() () ()

4) 本日、購入した商品を教えてください

<○はいくつでも>

1 根野菜 2 葉野菜 3 加工野菜 4 鮮魚 5 冷凍魚
6 貝類 7 海藻類 8 加工魚介 9 果物 10 花
11 その他()

5) 本日、使ったおよその金額は？

(およそ 円)

番号 () 調査時間 (時 分)

朝市の意識調査

生産者用 金田湾

アンケートご記入上のお願い

このアンケートは、朝市の「活気・賑わい」について調べております。いただいた回答は、研究の目的以外には一切使用いたしませんので、率直なご感想をお聞かせください。よろしくお願いします。

国土交通省 国土技術政策総合研究所
沿岸海洋研究部 沿岸域システム研究室
森本剣太郎

問1 はじめに、本アンケートにご回答いただく「あなたご自身」のことについてお教えてください。

1) あなたのお店は何屋ですか? <○は1つ>

1 鮮魚	2 冷凍魚	3 加工魚	4 八百屋
5 果物屋	6 生花	7 その他()	

2) あなたの性別は? <○は1つ>

1 男 2 女性

3) あなたの満年齢は? <○は1つ>

1 20歳未満	2 20代	3 30代	4 40代
5 50代	6 60代	7 70歳以上	

4) いつから、この朝市に参加していますか?

(年頃から 年前から)

5) 普段は何人で、この店舗を運営されていますか? <○は1つ>

1 1人	2 2人	3 3人	4 その他(人)
------	------	------	-----------

6) 朝市以外に店舗をお持ちですか? <○は1つ>

1 もっている	2 もっていない	3 その他()
---------	----------	----------

7) ご自身の職業形態を教えてください。 <○は1つ>

1 生産者	2 販売者(小売)	3 仲買人	4 その他()
-------	-----------	-------	----------

8) あなたのお店・ご自宅の住所は? (どこから来ていますか?) <○は1つ>

1 三浦市(町)	2 その他()
-----------	----------

9) あなたが、この朝市会場まで来る交通手段は？

<○は1つ>

1 車	2 バイク	3 自転車	4 鉄道
5 バス	6 リアカー	7 その他()	

10) その所要時間は？

(およそ	分)
-------	-----

11) 雨の日は、出店されますか？

1 はい	2 いいえ	3 その他()
------	-------	----------

12) 雨が降らなければ、朝市への出店頻度は？

1 ほぼ毎日	2 (週に 回)
--------	------------

問2 次に、この朝市について率直な意見をお聞かせ下さい。

1) この朝市に出店する理由を教えてください。

--

2) この朝市の長所と短所を教えてください。

--

3) 朝市に出店する日のスケジュールを教えてください。(収穫、漁などのタイミングを知りたい)

起床

会場到着

会場離脱

4) 朝市に出店しない日のスケジュールを教えてください。(収穫、漁などのタイミングを知りたい)

起床

5) 売り上げを教えてください

(1日, 月, 年, およそ	円)
-----------------	----

店番号 () 調査時間 (時 分)

朝市の意識調査

開催者用 金田湾

アンケートご記入上のお願い

このアンケートは、朝市の「活気・賑わい」について調べております。いただいた回答は、研究の目的以外には一切使用いたしませんので、率直なご感想をお聞かせください。よろしくお願いします。

国土交通省 国土技術政策総合研究所
沿岸海洋研究部 沿岸域システム研究室
森本剣太郎

問1 この朝市部会の構成人数を教えてください。また朝市は、いつ頃から開催し始めたのか？また、そのきっかけを教えてください。

問2 なぜ早朝開催の朝市なのか？ また、なぜほぼ毎日開催しておられるのか？ 教えてください。

問3 この朝市会場の土地・建物は、どちらが所有者および管理者なのでしょう？ また朝市が休みの日および時間のとき、どのように活用されているのでしょうか？

問4 この開催会場に生産者や問屋が出店する際に、選考基準などあるのでしょうか？ 例えば、競合店などの選定があるかどうかなど

問5 出店する際し、テナント料金などを徴収していると思いますが、どのようにされているのでしょうか？

問6 お客様への朝市の開催告知手段を教えてください。また、イベント等がございましたら、どのような内容のイベントなのか教えてください。

問7 最後に、今日までの朝市が継続して開催されている上で、多くの苦労や工夫があったと思います。具体的に教えてください。

調査時間（ 時 分）

金田湾朝市

No.	種類	品目	03/22	04/19	形態	代表者	年齢	人数
1	生花	鉢植え多種		✓	生産	女	20	1
2	鮮魚店	ムラサキイガイ		✓	生産	男	40	1
3	鮮魚店	カレイ、タチウオ、サバ、鰯、イサキ、メバル、カマス、マゴチ、サワラ、ワラサ、カツオ、金目鯛、カワハギ	✓	✓	生産	男	50	4
4	海藻	生ワカメ	✓	✓	生産	男	50	2
5	惣菜	マグロの惣菜複数、惣菜多数、サンドイッチ、サラダ	✓		生産	男	60	2
6	野菜	ブロッコリー、ホウレン草、長ネギ	✓	✓	生産	女	80	2
7	鮮魚店	生アカモク、乾燥アカモク、生めかぶ、生めわかめ、丸干し鰯、(豆)アジ	✓	✓	生産	女	50	2
8	冷凍魚店	冷凍マグロ部位多種、鮭切り身、乾燥シラス、カマス開き、アジ開き	✓	✓	生産	男	50	2
9		カレイ、鰯、アジ、毛ガニ、殻付きホタテ、カマス、サザエ、タイラギ、アイナメ、ニナ(しったか?)	✓	✓	生・仲	女	50	3
10	鮮魚店	海苔、乾燥アカモク	✓	✓	生産	男	50	1
11	鮮魚店	生ワカメ	✓		生産	女	40	1
12	鮮魚店	カワハギ、コノシロ、メバル、カレイ		✓	生産	男	40	1
13	野菜	ホウレン草、小ネギ、大根、キャベツ	✓	✓	生産	女	70	1
14	加工野菜	タクワン、梅干、漬物複数	✓	✓	生産	女	50	1
15	生花	蘭多種、切花	✓	✓	生産	女	40	1
16	製菓	饅頭複数	✓	✓	生産	男	30	1
17	加工食品	豆腐複数、厚揚げ	✓	✓	生産	男	60	1
18	加工水産	海苔		✓	生産	女	40	1
19	加工野菜	タクワン、卵、切干大根		✓				
20	野菜	キャベツ、きゅうり、タクワン、卵、切干大根		✓	生産	男	60	1
21	加工食品	蒟蒻		✓	生産	男	50	1
22	鮮魚店	冷凍マグロ各種部位	✓	✓	生産	男	50	2
23	牛乳店	ヨーグルト、飲料ヨーグルト、牛乳、コーヒー牛乳		✓	生産	男	50	1
24	加工魚	塩辛、乾物魚	✓	✓	生産	男	40	1
25	鮮魚店	スズキ、ヒラメ、サバ、アジ、カワハギ、鯛、メバル、シコイワシ、コウイカ、ナマコ、カマス、石鯛、黒鯛	✓	✓	生産	男	60	5

※種類の鮮魚は生魚全般、乾物水産は開き、一夜干し、丸干し、加工水産は瓶詰めなど、八百屋・青果は小売・卸しを生業、野菜は生産者の生業で区分

※加工水産は、塩辛・角煮などであり、干物水産は真丸干し、生干し、味噌干しの魚、加工農産は野菜を漬物・もろ味漬けなどの加工

※丸干しは身を開くことなく塩もしくは調味料を加えずに干すことであり、生干しは身を開いたうえで塩もしくは無味で干す、味噌干しはみりんダレに寝かせてから干す

※形態は、生産者、小売店および生産者兼小売店の3分割で、商品の種数も考慮

※年齢は、主観による判断

※1と15、24と25は同一店舗

佐世保朝市A

No.	種類	品目	03/27	03/28	形態	代表者	年齢	人数
A-1	八百屋	じゃがいも、玉ねぎ、大根、白菜、カブ、長ネギ、セロリ、ブロッコリー、カリフラワー、ホウレン草、生姜、竹の子、キャベツ、トマト	✓	✓	小売	男	50	2
A-2	八百屋	竹の子、にんにく、サツマイモ、かぼちゃ、山うど	✓	✓	小売	男	40	1
A-3	青果店	マンゴ、イチゴ、みかん、ダイダイ、グレープフルーツ、アボガド、キュウイ、ホウレン草、きゅうり、トマト、山うど、そら豆、じゃがいも、人参、ピーマン、椎茸など	✓	✓	小売	男	50	1
A-4	青果店	柑橘系多種、りんご、バナナ	✓	✓				
A-5	鮮魚	鯛、メジナ、太刀魚、ヒラメ、ヤリイカ、アジ、アサリ、甘鯛、メバル、イサキ、アラカブ、サバ、イトヨリ	✓	✓	小売	女	40	2
A-6	鮮魚	アサリ、蛤、もずく、シジミ、サザエ	✓	✓	小売	女	50	1
A-7	漬物屋	漬物多数、柚子胡椒	✓	✓	小売	男	50	2
A-8	茶屋	茶葉多種	✓	✓	小売	女	60	2
A-9	八百屋	じゃがいも、大根、長ネギ、小ネギ、ホウレン草、バナナ、ナス、かぼちゃ	✓	✓	小売	男	60	2
A-10	八百屋	#REF!	✓	✓	小売	男	60	2
A-11	加工野菜・乾物水産	柚子胡椒、ちりめん、海鮮ふりかけ多数、乾麺、煮干多数、イカ塩辛	✓	✓	小売	女	60	2
A-12	八百屋	#REF!	✓	✓	小売	男	60	2
A-13	加工水産物	蒲鉾多種	✓	✓	小売	女	50	1
A-14	加工食品	天ぷら複数、かき揚げ	✓	✓	小売	女	40	2
A-15	弁当	弁当10種、おにぎり、サンドウィッチ、コロケ、カップめん多数、缶ジュース	✓	✓	小売	女	50	1
A-16	八百屋	れんこん	✓		生産			
A-17	野菜	ネギ、ごぼう、人参、ピーマン、みかん、切干大根	✓	✓	小売	女	50	3
A-18	餅	餅、饅頭	✓		生産	男	50	1
A-19		米、きゅうり、さつまいも		✓	生産	女	40	1
A-20	野菜	キュウリ	✓	✓	生産	男	60	1
A-21	野菜	高菜、漬物、ダイダイ、サニーレタス、菜の花、フキ、長ネギ、キャベツ	✓	✓	生産	女	50	2
A-22		漬物、ホウレン草	✓	✓	生産	女	60	1
A-23	野菜	竹の子	✓	✓	生産	女	70	1
A-24	野菜	フキ	✓		生産	女	70	1
A-25	野菜	竹の子	✓	✓	生産	女	70	1
A-26	野菜	竹の子、ネギ、パセリ、タクワン、ホウレン草	✓	✓	生産	男	50	1
A-27	野菜	長ネギ、ピーマン、タクワン	✓		生産	女	60	2
A-28	野菜	長ネギ、小ネギ、キャベツ、ナス	✓		生産	女	60	1
A-29	野菜	小ネギ	✓		生産	女	50	1
A-30	野菜	カブ	✓					
A-31	野菜	大根、ホウレン草	✓	✓	生産	女	60	1

※種類の鮮魚は生魚全般、乾物水産は開き、一夜干し、丸干し、加工水産は瓶詰めなど、八百屋・青果は小売・卸しを生業、野菜は生産者の生業で区分

※加工水産は、塩辛・角煮などであり、干物水産は真丸干し、生干し、味噌干しの魚、加工農産は野菜を漬物・もろ味漬けなどの加工

※丸干しは身を開くことなく塩もしくは調味料を加えずに干すことであり、生干しは身を開いたうえで塩もしくは無味で干す、味噌干しはみりんダレに寝かせてから干す

※形態は、生産者、小売店および生産者兼小売店の3分割で、商品の種数も考慮

※年齢は、主観による判断

※A9、A10、A12は同一店舗、A1とA4、A30とA31は同一店舗の可能性あり

※A21～A31は、両日とも必ずしも同じ店主でない可能性もある

佐世保朝市B

No.	種類	品目	03/27	03/28	形態	代表者	年齢	人数
B-1	野菜	じゃがいも, 玉ねぎ	✓	✓	生産	女	60	2
B-2	青果	みかん			生産	女	40	1
B-3	加工水産・加工農産	豆腐多種, 蒲鉾多種, 蒟蒻複数, 納豆	✓	✓	小売	女	70	2
B-4	加工食品	#REF!	✓	✓	小売	男女	60	1
B-5	加工食品	蒲鉾多種, 豆腐複数, 厚揚げ, 納豆	✓	✓	小売	女	60	1
B-6	加工食品	蒲鉾多種, 竹輪多種		✓				
B-7	漬物屋	漬物多数	✓	✓				
B-8	製菓店	饅頭多数, パン類多数	✓	✓	小売	女	40	1
B-9	加工水産・加工農産	豆腐多種, 蒲鉾多種, 蒟蒻多種	✓	✓	小売	女	70	1
B-10	加工食品	蒲鉾多種, 豆腐多種, 竹輪, 納豆	✓	✓	小売	女	60	1
B-11	加工食品	蒲鉾多種, 豆腐多種	✓	✓	小売	女	60	1
B-12	加工食品	カステラ, 羊羹, 饅頭多種, ちゃんぽん麺, 弁当少数, おにぎり少数	✓	✓	小売	女	60	1
B-13	加工食品	こんにゃく, 心太, 饅頭	✓	✓	小売	女	80	1
B-12	加工水産	竹輪	✓	✓	小売	女	40	1
B-15	日用品	タオル, 手袋, 石鹸, 石鹸, 造花, 衣服, 食器	✓	✓	小売	男	60	3
B-16	生花	切花	✓	✓	小売	女	80	1
B-17	卵	卵, はちみつ	✓	✓	小売	男	80	1
B-18	生花	切花	✓		生産	女	60	1
B-19	生花	切花	✓		生産	女	60	1
B-20	青果	いちご, 金柑, レモン, みかん, オレンジ, リンゴ, バナナ, マンゴ, グレープフルーツ, ザボン	✓	✓	小売	男	60	1
B-21	生花	切花	✓		生産	女	60	1
B-22	鮮魚	アジ, マサ, 鰯, ツナ, マイナメ, マサ, イサキ, カレイ, レンコメ, 鰻, メウ, 鰻, 煮鰻, ソコウ, ヤシロメ, イサキ	✓	✓	小売	男女	30	5
B-23	鮮魚	大サ, 並白鰻, ツナ, 鰻, 太刀魚, ヤシロメ, 煮鰻, ニロ, 成付カキ, 鰻, 白鰻, ソコウ, マイナメ, イサキ, コナ	✓	✓	小売	男	50	2

※種類の鮮魚は生魚全般、乾物水産は開き、一夜干し、丸干し、加工水産は瓶詰めなど、八百屋・青果は小売・卸しを生業、野菜は生産者の生業で区分
※加工水産は、塩干・角煮などであり、干物水産は真丸干し、生干し、味噌干しの魚、加工農産は野菜を漬物・もろ味漬けなどの加工
※丸干しは身を潰すことなし・塩もしくは調味料を加えずに干すことであり、生干しは身を開いたうえで塩もしくは無味で干す、味噌干しはみりんダレに寝かせてから干す
※形態は、生産者、小売店および生産者兼小売店の3分割で、商品の種数も考慮
※年齢は、主観による判断
※B15は3店主（日用品、衣料、食器）の共同

佐世保朝市C

No.	種類	品目	03/27	03/28	形態	代表者	年齢	人数
C-1	八百屋	じゃがいも、ごぼう、トマト、人参、玉葱、白菜、レタス、パセリ、ネギ、ブロッコリー	✓	✓	小売	男	50	2
C-2	八百屋	ピーマン、長ネギ、小ネギ、トマト、ブロッコリー、ミニトマト、カイワレ、ナス、ごぼう、大根、きゅうり	✓	✓	小売	男	50	1
C-3	八百屋	白菜、ニンニク、カイワレ、パセリ、アスパラガス、ピーマン、キャベツ、大根、大葉、南瓜、長芋、玉葱、ブロッコリー、カリフラワー、長ネギ、カリフラワーなど	✓	✓	小売	女	50	2
C-4	製菓	饅頭、もち、けいらん、うどん、ちゃんぽん、麺	✓	✓	小売	女	50	2
C-5	製菓	菓子パン、食パン、スナック菓子多種、飴多種	✓	✓	小売	女	50	2
C-6	加工野菜	漬物30種以上、柚子胡椒	✓	✓	小売	女	50	2
C-7	乾物水産	アジ味噌干、アジ開き、イカー一夜干し、イカー一夜干し、アゴ干物、煮干、カレー一夜干し	✓	✓	小売	女	60	3
C-8	茶屋	茶葉多数	✓	✓	小売	女	60	2
C-9	野菜	ネギ、大根	✓	✓	生産	女	80	1
C-10	八百屋	かぼちゃ、キャベツ、ブロッコリー、玉ねぎ、じゃがいも、ピーマン、ナス、白菜、大根	✓	✓	小売	女	50	1
C-11	鮮魚	ブリ、鯛	✓	✓	生産	女	60	1
C-12	鮮魚	ブリ、黒鯛	✓	✓	生産	女	70	1
C-13	鮮魚	カキ、生ワカメ、サザエ、ガザミ、鯛、ブリ	✓	✓	小売	女	70	1
C-14	鮮魚	コウイカ、甘鯛、鯛、カサゴ、ウツボ		✓	生産	女	60	1
C-15	鮮魚	マゴチ、コウイカ、鯛、オコゼ、ヒラメ、生めかぶ		✓	生産	女	70	2
C-16	鮮魚	コノシロ、鯛、オコゼ、カレイ、ボラ、ガザミ		✓	生産	女	60	1
C-17	鮮魚	鯛、アジ、コノシロ		✓	生産	女	60	1
C-18	鮮魚	オコゼ、キス、マゴチ、マテ貝、生めかぶ、生ワカメ、とらふぐ、カサゴ、ガザミ、カワハギ、トビウオ	✓	✓	生産	女	50	2
C-19	鮮魚	エビ各種		✓	生産	女	50	2
C-20	商店	干し昆布、干し椎茸、ノリ、干しワカメ、卵、納豆	✓	✓	小売	男	40	1
C-21	青果店	柑橘系多種、りんご多種、パイナップル、バナナ、キュウイ	✓	✓	小売	男	60	1
C-22	漬物屋	漬物各種	✓	✓	小売	男	50	2

※種類の鮮魚は生魚全般、乾物水産は開き、一夜干し、丸干し、加工水産は瓶詰めなど、八百屋・青果は小売・卸しを生業、野菜は生産者の生業で区分
※加工水産は、塩辛・角煮などであり、干物水産は真丸干し、生干し、味噌干しの魚、加工農産は野菜を漬物・もろ味噌漬などの加工
※丸干しは身を開くことなく塩もしくは調味料を加えずに干すことであり、生干しは身を開いたうえで塩もしくは無味で干す、味噌干しはみりんダレに寝かせてから干す
※形態は、生産者、小売店および生産者兼小売店の3分割で、商品の種数も考慮
※年齢は、主観による判断
※C4とC5、C18とC19は同一店

呼子朝市A

No.	種類	品目	03/29	03/30	形態	代表者	年齢	人数
A-1	乾物水産・加工水産	アジ味噌干し、イカ生干し、めざし、イカせんべい、粕漬け	✓		小売	男	40	2
A-2	露天	かまぼこ、魚ドーナツ、魚コロッケ、蒲鉾各種	✓	✓	露天	女	20	2
A-3	加工水産	イカ塩辛、くじら粕漬け、くじら肉	✓	✓	小売	男	40	1
A-4	野菜	玉ねぎ、卵、キュウイ、椎茸、なす、切干大根	✓		小売	男	50	1
A-5	野菜	さやえんどう豆、小豆	✓	✓	生産	女	60	1
A-6	小売	アジ味噌干し、イカー一夜干し、トビウオ丸干し、松の葉	✓	✓	小売	女	40	2
A-7	野菜	金柑、ほうれん草、パセリ	✓		生産	女	70	1
A-8	野菜	ジャガイモ、玉ねぎ、大根、大根、キャベツ、里いも、花(スイレン)	✓	✓	生産	女	70	1
A-9	鮮魚	カサゴ、オコゼ	✓	✓	生産	女	60	1
A-10	鮮魚	コウイカ	✓		生産	女	60	1
A-11		蒟蒻、ボンタン飴、朝鮮飴、イカ塩辛	✓		小売	女		
A-12	野菜	デコボン、竹の子、ワラビ、コウイカ	✓	✓	生産	女	60	1
A-13	鮮魚	サザエ、カサゴ、アワビ、メジナ	✓	✓	生産	女	70	1
A-14	乾物水産	イカー一夜干し	✓		生産	女	40	1
A-15	鮮魚	ワカメ、アワビ、煮干し、乾燥ワカメ	✓	✓	生産	女	70	1
A-16	青果	フキ、玉ねぎ、きゅうり、竹の子	✓		小売	男	50	1
A-17	青果	いちご、バナナ、スイカ、デコボン	✓		小売	男	50	1
A-18	乾物水産	アジ味噌干し、トビウオ丸干し、イカ塩辛、塩ウニ	✓	✓	せい	女	80	2
A-19	布屋	染物(草木染)、蜂蜜、蜂蜜飴	✓		小売	女	70	1
A-20	商店	梅油、羊羹、松浦漬物、漬物、茶葉、煮干し	✓	✓	小売	女	60	1
A-21	加工水産	焼きあご、サバ一夜干し、ダシ昆布	✓		小売	女	60	1
A-22	小売	干し椎茸	✓		小売	男	40	1
A-23	野菜	たくわん、漬物(きゅうり)、漬物(白菜)、ふき	✓		生産	女	60	1
A-24	野菜	イチゴ、トマト、ジャガイモ	✓	✓	生産	女	60	1
A-25	乾物水産	さばの味噌干し、あじの味噌干し、トビウオの丸干し、イカ一夜干し	✓		生産	女	70	1
A-26	生花	切花、鉢植え	✓	✓	生産	女	60	1
A-27	野菜・鮮魚	卵、ニナ、はっさく、干しヒジキ	✓	✓	生産	女	40	1
A-28	野菜	サツマイモ、きゅうり、干し椎茸、干し椎茸、ねぎ、干しヒジキ、フキ	✓		生産	女	50	1
A-29	野菜	大根、ミナ、ほうれん草、さやえんどう豆、みかん、トマト、小豆、大豆、サツマイモ、千切り大根、里芋	✓		生産	女	70	1
A-30	食器	焼物	✓		生産	女	60	1
A-31	野菜	キャベツ、ねぎ、大根、ジャガイモ、金柑、松の葉、にんにく、ごぼう、生姜、里芋	✓		生産	女	60	1
A-32	野菜	デコボン、米、ジャガイモ	✓		生産	女	70	1
A-33	鮮魚	アジ、クジラ肉、伊勢エビ、ハマチ、レンコダイ、メジナ	✓		小売	女		
A-34	生産	ナマコ、サザエ、カニ、カサゴ、生ワカメ、生メカブ、塩ワカメ、干しワカメ	✓		生産	女	60	1
A-35	鮮魚・乾物水産	殻付きカキ、ミナ、サザエ、ナマコ、アジ味噌干し、サバ味噌干し、イカー一夜干し、イワシ丸干し、カサゴ	✓	✓	生産	女	60	1
A-36	露天	イカバーガー	✓		露天	女	20	1
A-37	乾物水産	アジ味噌干し	✓		生産	女	70	1
A-38	生産	よもぎ饅頭、かんころ餅	✓	✓	生産	女	60	1
A-39	生産	漬物各種、れんこん、椿の枝	✓	✓	生産	女	70	1
A-40	鮮魚	サザエ、カジメ、イカー一夜干し、サザエのつぼ焼	✓		小売	女	60	1

※種類の鮮魚は生魚全般、乾物水産は開き、一夜干し、丸干し、加工水産は瓶詰めなど、八百屋・青果は小売・卸しを生業、野菜は生産者の生業で区分

※加工水産は、塩辛・角煮などであり、干物水産は真丸干し、生干し、味噌干しの魚、加工農産は野菜を漬物・もろ味噌漬けなどの加工

※丸干しは身を開くことなく塩もしくは調味料を加えずに干すことであり、生干しは身を開いたうえで塩もしくは無味で干す、味噌干しはみりんダレに寝かせてから干す

※形態は、生産者、小売店および生産者兼小売店の3分割で、商品の種数も考慮

※年齢は、主観による判断

※A16とA17は同一店舗

呼子朝市B

No.	種類	品目	03/29	03/30	形態	代表者	年齢	人数
B-1	鮮魚	生ワカメ、生ウニ	✓		生産	女	60	1
B-2	野菜	デコボン、玉ねぎ	✓		生産	女	50	1
B-3	乾物水産	アジ味醃干し、サバ味醃干し、イカ生干し	✓	✓	生産	女	50	1
B-4	商店	塩、ビニール袋	✓	✓	小売			
B-5	加工水産	イカシューマイ	✓	✓	小売	女	20	1
B-6	乾物水産	アジ味醃干し、サバ味醃干し、イカ生干し、ちりめん	✓	✓	生産	女	40	1
B-7	鮮魚	カサゴ、レンコダイ	✓	✓	生産	女	60	1
B-8	鮮魚	生ウニ、サザエ、アワビ、ナマコ	✓		生産	女		
B-9	乾物水産	アジ味醃干し、イカ生干し	✓		生産	女	50	1
B-10	鮮魚	サザエ、生ウニ	✓		生産	女	50	1
B-11	乾物水産	イカ生干し、イカ嘴	✓	✓	生産	女	60	1
B-12	土産物屋	塩ウニ、イカシューマイ、イカ塩辛、干しヒジキ、天草、イカ乾物	✓	✓	小売	女	50	1
B-13	土産物屋	岩海苔、イカ昆布、大豆炒り子、剣先するめ、呼子銘菓、ちりめん	✓	✓	小売	女	50	1
B-14	野菜	フキ、竹の子、鷹の爪	✓	✓	生産	女	70	1
B-15	加工水産	カジメ、ウミタケ粕漬、イカ加工品、ウニ加工品、煮干し、かまぼこ、イカ生干し、アジ味醃干し	✓	✓	小売	女		
B-16	加工水産	魚コロッケ、サバ生干し、竹輪、アジ味醃干し	✓	✓	小売	女	40	1
B-17	商店	玩具、明太子	✓	✓	小売	女	60	1
B-18	加工農産	ゆず胡椒、デコボン	✓	✓	小売	女	20	1
B-19	加工水産	粕漬	✓	-	小売	男	60	1
B-20	加工水産	塩ウニ、ちりめん昆布、イカ昆布、イカ塩辛、いかすみかりんとう、寒天昆布	✓	✓	小売	女	40	2
B-21	鮮魚	サザエ、アワビ、生ウニ、ナマコ	✓	✓	生産	女	20	1
B-22	加工水産	粕漬	✓	✓	小売	女	50	1
B-23	乾物水産	いりこ、ちりめん、アジ丸干し、カジメ	✓		小売	女	70	1
B-24	乾物水産	イカ生干し、アジ味醃干し、サバ味醃干し、キス一夜干し、かじめ、いわし丸干し	✓	✓	生産	女	50	1
B-25	乾物水産	いりこ、ちりめん	✓	✓	小売	女	50	1
B-26	鮮魚	ナマコ、サザエ、アワビ	✓	✓	生産	女	60	1
B-27	鮮魚	コウイカ、ベラ、乾燥ヒジキ	✓	✓	生産	女	30	1
B-28	鮮魚	生ウニ、サザエ、アワビ、ナマコ、塩ウニ	✓	✓	生産	女	60	1
B-29	野菜	サツマイモ、レタス、つくね芋、かんころ餅、おこわ、漬物	✓		生産	女	60	1
B-30	加工水産	塩ウニ、コウイカ	✓	✓	生産	女	50	1

※種類の鮮魚は生魚全般、乾物水産は開き、一夜干し、丸干し、加工水産は瓶詰めなど、八百屋・青果は小売・卸しを生業、野菜は生産者の生業で区分

※加工水産は、塩辛・角煮などであり、干物水産は真丸干し、生干し、味醃干しの魚、加工農産は野菜を漬物・もろ味漬けなどの加工

※丸干しは身を開くことなく塩もしくは調味料を加えずに干すことであり、生干しは身を開いたうえで塩もしくは無味で干す、味醃干しはみりんダレに寝かせてから干す

※形態は、生産者、小売店および生産者兼小売店の3分割で、商品の種数も考慮

※年齢は、主観による判断

※B12とB13、B16とB20、B19とB22は同一店舗

呼子朝市C

No.	種類	品目	03/29	03/30	形態	代表者	年齢	人数
C-1	乾物水産	アジ味醃干し、イカ生干し、サバ一夜干し、カジメ、イカ嘴	✓	✓	生産	女	60	2
C-2	鮮魚	生ウニ、サザエ、アワビ	✓	✓	生産	女	60	1
C-3	乾物水産	イカ生干し、アジ味醃干し、イワシ丸干し、塩ウニ	✓	✓	生産	女	70	3
C-4	鮮魚	クジラ、アワビ、サバ	✓		生産	男	60	1
C-5	鮮魚	生ウニ、サザエ、アワビ	✓	✓	生産	女	40	1
C-6		レンコン、サヤエンドウ豆	✓					
C-7	鮮魚	カサゴ、ベラ、生ワカメ	✓	✓	生産	男	60	1
C-8	鮮魚	サザエ、メバル、スズキ、カサゴ	✓	✓	生産	男	50	1
C-9	呉服	服	✓		小売			
C-10	食器	瀬戸物	✓		小売	女	60	1
C-11	露天	竹輪、魚コロッケ	✓	✓	露天	男	70	1
C-12	商店	くじ	✓	✓	小売			
C-13	加工水産	粕漬各種、竹輪各種	✓	✓	小売	女	40	2
C-14	乾物水産	焼きあご、ダシ昆布	✓	✓				
C-15	乾物水産	めざし、カマス一夜干し、トビウオ一夜干し、アジ味醃干し	✓	✓	小売	女	60	2

※種類の鮮魚は生魚全般、乾物水産は開き、一夜干し、丸干し、加工水産は瓶詰めなど、八百屋・青果は小売・卸しを生業、野菜は生産者の生業で区分

※加工水産は、塩辛・角煮などであり、干物水産は真丸干し、生干し、味醃干しの魚、加工農産は野菜を漬物・もろ味漬けなどの加工

※丸干しは身を開くことなく塩もしくは調味料を加えずに干すことであり、生干しは身を開いたうえで塩もしくは無味で干す、味醃干しはみりんダレに寝かせてから干す

※形態は、生産者、小売店および生産者兼小売店の3分割で、商品の種数も考慮

※年齢は、主観による判断

※C12、C13、C14は同一店舗の可能性が高い

勝浦朝市A

No.	種類	品目	04/10	04/11	形態	代表者	年齢	人数
A-1	鮮魚・加工水産	サバ、ヒラメ、アジ、イナダ、キンメダイ、サザエ、イカ生干し、イカ嘴、干ししらす、煮干し、干し桜海老、キンメ生干し、イナダ生干し、アジ生干し、アジ丸干し、イワシ丸干し		✓	小売	女	20	2
A-2	切花	切花各種		✓	小売	女	50	1
A-3	露店(串焼き)	サザエ串焼き、ホタテ串焼き、豚肉串焼き、トリ貝串焼き、イカ串焼き		✓	露店	女		1
A-4	みやげ菓子	鯛せんべい		✓	小売	女	40	1
A-5	野菜	大根、長ネギ、米、竹の子、とうがらし、梅干、セレベス、種生姜	✓	✓	生産	女	60	1
A-6	野菜	トマト、サツマイモ	✓	✓	生産	女	70	1
A-7	野菜	サツマイモ、トマト	✓	✓	生産	女	60	1
A-8	鮮魚・加工水産	メバチマグロ、新口カツオ、ソーダカツオ(マルソウダ、ヒラソウダ)、スマカツオ(スマ)、ワラサ、スルメイカ、キンメダイ、マトウダイ、生ひじき、生ワカメ、カマス生干し、ヤナギカレイ生干し、サバ生干し、アジ生干し、キンメ生干し	✓	✓	小売	女	50	2
A-9	植木	鉢植え、竹の子、フキ、ウドの芽	✓	✓	生産	男	60	1
A-10	青果	大根、キャベツ、玉ねぎ、里芋、生椎茸、トマト、にんじん、インゲン豆、きゅうり、大豆、にんにく、りんご、バナナ、甘夏、いちご、卵	✓	✓	小売	男	30	1
A-11	木工美術	箸置き、ペンダント、フロッピー、キーホルダー		✓	生産	女	50	2
A-12	野菜	サツマイモ、トマト、生椎茸、生椎茸、大根、長ネギ、万能ネギ	✓	✓	生産	女		1
A-13	野菜	竹の子、セレベス、長ネギ、ほうれん草、たくわん、白菜塩漬、小豆、大豆、サツマイモ	✓	✓	生産	女	80	1
A-14	パン	山菜パン、天然酵母パン、コッペパン、卵サンド、パン各種	✓	✓	生産	男	40	1
A-15	野菜	生椎茸、竹の子、キウイ、もち米、梅干		✓	小売	男	30	1
A-16	加工水産	サバ生干し、アジ生干し、キンメダイ生干し、サンマ生干し、イカ生干し、アジ味噌干し	✓	✓	小売	女	80	1
A-17	野菜	ネギ、玉ねぎ、ほうれん草、ほうれん草、万能ネギ、鉢植え、米	✓	✓	生産	女	60	1
A-18	鮮魚	めかぶ、生ワカメ、刺身		✓	生産	女	70	1
A-19	帽子	手作り帽子		✓	生産	女		1
A-20	佃煮	佃煮		✓	小売	女		1
A-21	野菜	米、甘夏、フキ、竹の子、きゅうり	✓	✓	生産	女	50	1
A-22	野菜	竹の子	✓	✓	生産	男	80	1
A-23	鮮魚・加工水産	アジ、生ワカメ、キンメダイ生干し、サバ生干し、アジ生干し、煮干し、イカ生干し、カツオ角煮	✓	✓	小売	女	50	1
A-24	種屋	種、球根、株、肥料、農薬、ビニール紐		✓	小売	男	50	1
A-25	野菜	せり、ネギ、梅干		✓	生産	男	60	1
A-26	植木	植木各種	✓	✓	小売	男	70	1
A-27	野菜		✓	✓	生産	女	70	2
A-28	刃物	包丁		✓	小売	男	60	1
A-29	露店(たこ焼)	たこ焼き		✓	露店	女	60	1
A-30	鮮魚・加工水産	サザエ、アワビ、ハマグリ、伊勢エビ、大アサリ(ホンビノス)、メバル、サヨリ丸干し、剥きフグ、煮アサビ	✓	✓	小売	男	60	1
A-31	鮮魚・加工水産	レンコダイ、サバ生干し、アジ生干し、イワシ丸干し、イカ生干し、塩ワカメ、イナダ、カツオ、塩わかめ、あじ、スルメイカ、しじみ	✓	✓	小売	女	60	2
A-32	加工水産	乾燥海苔、乾燥昆布、イカ塩辛	✓	✓	小売	女	50	1
A-33	饅頭	饅頭各種、鯛せんべい	✓	✓	小売	男	60	2
A-34	加工水産	アジ丸干し、サヨリ丸干し、イワシ丸干し、フグ生干し、サバ生干し		✓	小売	女	40	2
A-35	野菜	竹の子、ぜんまい、三つ葉、ノビル	✓		生産	女	60	1
A-36	餅	餅、豆餅		✓	生産	女	60	1
A-37	野菜	かぶ、ほうれん草、生姜、里芋、とうがらし、米、たくあん、梅干、切り枝		✓	生産	女	60	1
A-38	野菜	竹の子、わらび	✓		生産	女	50	1
A-39	八百屋	竹の子、わらび、フキ、紅菜苔、梅干、鉢植え(各種)	✓	✓	生産	女	60	1
A-40	のり	のり	✓	✓	小売	女	40	1
A-41	加工水産	カツオの佃煮、サンマの佃煮、ふのり、乾燥ひじき	✓	✓	小売	女	50	1
A-42	竹細工	やじろべえ、竹とんぼ	✓	✓	生産	男	60	1

※種類の鮮魚は生魚全般、乾物水産は開き、一夜干し、丸干し、加工水産は瓶詰めなど、八百屋・青果は小売・卸しを生業、野菜は生産者の生業で区分

※加工水産は、塩辛・角煮などであり、干物水産は真丸干し、生干し、味噌干しの魚、加工農産は野菜を漬物・もろ味漬けなどの加工

※丸干しは身を開くことなく塩もしくは調味料を加えずに干すことであり、生干しは身を開いたうえで塩もしくは無味で干す、味噌干しはみりんダレに寝かせてから干す

※形態は、生産者、小売店および生産者兼小売店の3分割で、商品の種数も考慮

※年齢は、主観による判断

勝浦朝市B

No.	種類	品目	04/10	04/11	形態	代表者	年齢	人数
B-1	加工水産	サンマ干物、いわし丸干し、サバ生干し	✓	✓	小売	女	60	2
B-2	青果	玉ねぎ、みかん、マンゴー、落花生、干しいも	✓	✓	小売	男	50	1
B-3	野菜	トマト、きゅうり、サツマイモ、米、たくわん、梅干		✓	生産	女	80	1
B-4	干物水産	キンメ生干し、アジ生干し、サバスモーク、いわし胡麻漬、エボ鯛生干し、サンマ生干し、さんが焼きパック、サンマうの花漬		✓	小売	女		1
B-5	加工水産	イカ塩辛、干しヒジキ		✓	小売	女	40	1
B-6	露店(飲物)	ジュース、お茶		✓	小売	女	60	1
B-7	野菜	ぜんまい、葉大根、とうがらし、灰、里芋、セレベス、銀杏、ほうれん草、鉢植え(パンジーなど)		✓	生産	男	60	1
B-8	野菜	ねぎ、竹の子、セレベス、葉かぶ、漬物(大根)、漬物(からし菜)、漬物(高菜)、鉢植え(パンジー)	✓	✓	生産	女	70	1
B-9	加工水産	イカ一夜干し、サンマ味噌干し、生ワカメ、生ワカメ、のり、マグロ角煮、カツオ角煮	✓	✓	小売	女	60	1
B-10	干物水産	サバ生干し、アジ生干し	✓	✓	小売	女		1
B-11	野菜	竹の子、キャベツ、わらび	✓		生産	女	60	1
B-12	野菜	梅干、わらび、かぶ、竹の子、にんじん、ほうれん草、紅葉苔、セレベス、フキ、タラの芽	✓	✓	生産	女	70	1
B-13	わらび餅屋	わらび餅	✓	✓	生産	男	60	1
B-14	野菜	ねぎ、キャベツ、とうがらし、セレベス、わらじ、鉢植え(アップルミント)		✓	生産	女	70	1
B-15	野菜	万能ネギ、ミツバ、小松菜、ほうれん草、里芋		✓	生産	女	70	1
B-16	海苔	海苔、天草	✓	✓	小売	男	70	1
B-17	野菜	ツワ、せり、ほうれん草、パセリ、モロヘイヤ、米、サツマイモ、エシャロット	✓	✓	生産	女	50	1
B-18	野菜	せり、ねぎ、にんじん、エシャロット、餅、豆餅、おかき、米	✓	✓	生産	女	70	1
B-19	加工農産	米、もろみ、かぶの酢漬、煮物、山菜おこわ、白菜漬	✓	✓	生産	女	50	3
B-20	野菜	大根、フキ、竹の子、とうがらし、せり	✓		生産	女	70	1
B-21	青果	竹の子、えんどう豆、新玉ねぎ、サツマイモ、ジャガイモ、かぼちゃ、にんにく、生落花生、落花生、甘夏、でこぼん、りんご、切花(カーネーション)	✓	✓	小売	女	60	2
B-22	野菜	長ネギ、万能ネギ、フキ、エシャロット、サツマイモ、米	✓	✓	生産	女	50	1
B-23	野菜	サツマイモ、米、はやとうりの種		✓	生産	女	70	1
B-24	野菜	ほうれん草、小松菜		✓	生産	女	70	1
B-25	漬物	塩ウニ、たくあん、梅干、漬物各種	✓	✓	小売	女	60	2

※種類の鮮魚は生魚全般、乾物水産は開き、一夜干し、丸干し、加工水産は瓶詰めなど、八百屋・青果は小売・卸しを生業、野菜は生産者の生業で区分

※加工水産は、塩辛・角煮などであり、干物水産は真丸干し、生干し、味噌干しの魚、加工農産は野菜を漬物・もろ味漬けなどの加工

※丸干しは身を開くことなく塩もしくは調味料を加えずに干すことであり、生干しは身を開いたうえで塩もしくは無味で干す、味噌干しはみりんダレに寝かせてから干す

※形態は、生産者、小売店および生産者兼小売店の3分割で、商品の種数も考慮

※年齢は、主観による判断

御宿朝市

No.	種類	品目	04/12	04/17	形態	代表者	年齢	人数
1	野菜	万能ネギ、新玉ねぎ、ツワ、竹の子、種里芋、サラダ菜、ササギ豆、大豆	✓	✓	生産	女	70	1
2	野菜	フキ、にんじん、フロッコリー、紫キャベツ、生椎茸、大豆、小豆、黒豆、トマト、きゅうり、干しインゲン、ササギ豆、切苗ベニアズマ、万能ネギ	✓	✓	生産	女	70	1
3	加工水産	サバ開き、キンメ開き、乾燥ワカメ	✓	✓	小売	女	80	1
4	種苗	種各種、種芋各種、苗各種、肥料	✓	✓	小売	女	60	1
5	野菜	トマト、きゅうり、キャベツ、苗トマト	✓	✓	生産	女	80	1
6	切花	切花、苗各種	✓	✓	小売	女	60	1
7	刃物	包丁各種、カマ、クワ、スコップ、砥石	✓	✓	小売	男	60	1
8	野菜	竹の子、ワラビ、トマト、フロッコリー、サツマイモ、生姜、ほうれん草、切干大根、米、大根、キャベツ、切花、野菜苗、種芋	✓	✓	生・売	女	50	1
9	惣菜、加工水産、加工農産	野菜煮物、漬物、卵、アジ生干し、サバ生干し、干し昆布、干しスルメイカ、イカ味噌瓶詰、梅干、煎りゴマ、小豆、黒豆煮、五目豆煮、手巻昆布煮	✓	✓	小売	女	50	1
10	花植木	花植木(約40種)		✓	小売	女	50	1
11	野菜・果実	りんご、甘夏、清見オレンジ、ハッサク、サツマイモ、にんじん、生姜、ピーマン、新玉ねぎ、玉ねぎ	✓	✓	生産	女	40	1
12	鮮魚・加工水産	カツオ、ワラサ、キンメダイ、生ワカメ、干し海老、アジ干物、サバ干物、しらす、いりこ、樺太マス切り身		✓	小売	男	30	2
13	野菜	新玉ねぎ、長ネギ、キャベツ、キャベツ、サヤエンドウ、甘夏、苗花	✓	✓	生産	女	80	1
14	苗	種サツマイモ、種生姜、種セレベス、苗里芋(ドタレ)、苗里芋(八つ頭)、野菜苗(20種)	✓	✓	小売	男	50	1
15	野菜	切花各種、キャベツ、サヤエンドウ豆、大豆、甘夏、ツワ、イチゴ、サツマイモ、きゅうり	✓	✓	生・売	女	80	1
16	野菜	万能ネギ、竹の子、セレベス、サツマイモ、ごぼう、ハッサク、玉ねぎ、ジャガイモ、長ネギ、フキ、にんじん	✓	✓	生・売	女	70	1
17	野菜	キャベツ、大根、ほうれん草、小松菜、フロッコリー、里芋、玉ねぎ、米、ごぼう、長ネギ、レタス、じゃがいも、味噌、きゅうり	✓	✓	生・売	女	60	1
18	野菜	竹の子、きゅうり、新玉ねぎ、キャベツ、苗トマト、苗ピーマン、苗ナス、苗ねぎ、苗かぼちゃ、切花	✓	✓	生・売	女	60	1
19	野菜	長ネギ、米、ワラビ、イチゴ、ジャガイモ、きゅうり、キャベツ、大根、新玉ねぎ、苗かぼちゃ、万能ネギ、トマト、にんじん	✓	✓	生・売	女	60	1
20	野菜	甘夏、新玉ねぎ、サツマイモ、生椎茸、キャベツ、ほうれん草、漬物、イチゴ、切花	✓	✓	生・売	女	60	1
21	野菜	レンコン、甘夏、フキ、竹の子、長ネギ	✓	✓	生産	女	50	1
22	野菜	小松菜、キャベツ、大根、ほうれん草		✓	生産	女	70	1
23	野菜	竹の子、かぶ、小松菜、小松菜、長ネギ、ワラビ、大根	✓	✓	生産	女	60	1
24	野菜	長ネギ、新玉ねぎ、フチトマト、にんじん、大根、イチゴ、切花、ワラビ、苗かぼちゃ	✓	✓	生産	女	70	1
25	野菜	竹の子、レタス、フキ、かぶ、小松菜、ほうれん草、白菜、長ネギ、大根、エシャロット、ワラビ、生椎茸、せり、三つ葉、万能ネギ	✓	✓	生産	女	50	1

※種類の鮮魚は生魚全般、乾物水産は開き、一夜干し、丸干し、加工水産は瓶詰めなど、八百屋・青果は小売・卸しを生業、野菜は生産者の生業で区分

※加工水産は、塩辛・角煮などであり、干物水産は真丸干し、生干し、味噌干しの魚、加工農産は野菜を漬物・もろ味漬けなどの加工

※丸干しは身を開くことなく塩もしくは調味料を加えずに干すことであり、生干しは身を開いたうえで塩もしくは無味で干す、味噌干しはみりんダレに寝かせてから干す

※形態は、生産者、小売店および生産者兼小売店の3分割

※年齢は、主観による判断

国土技術政策総合研究所資料

TECHNICAL NOTE of NILIM

No. 559 January 2009

編集・発行 ©国土技術政策総合研究所

本資料の転載・複写のお問い合わせは

〒239-0826 神奈川県横須賀市長瀬 3-1-1
管理調整部企画調整課 電話:046-844-5019